

第十二項 棚田ノ如キ一筆内細小ノ區畫アリテ一々畦畔ヲ記入シ難キモノハ枚數ヲ掲記シ別紙ニ記載添付スルモ妨ケナシ

町村製圖略法

第一項 圖ヲ製スルニハ第一圖ニ示ス見透器(原名アリゲート)在來ノ板分見ノ器械ニ類スルモノヲ用ヒテ量地スルヲ可トス此見透器ハ使用簡易ニシテ地形ヲ直チニ製圖板上ニ縮寫スルヲ得ルモノナリ

第二項 見透器ハ左ノ附屬品ヲ具備スルヲ要ス  
羅針盤 製圖板 三脚臺

示心器(圖上ノ點ヲ地上ノ測點上ニ据ユルノ器械ナリ)垂球

第三項 字圖ハ六百分ノ一即チ壹間(即チ六尺)ハ曲尺ノ一分壹尺ハ曲尺ノ壹厘六毛六糸餘ニ相當スルヲ以テ實地ノ模樣ニヨリ前項ニ示ス示心器ヲ用ヒサルモ大差ヲ生スルノ憂ヒナシ故ニ從前ノ板分見法ヲ用ユルモ亦妨ナシ

第四項 製圖ニ若手セント欲スルモハ先ツ左ノ諸品ヲ用ヒテ量地ス可シ  
見透器附屬品共

間繩(苧繩竹繩或ハ株欄繩ノ類ニテ成ルヘシ伸縮セサル品ヲ用フヘシ測鏡又ハ卷尺(原名テーラ)ヲ用フルハ最モ良シトス)

測標(即チ梵天ニシテ竹竿ノ真直ナルモノヲ用ヒ標旗ヲ付スヘシ尤モ紅白又ハ黑白ノ塗分ノ竿ヲ用フルヲ善トス)

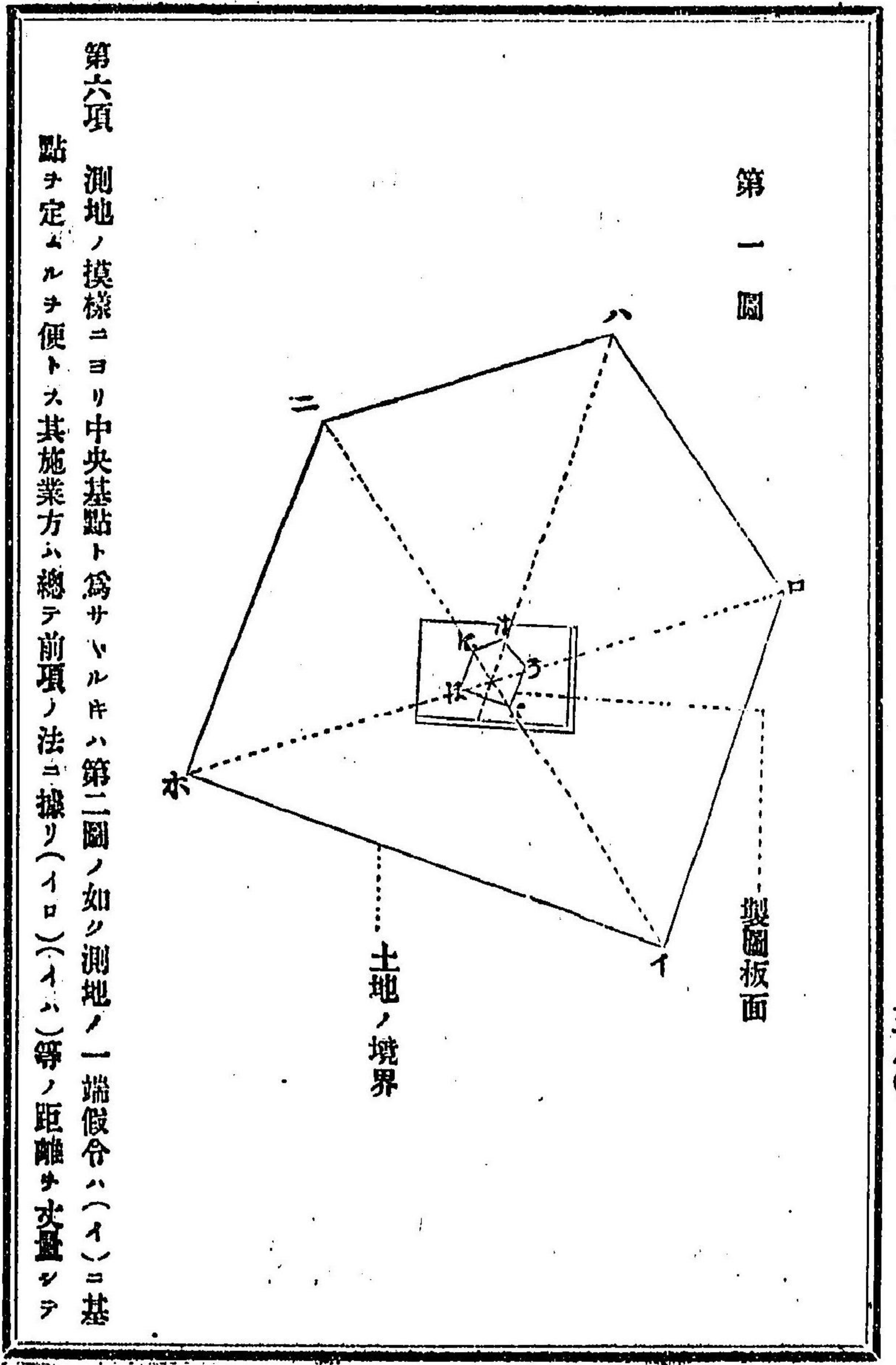
製圖紙(美濃紙ヲ用ユヘシ但シ板上薄糊付又ハ紙留或ハ輪ゴム等ヲ以テ風散セサル様注意スヘシ)

兩脚規(原名コムパス)

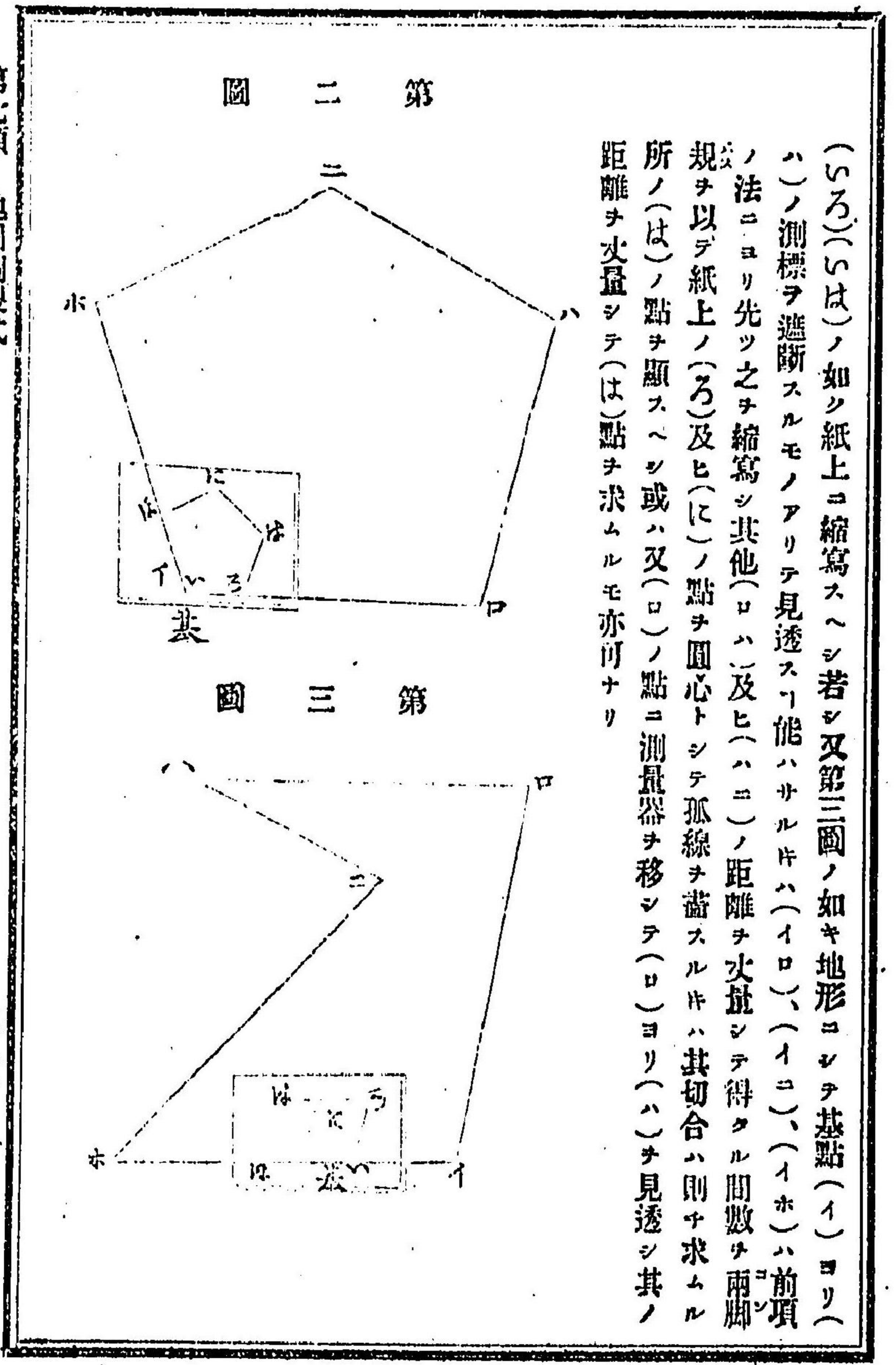
三角規

鉛筆

第五項 宅地田畑等地面平坦ニシテ樹林家屋等ノ見透シテ妨ルモノナキ一筆ノ土地ヲ板上ニ縮寫スルニハ第一圖ノ如ク其土地ノ中央ト視認メタル位置ニ製圖板ヲ据ヘ(製圖板ニ製圖紙ヲ糊着シ羅針盤ヲ其上ニ付着シ)見透器ニ附着セル水準器ニ據リテ能ク水平ナラシメ製圖板ヲ回轉シテ羅針ノ方位ヲ正シ此羅針盤ヲ定規トシ製圖紙端ニ南北線ヲ畫シ製圖板ニ示心器ヲ咬セ測點ノ中心ヲ定ム即チ基點ナリ後此點ニ見透器ノ零點ヲ宛テ置キ以テ(イ)ノ測標ヲ見透シテ其距離ヲ丈量シ得タル處ノ間數ヲ虛線ニテ畫シ其線端ニ(ウ)ノ符號ヲ印シ且ツ其傍ニ間數ヲ記載スヘシ次ニ又見透器ヲ轉シ(ロ)ノ測標ヘ向ケ基點(中)ヨリ(ロ)ノ測標ヲ見透シ其距離ヲ量リ虛線ヲ畫シ其線短コ(ろ)ノ符號ヲ印シ間數ヲ傍記シ且(イロ)則チ紙上ノ(いろ)ノ間ニ實線ヲ畫スヘシ  
而シテ順次前ノ如ク(ロハ)(ハニ)(ニホ)(ホイ)等ニ實線ヲ畫スレハ自カラ其土地ノ實形ヲ板上ニ顯ヌヲ得ヘシ故ニ(イ)ヨリ(ロ)(ハ)(イ)ヨリ(ハ)(イ)ヨリ(ハ)等ノ距離ヲ知ラント欲セハ先ツ曲尺ヲ以テ(ウ)ヨリ(ろ)(ろ)ヨリ(ハ)(ハ)ヨリ(ハ)等ノ距離ヲ測リ以テ其間數ヲ得ルナリ



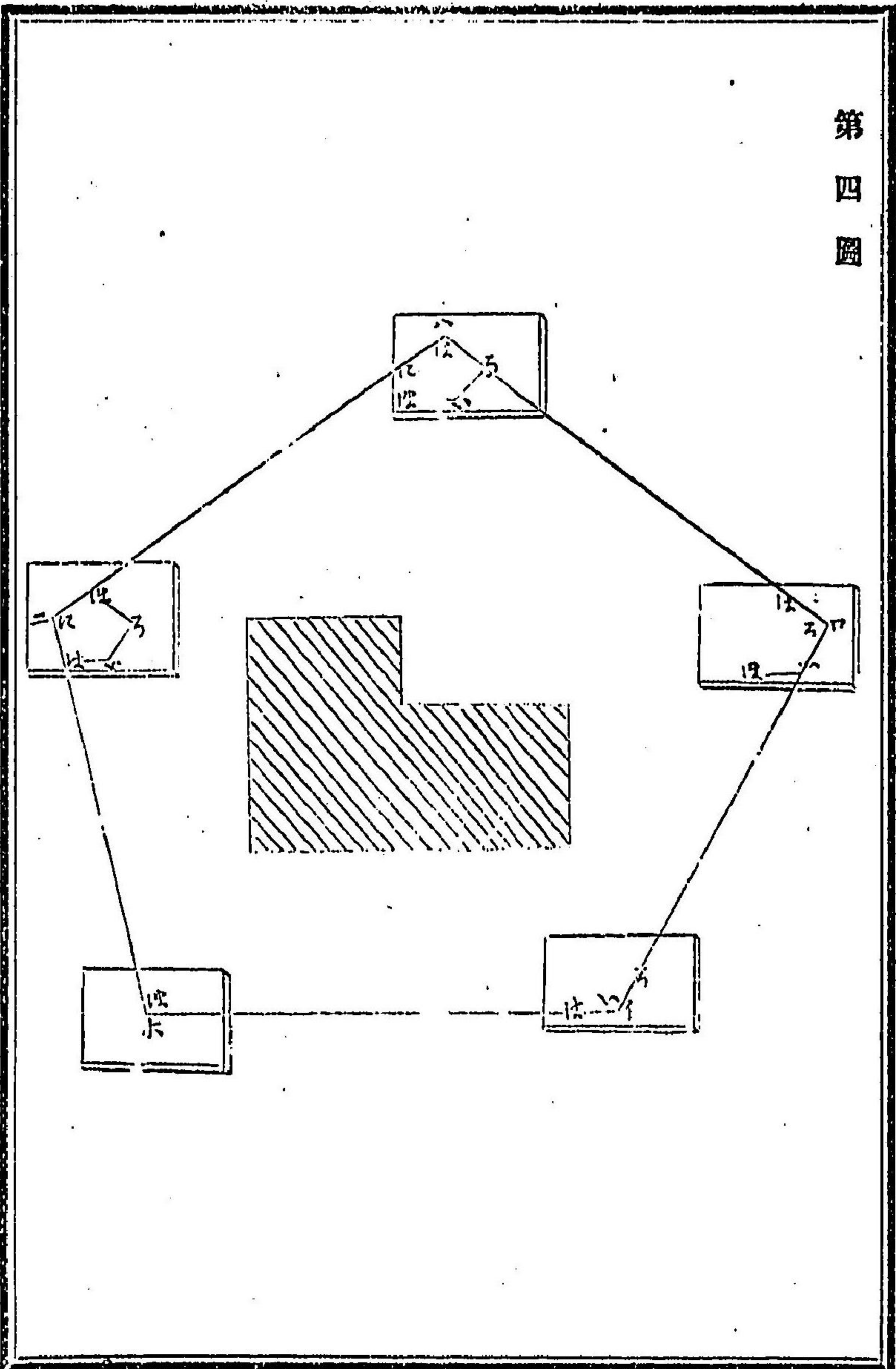
第六項 測地ノ模様ニヨリ中央基點ト爲サハルキハ第二圖ノ如ク測地ノ一端假令ハ(イ)ニ基點ヲ定ムルヲ便トス其施業方ハ總テ前項ノ法ニ據リ(イロ)(イハ)等ノ距離ヲ丈量シテ



(イロ)(イハ)ノ如ク紙上ニ縮寫スヘシ若シ又第三圖ノ如キ地形ニシテ基點(イ)ヨリ(ハ)ノ測標ヲ遮斷スルモノアリテ見透スニ能ハサルキハ(イロ)(イハ)(イニ)(イホ)ハ前項ノ法ニヨリ先ツ之ヲ縮寫シ其他(ロハ)及ヒ(ハニ)ノ距離ヲ丈量シテ得タル間數ヲ兩脚規ヲ以テ紙上ノ(カ)及ヒ(ケ)ノ點ヲ圓心トシテ弧線ヲ畫スルキハ其切合ハ則チ求ムル所ノ(ハ)ノ點ヲ顯スヘシ或ハ又(ロ)ノ點ニ測量器ヲ移シテ(ロ)ヨリ(ハ)ヲ見透シ其ノ距離ヲ丈量シテ(ハ)ノ點ヲ求ムルモ亦可ナリ

第七項 數筆ヲ連接シテ製圖セントスル片或ハ第四圖ノ如キ測内地ニ家屋又ハ森林丘阜其他ノ障礙物アリテ各測點ヲ見透シ能ハサル片ハ先ツ(イ)ヲ基點トナシ前法ノ如ク(イホ) (イロ)ヲ見透シ其ノ距離ヲ丈量シテ(シは)(スろ)ノ實線ヲ引キ夫ヨリ製圖板ヲ(ロ)ノ處ニ移シ先ツ見透器ヲ(しろ)ノ線ニ正當セシメ(イ)ヲ見返シ以テ板ノ位置ヲ定メ而シテ後(ハ)ヲ見透シ且ツ其距離ヲ丈量シテ紙上ニ(ろは)ノ實線ヲ引クハ又測量器ヲ(ハ)ニ移シ見返スニ等總テ(ロ)點ニ於ケルカ如ク等シキ順序ヲ以テ施業スヘシ最後ニ至テ(ニホ)ノ點接合スレハ全ク地形ヲ製圖紙ニ寫シテ誤謬ナキモノト認ムヘシ但シ終リニ至テ接合セサル間々之アルモ故ニ若シ他點ノ見ユルアラハ見透シ置キ誤謬ヲ正スノ用ニ供ス可シ

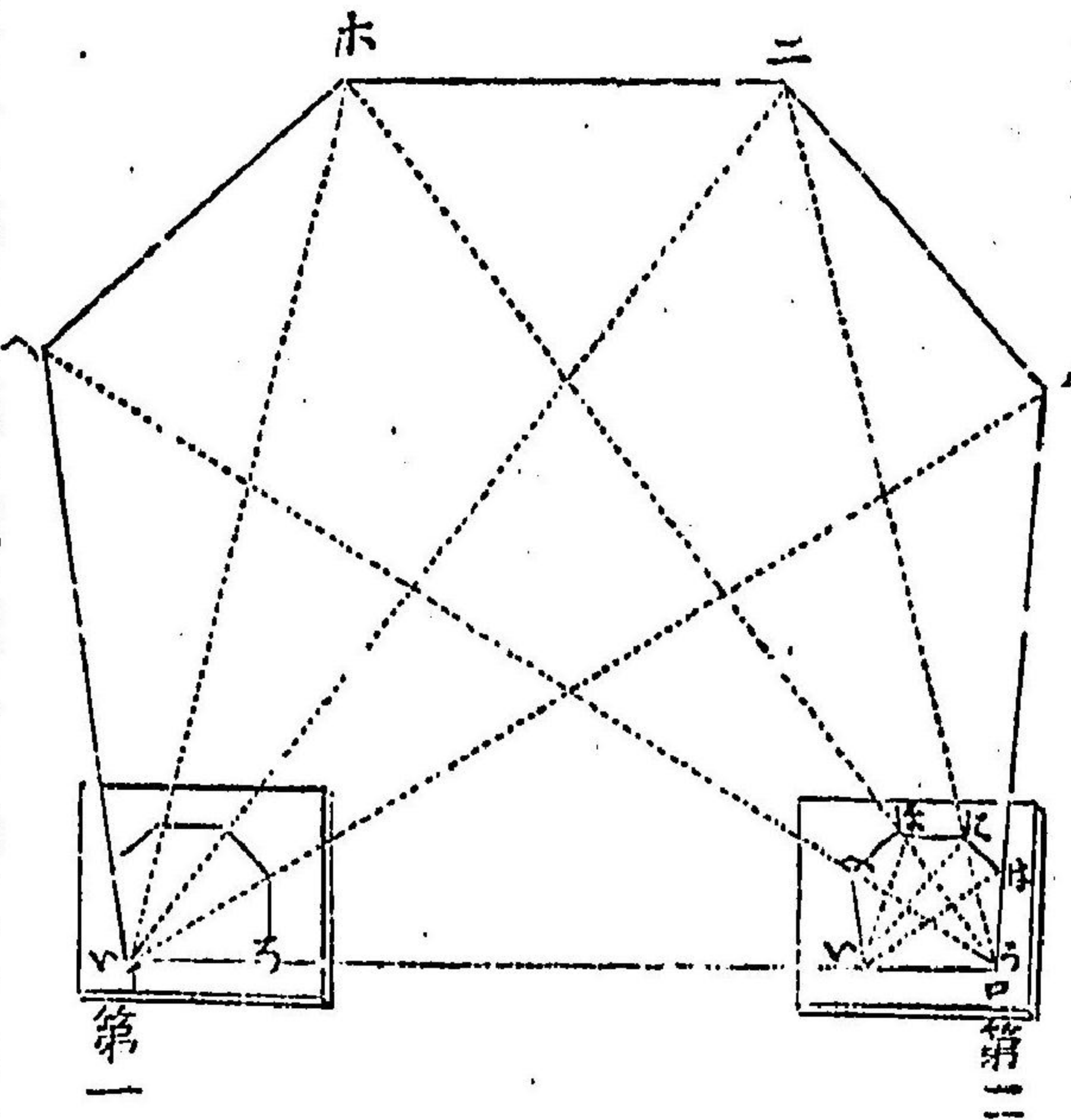
第四圖



第七類 地圖調製式

第八項 池沼等一目シテ四至境界ヲ見透ステ得ルト雖モ自由ニ丈量ヲナシ難キ場合ニ於テハ  
 第五圖ニ示ス如ク池沼ノ邊ナル(イ)及ヒ(ロ)ノ二點ニ於テ施業スヘシ其方法ハ總テ前  
 項ニ掲グルルカ如クニ第一(イ)ニ於テ(ロハニ)等ナル各測點ヲ見透シ各其方向ニ虛  
 線ヲ書シ(イ)(ロ)間ノ距離ヲ丈量シテ其得タル間數ニ依テ紙上ニ(ろ)ノ點ヲ定メ測量  
 器ヲ(ロ)ニ移ス可シ第二(ロ)ニ於テ前ノ如ク各測點ヲ見透ス片ハ(ハ)ニ(ハ)ニ(ハ)ニ(ハ)ニ(ハ)ニ(ハ)ニ  
 線ノ交叉スル處ノモノハ即チ(ハニ)等ノ各測點トス故ニ(ハ)ニ(ハ)ニ(ハ)ニ(ハ)ニ(ハ)ニ(ハ)ニ  
 片ハ則チ現地形ヲ得ルナリ故ニ若シ周圍其他ノ間數ヲ求メント欲セハ前法ノ如ク曲  
 尺ニテ量ルルハ周圍ノ間數ヲ得ヘシ

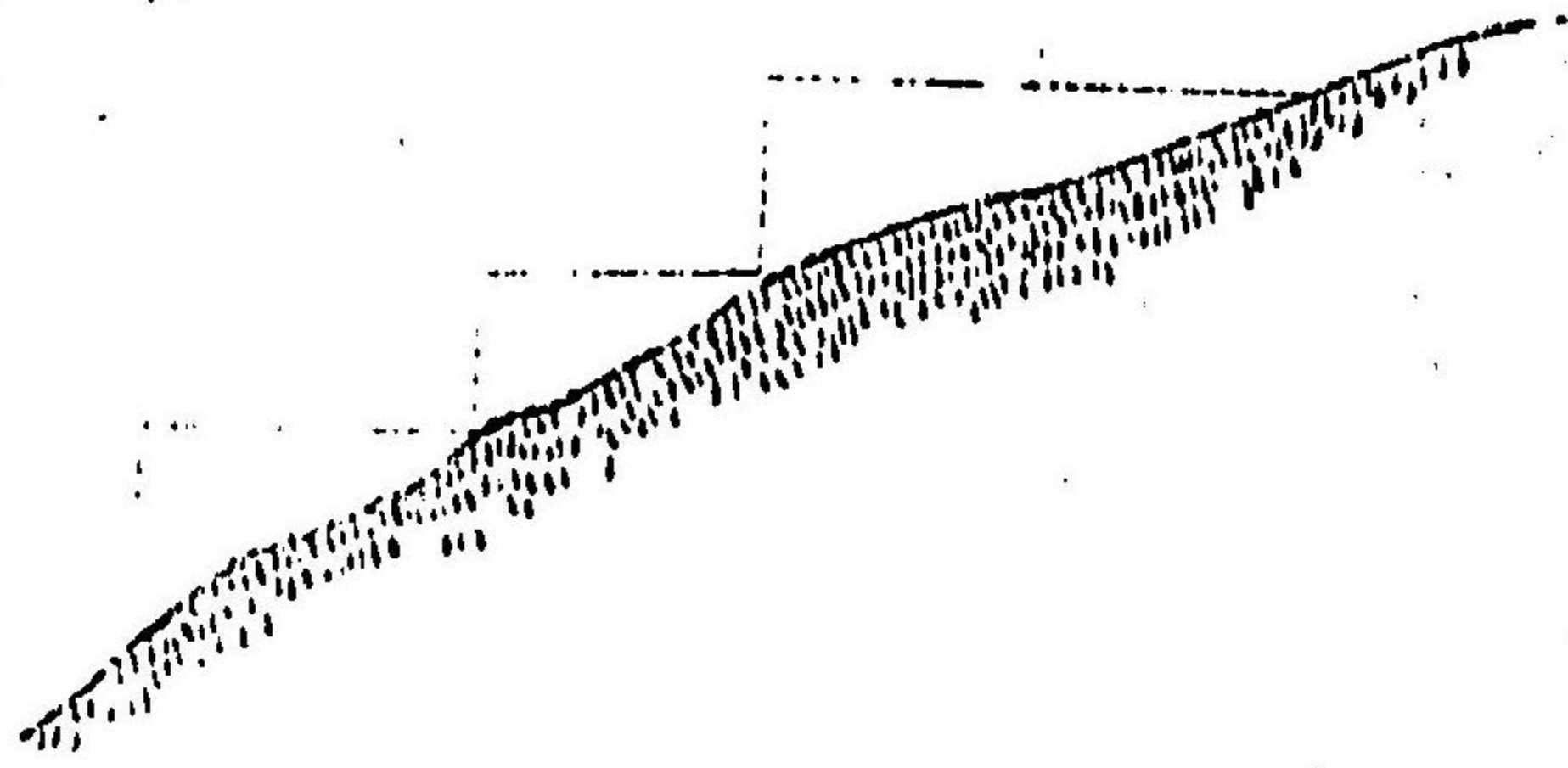
第五圖



第九項 距離ヲ丈量スルハ勉メテ水平ニ繩ヲ引ク可シ然ラサルハ自然差ヲ生スルモノナリ且  
 第六圖ノ如キ斜面地ニ於テハ其繩ノ一端ヨリ垂球ヲ地上ニ垂レテ順次丈量スヘシ然ル  
 片ハ眞ノ水平距離ヲ量リ得ルナリ

第七類 地圖調製式

第六圖



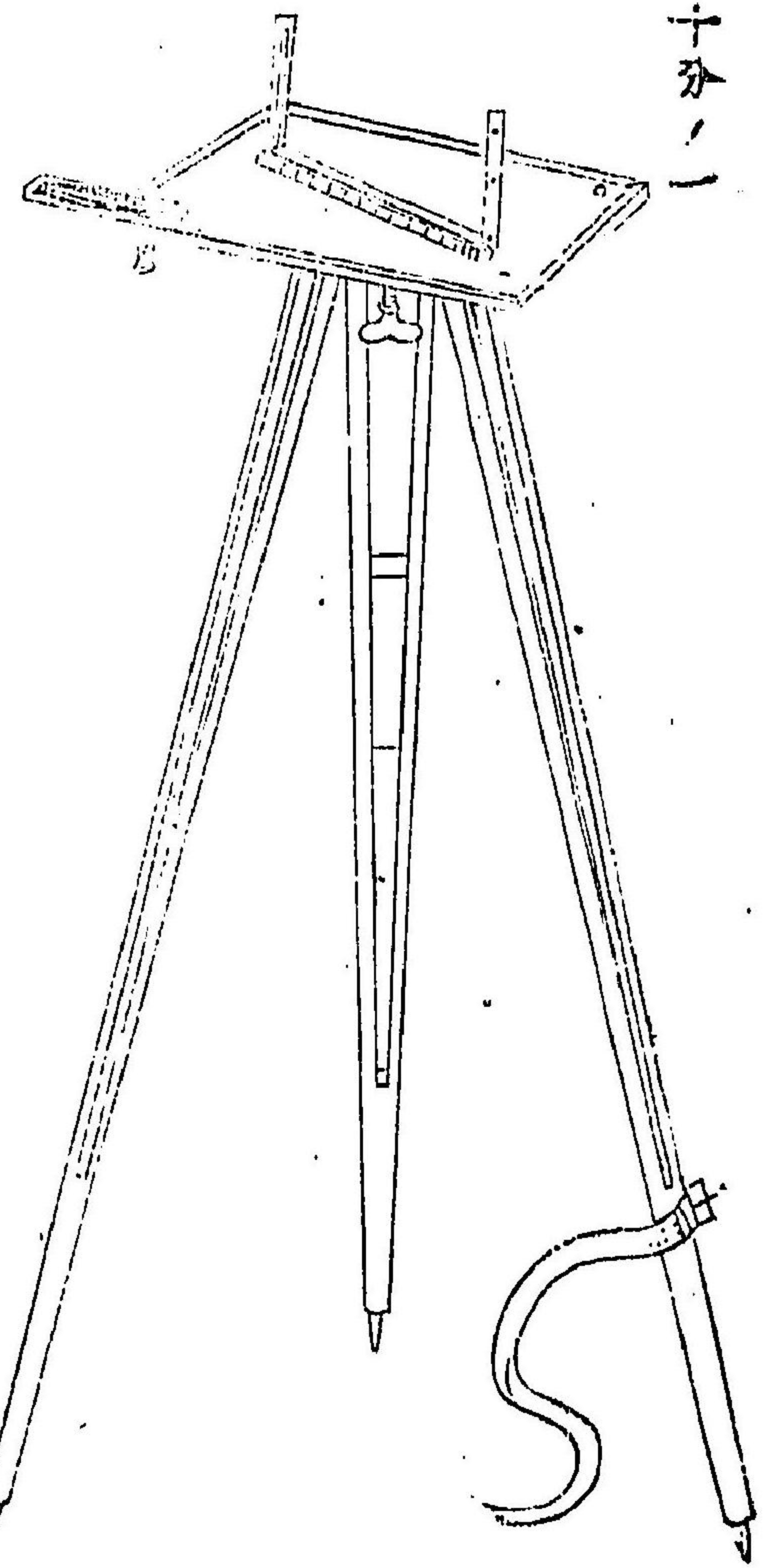
三八六

第十項

市街若シハ連橋ノ町村圖ヲ製スルニハ三千分ノ一ニ縮ムルノ式ナルヨリ最初地形ヲ縮寫スルニ際シ曲尺ノ一分ヲ以テ現地ノ五間ノ割合トナセハ三千分ノ一ナル圖ヲ得ヘシ然レバ道路溝渠等ノ屈曲多キ場所ヲ精密ニ圖セントスルニハ一間ヲ曲尺ノ二厘ト

ナス故其割合小コシテ其實ヲ失フノ恐レアレハ率ロ六百分ノ一ニ之ヲ製シ而シテ五分ノ一ニ縮圖スル方却テ誤リ鮮ナカルヘシ但シ縮圖法ハ基盤目ノ斷紙ヲ製シテ曲尺又ハ比例兩脚規ニ據リ縮寫スルカ或ハ縮圖機械ヲ用ユルモ便宜タルヘシ然レバ不善長ナル機械ハ却テ誤謬ヲ生スコレ縱カニ曲尺ノ二厘ハ壹間ニ當ルヲ以テナリ  
第十一項 畦畔ヲ測ルトキ其幅等シキトキハ製圖上ニ於テ順次平行シテ適宜ニ線ヲ畫シテ畦畔ヲ圖スヘシ其等シカラサルモノハ箇所毎ニ丈量シテ其廣狹ヲ示スヘシ  
第十二項 羅針盤ヲ使用スルハ鐵器ヲ避クヘシ

第七圖



十分ノ一

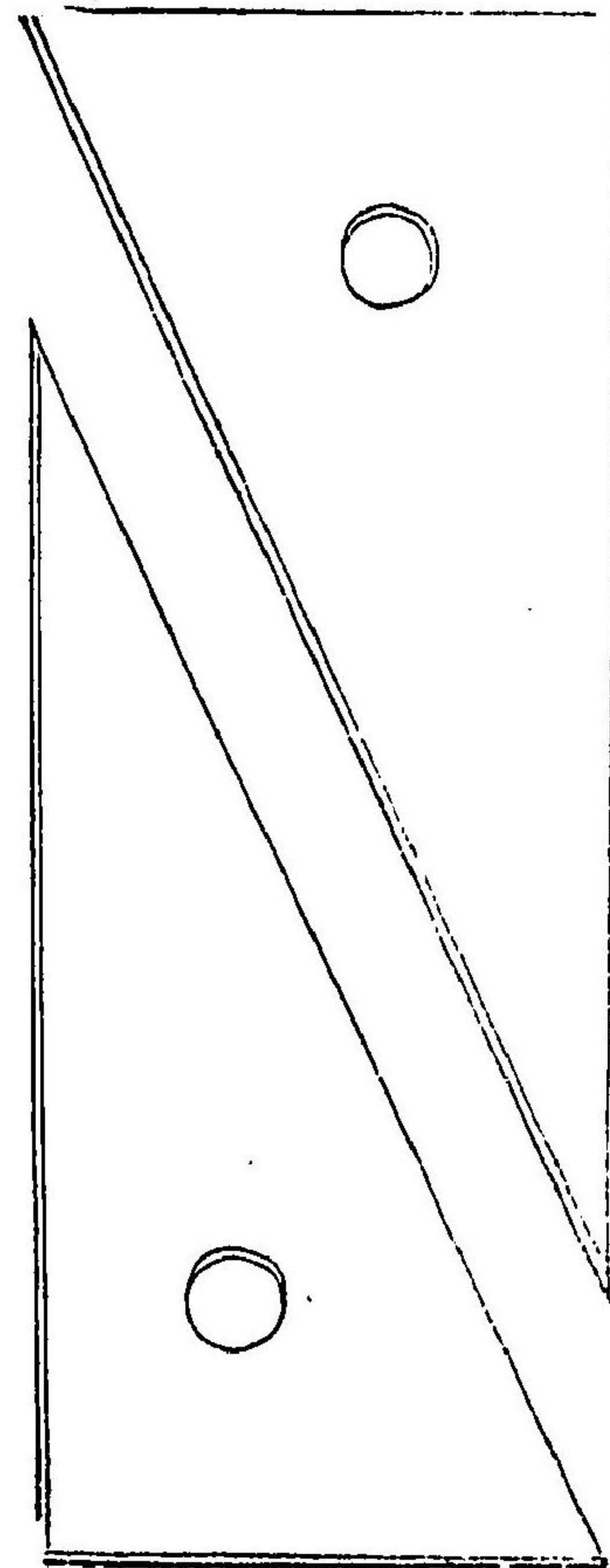
羅針盤

三分ノ一

六分ノ一

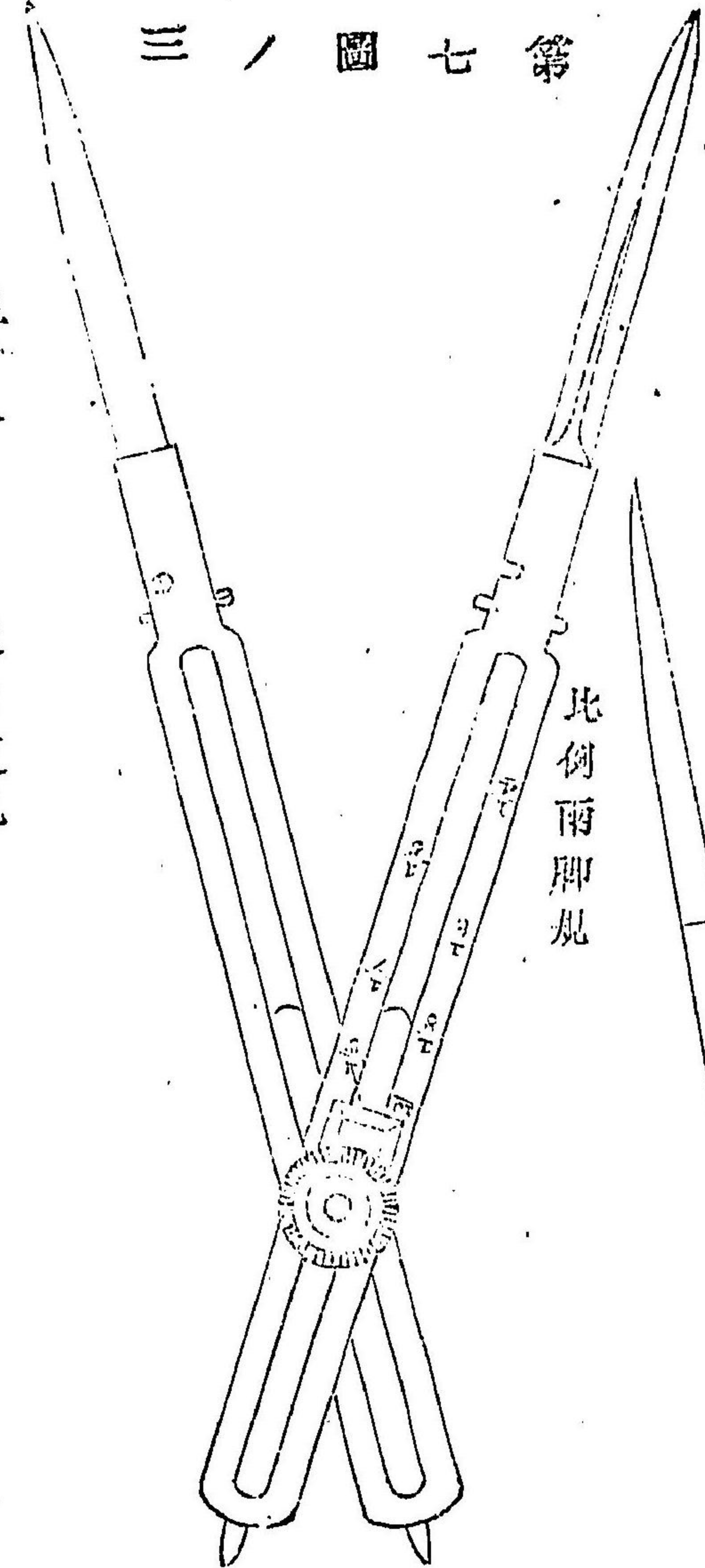
三脚盛  
十分ノ一

三ノ圖七第



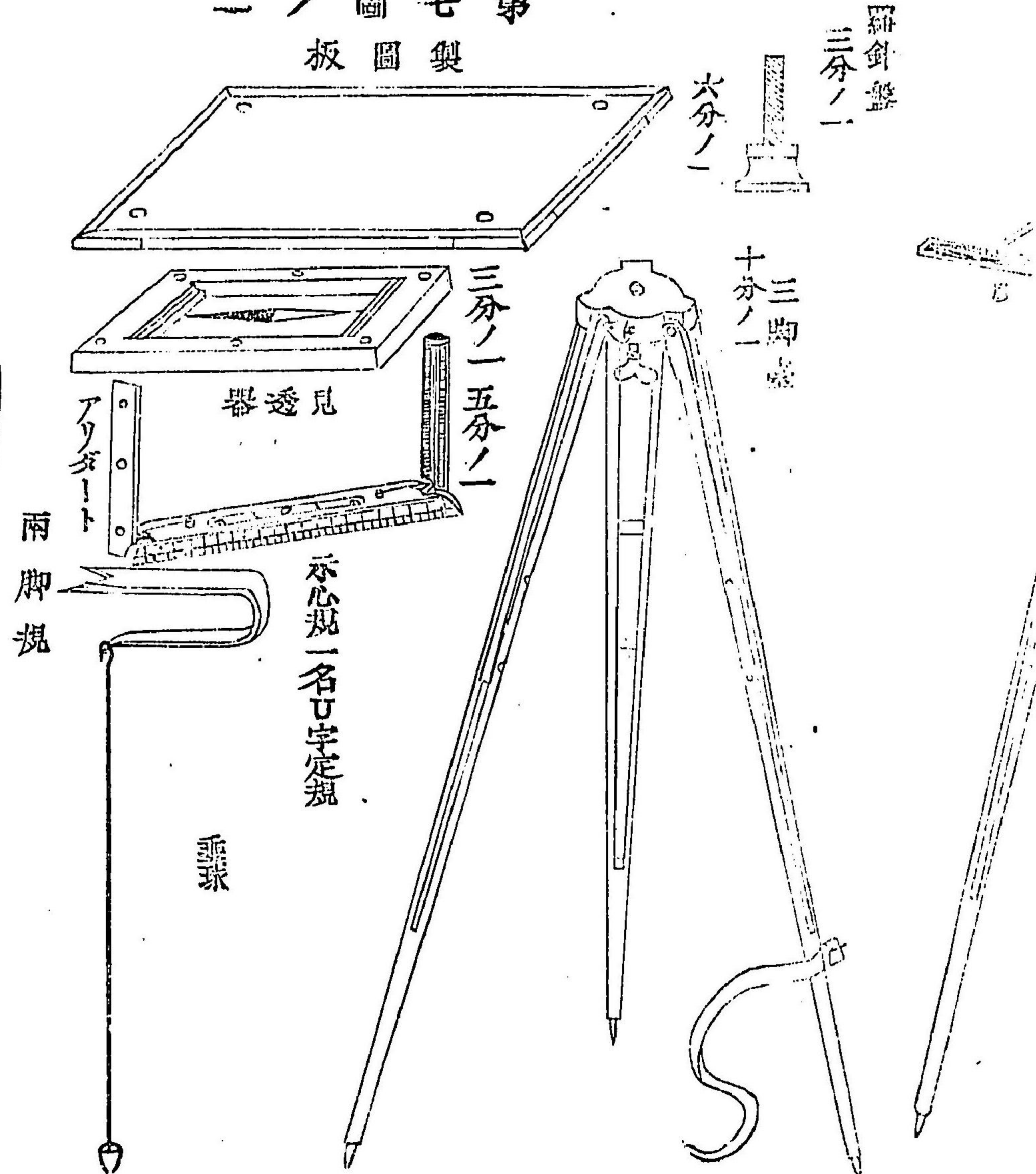
三分ノ一 三角定規

三ノ圖七第



比例兩脚規

二ノ圖七第  
板圖製



羅針盤  
三分ノ一

六分ノ一

三分ノ一  
十分ノ一

器透尺

三分ノ一 五分ノ一

兩脚規

示心規一名U字定規

垂線

(地圖離形略ス)

●明治廿一年(七月)縣令甲第八十三號

昨二十年十月縣令甲第百二十三號ヲ以テ相違置候地圖ノ儀ハ來ル廿二年十二月限リ調製差出  
スヘシ

但地租改正以來變換開墾及分合筆等ノ爲メ地盤ニ甚シキ錯雜ヲ來セタル村落ハ地圖調製以  
前左ノ離形ニ倣ヒ一筆限表ヲ製シ地番更正ノ義願出ヘシ

第七類 地圖調製式

地番更正一筆限表

字	舊	番	新	番	地	目	反	別	持	主	姓	名
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

●明治廿二年(一月)諭達第二號  
 地圖調製ノ義ニ付テハ明治二十年(十月)甲第百二十三號全二十一年(七月)甲第八十三號ヲ以テ縣令ヲ發シ尋テ(七月)諭達第六號ヲ布キ示諭致置候如ク元來地圖ノ要ハ每地ノ實形ヲ詳カニ各自ノ所有地境界ヲ確實ニ以テ土地百般ノ徵証ニ供スルモノコシテ其實地ニ適スルト否トハ皆土地所有者ノ利害ニ關係及ホスモノナレハ宜シク精覈ナル地圖ヲ町村ニ備ヘ土地徵証ノ實用ヲ全セサル可ラス然ルニ從來管下各町村ニ保存セル地引圖ハ概テ紊亂錯雜ヲ究メ其甚クシキニ至ツテハ土地ノ方位ヲ失シ或ハ每筆ノ位置ヲ轉倒シ又ハ大步ノ地形却テ小歩ノ地形ヨリハ狭小ニ圖畫セシ類等不少シテ到底實用ヲナサス是レカ爲メ各地主間又ハ各隣村間等ニ往々境界爭ヒテ生シ互ニ其弊害ニ苦ミシモノ不勘一度其弊害ニ困難ヲ感シタル町村ハ疾ク其地圖ノ鞏固ニセサル可カラサルヲ悟リ既ニ新繪圖調製ヲ結了シタル向モ有之候處未ダ其經驗ナキ町村ニ在ツテハ或ハ等閑ニ附テ去リ候哉モ難計然ルニ若此僅在再更正ノ期ヲ延延スルハ土地ノ變遷年一年ヨリ大甚クキテ加ヘ遂ニ意想外ノ費用ヲ消耗スルコトアラサレハ調製シ能ハサルニ至ルヘシ今ヤ地押事業ニ經驗ヲ重ネタル技術者ヲ利用シ調製セルムルハ熱練ノ手ヲ以テ敏活ノ運動ヲ爲シ幾多ノ費用ヲ節シテ完全ノ繪圖ヲ調製シ得ヘシ若シ是レヲ他日

ニ延ハレ不熟練ノ手ニ委託シ遲慢ノ運動ヲ以テ調製スルモノニ比スレハ其利害ノ分ル、所如何シヤ智者ヲ待タズシテ明瞭ナリ愛テ以テ可成此際引續キ調製シ保定ノ期限即チ本年十二月申迄ニ成功ヲ奏スルハ各町村利害ノ爲メ最希望スル所ナリト雖モ又民間經濟ノ情況ヲ顧ミレハ前陳ノ利害ヲ顧ミルニ逸アラサル町村モ無之トハ難申ニ付萬一差向キ調製難致事情ニ依リ保定ノ期限内調製シ能ハサル町村モ有之候ハ、其事由申出ニ依リ特ニ來廿三年十二月迄ノ間ニ於テ相當ノ延期可差許候條篤ト利害ヲ推究シ不得止町村ハ其理由ヲ述ヘ延期ノ義申出ヘシ

○地籍

●明治十八年(六月)乙第七十六號  
 今般縣下河溝渠道路堤塘地籍帳圖調製候ニ付別紙取調要項ニ依リ來十月三十一日限リ戸長ニ於テ取調置キ主任官ノ指揮ヲ待テ可差出此旨相違候事  
 河溝渠道路堤塘地籍帳圖取調要項  
 第一 河溝渠道路堤塘ハ官有地民有地共總テ現在ニ就キ取調フルモノトス  
 但官有地ト民有地ハ勿論區別スルモノトス  
 第二 民有地ハ地券ヲ下付シタル者ニ付其反別筆數ハ券面ニ據ルヘシ  
 第三 官有地ハ舊簿類ヲ收拾シ之ニ徵憑シテ其判然タル反別ヲ取調フヘシ  
 但町村ニ於テ實地ヲ丈量シ其反別ヲ確定スルハ適宜ナルヘシト雖モ其費用ハ町村ニ歸ス



第四 前項書類ノ徵憑スヘキモノ無キ片ハ地租改正ノ際調製シタル地引繪圖ノ圖式ニ據リテ反別ヲ算出スヘシ

但地引繪圖ニ描漏ノ小川作馬道江丸等アルキハ其接壤ノ田畑山野ヨリ推測シ反別ヲ定ムル等適宜其方法ヲ立ツヘシ

第五 前項求積ノ法ハ其幅ニ長ヲ乘シテ平積ヲ得ヘシ若シ幅ノ廣狹一様ナラサルキハ其箇所毎ニ算出スルヲ至當トス然レモ一々之ヲ區別シ能ハサルキハ平均幅ニ長ヲ乘シテ平積ヲ求ムヘシ

第六 道路堤塘破壊シテ未ダ舊形ニ復セスト雖モ其地種目ヲ變更セサルモノハ原反別ヲ取調フヘシ

第七 官有地ニ係ル筆數ハ皆ナ一村内ノ一線ヲ以テ一筆トシ各之ニ一二三等ノ番號ヲ付スヘシ但飛地ニ在ル線ハ別ニ一筆トスヘシ

第八 第五項ノ場合ニ於テ一筆内箇所毎ニ算出スルキハ前項一二三等番號ノ外ニイロハ等ノ記號ヲ付スヘシ

第九 第七項ノ場合ニ於テ河溝渠道路等各相交又スルモノハ第一ノ線ヲ一延線トシ第二ノ線ヲ分斷シテ二筆ト爲シ其番號ハ甲乙ニ別ツヘシ

第十 道路ニシテ堤塘ヲ兼テ堤塘及河ノ道路ヲ兼ルモノハ其兼用ノ事ヲ取調ルハ勿論ナリ但一線ニシテ其一部分兼用スルモノハ兼用ノ部分ト然ラサル分ト分テ二筆トスヘシ

第十一 道路ノ中河溝渠ノ上ニ架設セル橋梁アルキハ橋梁ノ面積ヲ道路ノ外反別ニ取調ヘ外書ト爲スヘシ

第十二 他村トノ疆界ニ係ルモノハ關係町村ノ戶長確認シテ帳圖ニ連署スルヲ要ス且地圖ニハ明ニ其疆界ニ係ル全体ヲ顯ハシ之ニ疆界線ヲ書スヘシ

第十三 河溝渠道路等ハ皆ナ其大小ニ拘ラス各其地籍ト爲ヘキ者ヲ云フ然レモ其最小ナル者ニテ既ニ他ノ地目中ニ孕ルカ如キ類ハ此限ニアラス

第十四 凡河溝渠ノ流水堤塘ニ及フモノハ平水界即チ地盤ヲ以テ其幅ヲ測ル但堤塘外ニシテ兩岸ニ在ル石砂草地ハ流水敷地即チ河溝渠ト見做シテ之ヲ測ル尤堤塘外ナラモ既ニ地種目ヲ付セル田畑等ノ如キハ勿論敷地ニ算入スヘカラス

第十五 堤塘ナキ河溝渠ノ幅ハ兩岸ノ鈎背及平水ニ拘ラス地盤上部ノ尺度ヲ以テ之ヲ測ル

第十六 凡道路堤塘ノ幅ハ敷地ヲ以テ之ヲ測ル然レモ道路堤塘ノ腹ニテ河溝渠ノ平水界即チ地盤以下ニ在ルモノハ算入スヘカラス

第十七 道路等凸凹峻阪アルハ斜面積ヲ以テ測リ其凸凹若シハ登リ下リ等ヲ平地ト區別スヘシ

第十八 一筆毎ニ其字名ヲ付スヘキハ勿論河ハ舊等級ヲ付シ道路ハ國道ハ舊等級縣道以下ハ各等級ヲ付シ其他山道作場道ヲモ區別スヘシ

第十九 參考トシテ一筆毎ニ隣村ニテノ異唱有無ヲ取調ヘ道路堤塘ハ馬踏高及車馬ノ通否ヲ取調ヘ河溝渠ハ平水沾潤漲溢ノ深淺概略流材般筏ノ通否特ニ堤塘ハ堤防ノ河溝渠名ヲ取調

第二十 道路堤塘等付替ノ爲メ新工事若手中ニテ未タ落成ナ告ケサルモノハ參考トシテ其目  
 論見ノ長幅及反別ヲ取調ヘ付記スヘシ

第二十一 民有荒地ニシテ現在河ト成ルハ固リ河敷ニハアラスト雖正外書トシテ其反別筆數等  
 ヲ取調フヘシ

第二十二 道路堤塘等一線ニテ官有地民有地相混スルモノハ其通算延長ヲモ取調ヘ且辰村ニ係  
 ル道路ハ元標(人家所在ノ中央ニシテ通路ニ接スル所トス)ヨリ村界迄ノ距離町敷ヲモ取調  
 フヘシ

第二十三 前各項ニ據リ取調ヘタル帳圖ハ各二通ヲ縣廳ニ差出スヘシ縣廳ニ於テハ之ヲ調査シ  
 誤謬ナシト認ルル片ハ之ニ割印シ其一通ヲ町村ヘ下戻スヘシ

第二十四 町村ニ於テ帳圖ヲ取調ヘ了ル片ハ主任官ヲ派遣シ實地點檢セシムルコト有ルヘシ

第二十五 實地點檢ニ際シ誤謬アリト認ルル片ハ主任官ニ於テ實地ヲ丈量シ自然其接臨ノ田畑山  
 野等ノ丈量ニ及ホスコト有ルヘシ

第二十六 取調帳ノ終リニハ其戸長關係ノ町村戸長ト連署シ取調濟ノ月日ヲ記スヘシ(他縣ニ  
 係ルモノハ地圖ノ外ハ連署ヲ要セス)

但用紙ハ總テ内山際紙ニテ袋綴トスヘシ

第二十七 圖法ハ一町チ一寸貳分トシ符合及彩色ハ必ラス圖式ニ據ルヘシ且隣村ニ接續スル位  
 置及飛地ハ此度ノ取調目ニ關係ナキモノト雖モ特ニ注意ヲ加ヘテ明瞭ニシ最モ方位ヲ正ス

第二十八 帳圖書式ハ左ノ如シ

河溝渠道路堤塘地籍取調帳

何國何郡	何町(村)
河ノ部	何川又名何川
舊何等川	官有地
何程	内譯ニ代ルニ
一反別	但平均幅何程
内	長何程
イ印 幅何程	
長何程	
此反別何程	
ロ印 幅何程	
長何程	
此反別何程	
ハ印同前	

外ニ民有荒地何程此筆數何程

(參考)此河隣村何村ニテハ何川ト唱ヘ何村ニテハ何川ト唱フ(他村ニ關セサル片ハ以上  
 ナ除ク)本村内長何程

平水深キ處何程淺キ處何程活湖何程隈溢何程又流材若クハ大小船流船筏ノ通否ヲ記ス

何番甲 荷何等川 何川又名何川 官 有 地

一反別 以下同前

何番乙 同前 (以上飛地ニ在ルモノハ川名ノ下ニ「飛地字何ニ在リ」ト記スヘシ)

溝渠ノ部 (河ニ準ス但參考ノ末段ニ用水堀ナレハ何町歩ノ田ニ灌溉シ惡水堀ナレハ何町歩ノ惡

水ヲ排洩スル旨ヲ加記スヘシ) 又民有地ナレハ左ノ例ニ據ル但參考其他ハ官有地ニ同シ

何番 舊何等川 何川又名何川 民有地第二種

一反別 地券面ニ據ル (參考云々)

何番 同前 持主 何 誰

一反別 地券面ニ據ル (參考云々)

道路ノ部

(河ニ準ス但堤塘兼用ノモノハ反別内譯ノ下ニ「堤塘兼用」ト記ス)

(參考ニハ左ノ如ク記スヘシ)

(參考) 此道隣村何村ニテハ何道ト稱シ何村ニテハ何道ト唱フ (他村ニ關セサルハ

以上ヲ除ク) 里程長何程馬踏何程高何程 元標ヨリ何(方位)ノ方向村界迄里程何程何ノ方向村迄里程何程

又馬車人力車大八七六六荷車小荷車ノ通否ヲ記ス (又橋梁アル片ハ反別内譯ノ次ニ左ノ如ク記スヘシ)

外橋梁何箇 何 橋 木橋土橋丸木橋等ニ區別ス

長何程 幅何程

二ハ 何 橋 其他總テ同前 (又凸凹峻坂ナル片ハ内譯ノ下ニ「道路總テ凸凹」トカ又ハ「元標ヨリ又何方位ヨリ又何

處ヨリ何町何間尺登リ或ハ下リ」トカ記入シ平地ナレハ「平地」ト記入スヘシ)

(又堤塘ヲ兼用スルモノ、參考ニハ末項ニ加記スルヲ左ノ如シ) 堤塘トシテハ何河何溝渠ノ堤防トス

堤塘ノ部

(道路ニ準ス但參考ノ末項ニハ何川何溝渠ノ堤防ト加記スヘシ)

○附記

(新工事着手中ノ河溝渠道路堤塘ヲ記スル略ホ前四目ノ式ニ準スヘシ)  
右明治何年何月日取調相違無之候也

年月日  
右ノ疆界相違無之ニ付連署候也

何郡何村何村	戸長	何	誰印
隣疆何郡何村何村	戸長	何	誰印
隣疆何郡何村何村	戸長	何	誰印

新潟縣令宛

(圖式略ス)

郡區役所 戸長役場

●明治廿二年(三月)訓令甲第廿六號  
河溝渠道路堤塘地籍帳圖調製ノ義ニ付明治十八年(六月)乙第七十六號全十九年(五月)乙第六十五號ヲ以テ達置候處右差出未済ノ分ハ二十年(十月)縣令甲第百廿三號地圖ト同時ニ編製差出スヘシ

○山林原野 附部分木

●明治八年(九月)第三百廿三號甲第百四十號

地主有之山林ハ焚物拾トシテ私ニ立入枯枝等伐採シ或ハ落穂拾茶實拾杯和唱他人ノ田地ハ獵ニ立入候向モ有之哉ニ相聞キ茲以テ不都合ノ儀ニ付心得違ノ者無之標區戸長ニ於テ屹度取締可相立萬一違犯ノ者有之ニ於テハ相當處分可及此旨可及告示者也

●明治十三年(十二月)甲第二百四十三號

明治十一年三月内務省甲第四號布達本縣縣治報知甲第三十八號部分木(植付、挿付)願書式ノ儀調査ノ都合有之其筋原議ノ上別紙朱書ノ通増補候條向後此書式ニ照準可願出此旨布達候事但惣代ナ置カサル町村ニ係ル片ハ願人ヨリ地元及入會村ニ於テ故障無之旨ノ書面取受ケ願書ニ添ヘ差出スヘシ(十八年甲十四號ヲ以テ追加)

表紙

部分木(植付、挿付)願

何(府縣)何國何郡何(町村)  
華士族平民

何之誰

御管内何國何郡何(町村)何番字何官山野反別何程へ何木何本番號字何山野反別何程へ何木何本(但ニケ所以上ハ如斯一筆限リ記載スヘシ)幾官幾民ノ部分方法ヲ以テ御規則ノ通私費(植

付、插付)被差許度別紙繪圖面相添此段奉願候也

何(府縣)管下何國何郡何(町村)何番地

華士族平民

願人 何 之 誰印

入會

何村總代 何 之 誰印

何 之 誰印

地元何村總代

何 之 誰印

(願人居村ノ者ナル片ハ地  
元ノ二字ヲ删除スヘシ)

前書之通相違無之ニ付被差許度候也

但入會村無之(該地へ他村入會無之片ハ  
如是ノ但書ヲ加フヘシ)

(願人他村ノ者ナル片ハ其  
在籍戸長如是調印スヘシ)

右

何村戸長

何 之 誰印

年月日

入會

何村戸長

何 之 誰印

地元何村戸長

何 之 誰印

(願人居村ノ者ナル片ハ地  
元ノ二字ヲ删除スヘシ)

縣令宛

●明治十六年八月十七日番外

樹木濫伐ノ弊タリ獨リ木材薪炭ノ欠乏ヲ醸スノヨナラス國土保安水源涵養ハ勿論大氣ノ調和  
スル等ニ關係有ル普シ人ノ知ル所ナリ又處世百般ノ工事樹木ニ由ラサルナシ然レハ之カ原資  
ヲ養成シテ而シテ支消ノ計畫アルハ固ヨリ目前ノ急務ト云フヘシ近來管内ヲ通觀スルニ樹木ナ  
キ山野多シ畢竟濫伐ニ基スル所以ナリ然レハ本縣明治十一年甲第卅八號ヲ以テ部分木仕付條  
例布達ニ據リ樹藝ヲ爲スアラハ其成木年ヲ期シテ竣ツ可キニ是ヲ爲スモノ稀ニシテ却テ官林  
ノ伐斫ヲ乞フモノ少シトセス右ハ各自適宜ノ方策ヲ立テ其欠乏ヲ防クニ注意セサレハ日用材  
薪ノ供給ニ苦ムハ必然ニ付自今村々ニ於テハ務メテ樹木ナキ山野ニハ前件部分木仕付條例ニ  
據リ植樹ノ業ニ從事候様可致此旨諭達候事

●明治十三年十二月廿日番外

今般内務省ヨリ被相違候旨モ有之山林ノ儀ハ水陸生産ノ植スル所國家經濟上最急セニスヘカ  
ラサル所ニシテ一クヒ其制ヲ愆レハ寒暑ノ序ヲ失ヒ水旱ノ禍ヲ招キ之ヲ大ニシテハ全國殖産  
ノ道ヲ妨ケ之ヲ小ニシテハ一家需用ノ缺乏ヲ來スハ必然ノ儀ニ付管下山林官民有ノ別ナク在

第七類 山林原野 附部分木

來ノ材料ヲ愛惜シ漸次閑地ニ於テ樹木植栽等ニ着手シ專シ山林保護ノ道相立度依リテハ管下人民ニ於テモ此趣意ヲ體シ各自所有ノ山林ヲ養護シ荒蕪ヲ挽回候標爲ク注意可致最時宜ニ據リ主務官吏派遣取調候儀モ可有之候條比旨諭達候事

●明治十三年(十二月)丙第百十二號

郡區役所

山林養護ノ儀ニ付テハ管外ヲ以一般ニ及諭達候通山林ハ國家經濟ノ基礎トモ謂ツ可シ然ルヲ民林ニ於テハ日下ノ小利ニ汲々トシテ輕忽濫伐等ノ所業往々有之哉ニ相聞有ハ管ニ森林ノ衰替ヲ來スノミナラス自然水源枯竭等ノ害ヲ招クヘシ聞ク往歲清國西北部地方ノ飢饉ニ罹リシモノ之レニ綠山スルモノ多キニ居ルト然レハ則之ヲ未萌ニ防キ前條濫伐ハ勿論野燒ノ如キモ一層注意シ將來森林ノ盛立ヲ圖リ候標治下ノ人民ニ懇ロニ諭示可致此旨相達候事

●明治十四年(七月)丙第五十三號

郡區役所

官有地ノ倒木枯木拂下ノ期伐採期限且其伐株ニ檢印無之ニ依リ往々弊害有之哉ニ相聞ヘ不都合ニ候條自今左ノ項目ニ照準可取扱此旨相達候事

但既ニ處分濟目今伐採中ノ分ト雖モ本文ノ通り可相心得事

第一項 官有地ノ倒木枯木ニシテ公賣ニ付スヘキモノト認定ノ上ハ其根幹(伐採セサル部分)ニ打記ヲ要スニ是印シ其二本以上アルルハ番號記入スヘシ

但本文ノ場合ニ於テ官林ナレハ該受持監守人ノ立會ヲ要ス

第二項 公賣ニ付シタル倒木枯木ノ伐採林地拂出ハ相當ノ期日內ニ卒業セシムヘシ

第三項 拂下木伐採ノ爲官山林ヘ立入ノ節ハ其拂受人ノ住地姓名及伐採期日等ヲ記入シタル

入林鑑札ヲ下渡シ其伐採者ヲシテ現帶セシムヘシ

第四項 官林倒木枯木公賣ニ付シタルルハ其拂受人ノ住地姓名及木種木數並伐採林地拂出卒業期日等其受持監守人ヘ通告スヘシ

第五項 伐木卒業日ヨリ十日以內ニ其根幹ノ伐面ヘ是印シ番號ヲ再記スヘシ

第六項 是印ノ雜形徑寸等詳記シ本廳ヘ届出且部內官林監守人ヘ告示置ヘシ

但是印改製ノ節モ本文ニ準スヘシ

第七項 道路並木枯損木處分ノ節モ第一第二第五項ニ照準取扱フヘシ

●明治十四年(七月)丙第五十五號

郡區役所

近時工事ノ用薪炭ノ需益急ナルニ際シ動モスレハ立樹ヲ濫伐シテ栽培ヲ勉メス山林ハ日ニ衰頽ヲ加ヘ木材ハ月ニ匱乏ヲ告クルニ至レリ夫レ山林ノ衰頽ハ單ニ木材ノ匱乏ニ止ラス水士氣候ニ關スルヤ大ナリ宜シク匡救ノ方法ヲ施設スヘキ義ニ有之付テハ既ニ相達置タル次第モ有之候處今般別紙民有山林植伐心得創定候條該項目ニ遵ヒ山林改良蕃植ニ着手候標部內人民ヘ告諭シ其實施ノ景況時々開申可致此旨相達候事

民有山林植伐心得

植樹之部

一水源涵養類雪止土砂扞止風潮除等國土ノ保安ニ關スル樹林ヲ栽培養護スル事

一林ノ地目ニシテ閑地アルモノ及ヒ在來ノ立樹ヲ伐採セシ片其跡地ヘ直ニ地味相當ノ苗木ヲ栽植スル事

第七類 山林原野 附部分

一 町村ノ共有又ハ一個ノ所有ニ論ナク各所有主ニ於テ其山野ニ地味適應ノ苗木ヲ新植シ其町歩較々廣大ニシテ一時ニ着手シ難キ箇所ハ全部ヲ區畫シ年々順次輪植スル事

一 輪伐跡地ニ苗木栽植又ハ萌芽ノ嫩木ヲ養成スル事

伐木之部

一 凡ソ伐採年度ニ滿タサル樹林ヲ濫伐セサル事

一 町歩較々廣大ナル樹林ハ全部ヲ區畫シ順次輪伐スル事

●明治十六年九月廿一日番外

夫レ人民ノ生活スル百穀ノ生育スル所水ヨリ要ナルハナシ故ニ水源ヲ涵養スルハ最モ邦家ノ緊要トスル所ナリ本年ノ如キ數閱月間降雨ナキニ際シハ管ニ田圃ノ乾燥ヲ訴フ而已ニ止マラズ涵濁ノ甚シキニ至テハ日用ノ飲水ヲ數里ノ遠キニ需ムル等實ニ非常ノ旱魃其疾苦察知スルニ餘アリ是レ他ナシ水源涵養ノ不注意ニ職山スル所以ナリ蓋シ其不注意タルヤ樹木ノ濫伐ニ原因セサルハナシ就テハ客年(二月一日)第三號公布ノ如ク民有森林ト雖モ水源涵養等國土保安ニ關スルモノハ伐木ヲ停止スルハ勿論種樹ヲ愛育シ雨水ヲ涵養スルニ至ルモ務メテ之ガ計畫アルハ目前ノ主要ナルニ尙濫伐ノ習弊ヲ蟬脫セス前項ノ災害ヲ來スガ如キハ眞ニ不都合ノ至リナラヌヤ依テハ舊來ノ源泉ヲ保護スルハ勿論將來源泉ト可相成見込ノ山林ハ地ノ官民有テ間ハス適地植樹ノ方法相立候様可心得此旨諭告候事

●明治十九年(四月)甲第七十八號

民有山林立木ノ統計ヲ精細ナラシムルハ林政上欠クヘカラサル要務ニ付目下林相ヲ爲シタル

モノハ第一號書式ニ準シ本年六月卅日迄ニ無洩調達シ示來樹苗植插及立木伐採或ハ損木等ニテ増減ニ係ルモノハ其都度々々第二第三兩號書式ニ準シ取調届出ヘレ

右相違候事

凡 例

- 一 表中員數ハ總ヘテ數符ヲ用ヒ一位(所、町、園本ノ類)ノ下ヘハ( )符千位及百萬位ノ下ヘハ( )符千點スルモノトス
- 一 箇所ハ一筆ヲ以テ數フルモノトス
- 一 木種ハ松杉等ノ如キ良材トナルヘキモノハ各其樹名ヲ登記シ其他ハ總テ雜木トナスモ妨ケナシ
- 一 立木數ハ凡積ヲ以テ掲グルモ妨ケナシ
- 一 事故摘要ノ欄内ヘハ風雪折及ヒ枯損燒損等ノ事故ヲ登記スルモノトス

第一號

民有山林概計表

地 目	箇 所 數	反	別 地	價 木	何 郡		種 立	木 數
					何 村	町		

第七類 山林原野 附部分木

計						林	山
						松	杉

右ハ本年六月現在ノ分取調候處前記之通相違無之候事

年月日

縣令宛

物代 何之某印

何村戸長 何之某印

第二號

民有山林移植届

地目	箇所數	反別地	價水種	何那
				何村町
			苗木數	年移
				月
				日植

右ハ何月中施行濟ニ付此段致御届候也

年月日

縣令宛

物代 何之某印

何村戸長 何之某印

第三號

第七類 山林原野 附部分木



民有山林損木届

何 郡		何 町		何 村	
地 目	木	種 木	數 事	故 摘	要 年
					月 日

右ハ何月中損木ニ係ル分前記之通相違無之此段致御届候也

前書之通相違無之因テ認印候也

惣 代

何 之 誰 印

何 村 戸 長

何 之 某 印

郡 區 役 所 戸 長 役 場 勘 業 委 員

●明治十九年三月九日無號  
民有山林増減調査ノ儀今般乙第廿八號ヲ以テ相違候就テハ本年一月以來六箇月毎別紙雛形ニ

準據取調年々(一月七月)十五日限リ無洩報告スヘシ  
右相違候事

明治何年何國何郡山林増減表

地 目	現 在		増 減		合 計	考 備
	高	低	増	減		
地 目	簡所反別地價立木	簡所反別地價立木	簡所反別地價立木	簡所反別地價立木		
科 目	簡所反別地價立木	簡所反別地價立木	簡所反別地價立木	簡所反別地價立木		

- 一 越高ハ前年ヨリ翌年一月ハ及六月ヨリ七月ハ越來リタルモノヲ掲ク
- 一 増減ノ欄ヘハ本年一月ヨリ六月及七月ヨリ十二月ニ至ル六ヶ月間ニ於テ増減シタルモノヲ掲ク
- 一 現在高ハ越高ヨリ増減ヲ差引タル六月及十二月ノ現數ヲ掲ク

第七類 山林原野 附部分木

一 山林中竹藪ハ其地目及箇所反別地價ノミヲ掲クヘシ  
 一 表中ノ員數ハ總テ數符ヲ用ヒ一位町圓本ケ所下ヘ一符千位及百萬位ノ下ヘ一符ヲ點  
 スヘシ假令ハ三十町五段歩ハ三〇、五〇〇〇千百三拾五圓拾錢九厘ハ一、二三五、一〇  
 九九三本ハ一〇、〇九三、一ト記スヘシ

●明治十九年(四月)乙第五十五號

郡區役所 戶長役場

官有山林原野副產物柴草ノ義ハ村民自家禁用田圃養育上關クヘカラサル需用品ニ付從前ノ緣  
 故ヲ以テ改租爾來刈取ノ義出願許可ヲ得ル村落有之ト雖細民ニ至テハ其順序ヲ不經獵リニ  
 官地ヘ立入柴草等刈取處刑ヲ受ケ候モノ間々有之憫諒ノ義ニ付必用ノ村落ハ要用ノ束數(柴  
 ハ三尺繩草ハ五尺繩草ヲ以テ一束トス)及ヒ相當ノ料金見積リ所轄郡役所ヲ經テ出願許可  
 ナ得下與ノ鑑札提帶山業候樣一層注意スヘシ  
 但願出ノ村落ハ從前納稅ノ有無ヲ糺シ有稅ナレハ其米金額ヲ願面ヘ掲ケ十五年甲第六十一  
 號布達ニ據リ副產物拂下添表ヲ付スヘシ

右相違候事

●明治十九年(六月)甲第百廿六號

今般民有山林組合準則別紙ノ通り相定候條明治二十年三月卅一日迄ニ規約取結ヒ申出スヘシ  
 右布達候事

(別紙)

民有山林組合準則

第一條 民有山林ノ養護蕃殖ヲ謀ランカ爲メ左ノ條項ニ據リ組合規約ヲ設ケ縣廳ノ認可ヲ得  
 テ施行スヘシ

第二條 組合ハ每町村亦ハ數町村便宜之ヲ定ムヘシ

第三條 組合中ニ取締人一名若シハ數名ヲ撰定シ郡區役所ヲ經縣廳ヘ届出スヘシ

第四條 組合ニ關スル一切ノ費用ハ其組合中ニ於テ負擔スヘシ

第五條 規約ニ掲クヘキ事項

第一 規約ヲ定ムル主意及目的

第二 樹木伐採ノ方法

第三 薪炭木輪伐ノ方法

第四 伐採跡地ヘ樹苗栽植方法

第五 林場餘地ヘ樹苗植付方法

第六 野火盜伐及蟲害等豫防方法

第七 水源涵養土砂停止等國土保安ニ關スル山林養護保存方法

第八 取締人擧及權限

第九 組合ニ係ル費用收支方法

右ノ外山林改良ヲ謀ル等必用ノ事項

第六條 組合ノ町村ヲ分合シ亦ハ規約ノ條項ヲ加除セント欲スルハ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

●明治二十年(十一月)縣令甲第百六十一號

民有森林ノ内水源涵養土砂防止風潮除額等止等ノ如キ國土保安ニ關係アル箇所取調ノ義其筋訓令ノ次第有之ニ付左ノ雜形ニ據リ取調來明治二十一年三月三十一日限り所轄郡區役所ヲ經差出スヘシ

但本文ニ關係無之町村ハ其旨届出ヘシ

國土ノ保安ニ關スル民有森林表

ハ朱書

種類	國郡村	箇所反別樹種地價	所有主	直接ニ利害ノ及區域		取締ニ關スル見込
				國郡村	伐木下草區域	
土砂止						
水源涵養						
		杉	何某		輪伐法ヲ以テ フレハ害ナシ	鐵物土石 掘採スレ ハ害アリ
		雜木	何某		始終禁セサレ ハ害アリ	掘採スレ モ害ナシ
					刈取レハ 害アリ	

朱書ハ記載例ヲ示スノミ  
一箇所ノ地ニシテ其内ノ幾分ノミ國土ノ保安ニ關スル森林ナルトキハ其部分ノミヲ本表ニ掲クヘシ

●明治二十一年(三月)縣令甲第三十六號  
山野火入取締規則ヲ設ケ本年四月一日ヨリ施行ス  
但明治十四年(七月)甲第百二十八號民有山野火入手續布達ハ本文施行ノ日ヨリ取消ス

山野火入取締規則

- 第一條 民有山野ニ火入ヲ爲サント欲スルハ左ノ各項ヲ詳記シ區長ノ與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出認可ヲ受クヘシ(廿一年六月縣令甲六十二號ヲ以テ改正)
- 一 火入期日
  - 一 箇所限地目反別及字番號
  - 一 四至境界ヲ觀ルヘキ實地略圖
- 第二條 前條認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲ爲サント欲スル山野四至境界ニ防火線ヲ設ケ接近地ノ所有者且民有山林取締人及ヒ戶長役場ヘ少ナクモ火入期日五日以前ニ報告スヘシ
- 第三條 防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草ヲ刈採リ落葉並塵芥ヲ除去リ或ハ土堤亦ハ堀溝等ノ設ケナスヘシ
- 但道路窪谷等ニテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ場所ハ此限ニアラス
- 第四條 日出前日沒後及ヒ風勢穩ナラサルトキハ火入ヲ禁ス

第七類 山林原野 附部分木

第五條 火入中の番人ヲ付ケ置火氣全ク消滅スルニ至ル迄ハ其場ヲ退クヘカラス

第六條 火入認可ヲ受ケタル者ト雖モ警察官吏戸長民有山林取締人ニ於テ防火線準備不充分ト認メタルトキ亦ハ風勢變動等ニ據リ他ヘ延焼ノ虞アルト思量スルトキハ直ニ之レヲ中止セシムルコトアルヘシ

但隣接地所有者ニ於テ本條ノ如ク思量スルトキハ警察官吏戸長民有山林取締人等ノ内ヘ急報スヘシ

●明治廿一年(四月)訓令甲第三十九號

郡區役所林戸長役場

管下官林事務ノ義ハ今般閣令第四號ヲ以テ新潟大林區署ノ管理ニ屬セラレト雖モ官林内火災風損蟲害盜伐其他官林ノ利害ニ關シテハ平素郡區長戸長等ニ於テ注意スヘキハ勿論ニ付右等發見セシ場合ニ於テハ速ニ大小林區署亦ハ派出所(不日開署ノ管)ノ内ヘ便宜申報シ且難差置場合ニ於テハ直ニ防禦取締方ニ從事スヘシ

○第八類

○租 稅

○地 租 附地租延納年賦

郡區役所 戸長役場

●明治十七年(五月)乙第六十一號

本年第七號布告地租條例中第三條一項二項取扱左之通り可心得此旨相達候事

第一條 一類地ヲ二類地ニ變換スルハ不相成モノトス(十八年乙廿六號ヲ以テ但書削除ス)

第二條 二類地ヲ一類地トナストキ鐵下年期ヲ要セサルモノト雖モ開墾地ト心得其時々願出許可ノ後着手スベキモノトス

●明治十八年(一月)乙第十號

郡區役所 戸長役場

客歲十二月第八十九號ヲ以テ地租ニ關スル諸帳簿様式被相定候ニ付テハ其(郡區役所戸長役場)ニ於テ別紙雜形ニ倣ヒ來ル五月三十日迄ニ調製其旨可届出此旨相達候事

郡區役所ノ分

從前据置ノ分

一 地券臺帳

是ハ地券授受書替ノ基礎ニ供シ一筆限地所ノ狀況ヲ明ニス

一 地租臺帳

是ハ一町村限地目毎ニ反別地價地租ヲ登記シ常ニ其増減ヲ加除訂正シ以テ現額ヲ明ニス

一 地券證明稅帳

是ハ地券下與稅金收入ノ際其事由ヲ登記シ以テ稅金ノ徵收額ヲ明ニス

第八類 地租 附地租延納年賦



戸長役場ノ分

一 土地臺帳 (十七年ノ確定額ヲ掲ケ公認及沿革ノ欄ハ十八年一月ヨリ登録スヘシ)  
 是ハ土地ノ沿革及ヒ反別地價地租等ヲ明ニスルノ基礎ニ供フ

一 土地所有者名寄帳 (十七年ノ確定額ヲ記スヘシ)  
 是ハ一人限リ其所有地々目反別地價地租ヲ列記シ各人ノ納租額ヲ明ニス

一 地租延納年賦金臺帳 (前ニ同シ)  
 是ハ土地一筆限負擔ノ延納高ヲ所有者一人限リ列記シ當初ノ原額及ヒ年々ノ上納額ヲ明ニス

一 反別地價帳

一 地圖

一 野取圖  
 右帳圖ハ稱呼ノ如何ニ拘ハラズ地租改正ノ際調製セシモノヲ指ス目錄ヲ作り其儘之ヲ保存スヘシ

一 開墾徵下年期ヲ請求スル時

一 荒地免租年期ヲ請求スル時

一 地目變換ニ付地價ノ査定ヲ請求スル時

一 土地分裂  
 右六項其他ニ付土地丈量ノ際製セシ野取繪圖及ヒ地形ヲ書キテ書圖  
 是ハ出願ノ都度各其種目毎ニ類別シ別ニ其目錄ヲ作り保存シ檢査ヲ受クルトキノ参照ニ供ス

土地臺帳

他ノ地目ハ之  
 =倣ヒ地番号  
 順ニ調成スヘシ  
 第一欄姓名ノ  
 肩書ニ示セル  
 國郡町村ノ記  
 載例ハ自村ノ  
 モノニハ之ヲ  
 要セス

字何	第何番	何等	何國何郡何村
一畑反別壹反歩	內五歩 外拾歩	何々 哇畔	何 ノ 某
此地價金三拾圓 此地租金七拾五錢			
公認	事由	國郡區名	所有者氏名
同	讓與同	乙	某
明治何年 何月何日	賣買	何國何郡村甲	某
地券書替 年月日	事由	國郡區名	所有者氏名
何月何日	賣買	何國何郡村甲	某
同	讓與同	乙	某

第八類 地租 附地租延納年賦







代替改姓名ノ時ハ甲姓名ヲ朱線シテ消抹シ丁姓名ト記入シケル例ニ據リ訂正スヘシ

事由ノ區ニ減スヘキモノハ朱字増スヘキモノハ墨字ヲ以テ記入スヘシ

○表中二行目甲姓名ニ朱ノ線ヲ以テ抹殺シアリシモノハ朱印ハ朱

十七年納	十八年納	十九年納	二十年納	廿一年納	廿二年納	廿三年納
	貳圓九拾四錢三厘	貳圓八錢壹厘 外廿貳錢五厘利引	五錢三厘	八厘	八厘	八厘
		廿一年分ヨリ增村内丙某ヨリ買受但原額八錢ノ分	八厘	八厘	八厘	八厘
		廿二年分ヨリ增村内丙某ヨリ買受但原額八錢ノ分	八厘	八厘	八厘	八厘
		廿三年分ヨリ增村内丙某ヨリ買受但原額八錢ノ分	八厘	八厘	八厘	八厘

●明治十八年(七月)乙第八十二號

郡區役所 戸長役場

本年一月卅一日本廳乙第十號達申左之通更正追加ス此旨相達候事

一地租臺帳式凡例第一項ヲ左ノ通更正シ第三項ヲ删除ス  
處分濟ノ時々記入シ納期前ニ於テ其要スル地目ノ部分ヲ差引シテ現在計ヲ爲シ追テ一ケ年分各地目ヲ合集セシ一町村計ヲ付スヘシ

一土地臺帳ノ卷首へ(甲號)ノ式ヲ插入ス其總計式ヲ(乙號)ニ又其次へ(丙號)ノ式ヲ加フ

一土地所有者者名寄帳式へ左ノ二項ヲ加フ  
地目申田畑多筆ニシテ他地目ノ區畫ニ多ク空位ヲ存スルモノハ第二欄第四區へ宅地ヲ併セ(宅地鹽田鑛泉山野其他トシ計ニ宅地ト擅田以下ト同様ニ區別ス)以上ノ三區ヲ田畑ノ區畫ニ充ツヘシ則田ノ多キモノハ第一第二區ヲ田トシ畑多キモノハ第二第三區ヲ畑トシ皆田(畑)ハ三區共ニ田(畑)ト爲スカ如シ

質地ハ質取主持地ノ部へ記入シ質入主ノ方ハ朱線ヲ以テ消抹シ各其筆ノ肩書ニ何年ヨリ質取(入)地ト記入スヘシ

甲號 土地臺帳へ屬ス

何 収 地 價  
價 壹 反 步 當  
利 朱

地 目 等 級 収	種 地	價 等 級 収	種 地	價
何 収 地 價	壹 反 步 當	利 朱		

第八類 地租 附地租延納年賦

合併ノ異動  
等級ニ異動  
生シ舊等級  
ヲ保ツ能ハサ

宅地及計ノ  
區ノ免租ノ  
地ノ計ヲ除  
ク荒學除  
校ノ記入七  
ニルハ兩櫛  
ニ區分シ該  
校ノ方ヘ該  
頭字ヲ略記  
スヘシ

年

年度	丙號	合計	何々	溜池	社郷地村	計	何々	原野
地目	土地臺帳へ屬ス							
等級								
反								
別等級								
反								
別等級								
反								
別								

第八類 地租 附地租延納年賦

四二五

此例ニ倣ヒ  
字限小計ヲ  
付シトキ  
ハ筆數多キ  
至五筆乃  
スハ小計ヲ  
マヘシ

十

年度

山	何々	宅地	畑	田	地目	乙號	何	田
林					反			
					別			
					外内			
					歩歩			
					地			
					價			
					地			
					租			
					荒地學校地反別			
					外内			
					歩歩			

四二四

モノハ末區ニ  
一括登記スヘ

		年 七 十										
		田		畑			何々					
郡區役所 戸長役場	一	四	七	十	一	四	何々	何々	何々	何々	何々	何々
	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等
郡區役所 戸長役場	二	五	八	何	二	五	裂	合	何	何	何	何
	等	等	等	等	等	等	分	併	分	分	分	分
郡區役所 戸長役場	三	六	九	合	三	何	何	何	何	何	何	何
	等	等	等	併	等	等	等	等	等	等	等	等
				分								

四二六

●明治廿年(四月)訓令甲第八十號  
郡區役所 戸長役場  
明治十八年乙第八十二號達乙號樣式中學校地ノ名稱ヲ刪除シ種目ノ區畫第十欄へ公立學校地  
ノ一種目ヲ增加ス鄉村社地以下順次採下ス

●明治十八年(九月)乙第百八號  
郡區役所 戸長役場  
本年(二月)乙第十號ヲ以テ地租ニ關スル諸帳簿樣式相違置候處右用紙ハ美濃紙ヲ相用ヒ(美  
濃紙同判紙質耐久ナル者ハ何レノ紙ヲ用フルモ妨ケナシ)候等ニ有之候條爲念此旨相違候事

●明治十八年(四月)甲第七十七號	
明治十七年第七號公布第三條ヲ以テ有租地ノ地目ヲ被定候處各地目ニ包含スル種目ハ左ノ通 ニ付爾後地券書換出願ノ都度該第三條ノ地目ニ訂正シ尙ホ地番号ノ下ニ朱字ヲ以テ其種目ヲ 附記シ可差出此旨布達候事	
第一類	第二類
畑 市街宅地 鹽田 鑛泉地 池沼 山林 原野 雜種地	未定田 流作田 燒畑 堂字敷地 社寺境内 製鹽場 溫泉地 冷泉地 堀池 蘆池 井戸敷 竹木雜生地 柴草山 浦生池 葦野 造船所 流木場
沼田 山 水車敷地 鹽溜 未定鹽溜	切換畑 氷車溝 石山 牧地 柴生地 濱地 流木場
	草生地 野地 船揚場 布晒場

第八類 地租 附地租延納年賦

四二七

物置場 土取場 土賜場 稻子場 海岸地

●明治十五年(十一月)乙第九十六號

明治十年九月第六十二號布告ニ據リ凶歲租稅延納年賦金一時上納願出候節ハ一割引左之算  
則ニ據リ収納許可候條此旨相達候事

一割引千圓年率

一年	利金 九拾圓九拾錢九厘
二年	全 百三拾貳圓廿三錢壹厘
三年	全 百七拾壹圓四錢九厘
四年	全 貳百七圓五拾三錢四厘
五年	全 貳百四拾壹圓八拾四錢三厘
六年	全 貳百七拾四圓拾貳錢三厘
七年	全 三百四圓五拾壹錢貳厘
八年	全 三百三拾三圓拾三錢四厘
九年	全 三百六拾圓拾錢八厘
十年	全 三百八拾五圓五拾四錢三厘

但十ヶ年賦ノ者假令ハ三ヶ年納濟七ヶ年相殘候分一時上納願出候節殘金ハ七年率ヲ乘(四拾五入)厘位ヲ以テ止即利引金高ヲ得右差引殘高ヲ以上納金ト定ムヘシ又八ヶ年賦ノ者二ヶ年納濟一時上納願出候節ハ殘金ハ六ヶ年率ヲ乘シ利引金高ヲ得差引殘高ヲ以上納金ト定

ムヘシ

●明治十七年四月十五日無號

地租改正整頓既納額ト差引未納ノ金員年賦延納許可ノ分一時上納願出候者ハ一割引左ノ算  
則ニ據リ上納差許候條此旨相達候事

一割引千圓年率

一 年	利金 九拾圓九拾錢九厘	廿六年	六百四拾七圓六拾五錢六厘
二 年	全 百三拾貳圓貳拾三錢壹厘	廿七年	六百五拾七圓八拾八錢壹厘
三 年	全 百七拾壹圓四錢九厘	廿八年	六百六拾七圓六拾貳錢三厘
四 年	全 貳百七圓五拾三錢四厘	廿九年	六百七拾六圓九拾壹錢
五 年	全 貳百四拾壹圓八拾四錢三厘	三十年	六百八拾五圓七拾七錢
六 年	全 貳百七拾四圓拾貳錢三厘	三十一年	六百九拾四圓貳拾貳錢五厘

北浦原郡役所 中浦原郡役所  
西浦原郡役所 南浦原郡役所  
岩船郡役所  
右五郡 戶長 役場

第八類 地租 附地租延納年賦

七	年	三百四圓五拾壹錢貳厘	三十二年	七百貳圓三拾錢壹厘
八	年	三百三拾三圓拾三錢四厘	三十三年	七百拾圓壹錢七厘
九	年	三百六拾圓拾錢八厘	三十四年	七百拾七圓三拾九錢五厘
十	年	三百八拾五圓五拾四錢三厘	三十五年	七百貳拾四圓四拾五錢三厘
十一	年	四百九圓五拾四錢	三十六年	七百三拾壹圓貳拾錢八厘
十二	年	四百三拾貳圓拾九錢貳厘	三十七年	七百三拾七圓六拾七錢八厘
十三	年	四百五拾三圓五拾八錢八厘	三十八年	七百四拾三圓八拾七錢八厘
十四	年	四百七拾三圓八拾錢八厘	三十九年	七百四拾九圓八拾貳錢貳厘
十五	年	四百九拾貳圓九拾貳錢八厘	四十年	七百五拾五圓五拾貳錢四厘
十六	年	五百拾壹圓壹錢八厘	四十一年	七百六拾圓九拾九錢七厘
十七	年	五百貳拾八圓拾四錢四厘	四十二年	七百六拾六圓貳拾五錢貳厘
十八	年	五百四拾四圓三拾六錢六厘	四十三年	七百七拾壹圓三拾錢貳厘
十九	年	五百五拾九圓七拾四錢壹厘	四十四年	七百七拾六圓拾五錢七厘

四三〇

二十	年	五百七拾四圓三拾貳錢貳厘	四十五年	七百八拾圓八拾貳錢六厘
廿一	年	五百八拾八圓拾五錢七厘	四十六年	七百八拾五圓三拾貳錢
廿二	年	六百壹圓貳拾九錢四厘	四十七年	七百八拾九圓六拾四錢六厘
廿三	年	六百拾三圓七拾七錢三厘	四十八年	七百九拾三圓八拾壹錢四厘
廿四	年	六百貳拾五圓六拾三錢六厘	四十九年	七百九拾七圓八拾三錢壹厘
廿五	年	六百三拾六圓九拾壹錢八厘	五十年	八百壹圓七拾錢四厘

但五十ヶ年賦ノ者假ハ三十ヶ年納濟四十七ヶ年相殘候分一時上納ノ節ハ殘金ハ四十七年率ヲ乘シ(四拾五入)厘位ニ止即利引金高ヲ得右差引殘高ヲ以テ納金ト定ムヘシ又十ヶ年賦ノ者三十ヶ年納濟七ヶ年相殘候分一時上納ノ節殘金ハ七年率ヲ乘シ利引金高ヲ得差引殘高ヲ以上納金ト定ムヘシ

●明治十九年(八月)訓令第六號 郡役所(南魚沼郡東浦原郡佐渡三郡ヲ除ク)戶長役場地租年賦延納金一時上納ノ節ハ自今左ノ書式ニ據リ仕譯書調製其都度差出ヘシ  
但十八年丁第一號達ハ廢止ス  
(書式)

一金何程 何ヶ年賦  
但一ヶ年金何程

第八類 地租 附地租延納年賦

四三一

内  
 金何程 何ヶ年納濟  
 金何程 利 引  
 小以金何程  
 幾金何程 一時上納額

●明治十九年(二月)乙第十五號

郡區役所 戸長役場

(南魚沼郡役所ヲ除ク) (南魚沼郡戸長役場ヲ除ク)  
 地租延納年賦金臺帳調製方之儀ニ付明治十八年一月三十一日乙第十號ヲ以テ相違置候ニ就テハ一筆一人前ヨリ該帳簿調理可致ハ勿論之儀ニ有之候處其年割金厘位未滿ノモノ間々相生可申右ハ更ニ五ヶ年開キテ以テ厘位以上相當年賦(一筆該當延納金四錢九厘ニシテ五十ヶ年賦ノモノハ四十五ヶ年賦ト改メ毎年一厘ツ、相納メ末年ニ至リ五厘ヲ納ムルカ如シ)ニ組換之儀可爲願出右相違候事

●明治廿一年(六月)訓令乙第五十七號

郡區役所

荒地成檢査中又ハ非常ノ災害ニ罹リ備荒儲蓄金ヨリ補助或ハ貸與取調中ノ類ニシテ納期ニ際シ徴収不能ハサル分ハ其調査完了時日ノ見込相立テ該稅納期以前ニ於テ延納ヲ稟議スヘシ但調査済ノ上明治十年太政官第七十九號布告ニ據リ處分ノ末官損ニ歸シタルトハ本年五月大藏省訓令第二十六號ニ準シ取計ツヘシ

●明治廿一年(八月)訓令甲第七十四號

郡區役所 戸長役場

明治十八年乙第十號ヲ以テ土地臺帳及名寄帳調製之儀相違置候處地押調査上申告ニ係ル土地訂正済之上ナラテハ精覈ノ帳簿ヲ調理スル能ハサルヨリ茲草今日ニ經過致居候町村不少趣ニ相聞候然ルニ今ヤ地押調査完結ヲ告ケ追々着手致スヘキ筈ニ付テハ初メニ於テ能ク其方法ヲ慎ミ手戻等ノ憂ナキ様取計ヒ速クモ來ル二十二年三月三十一日限リ悉皆調製致スヘシ

●明治廿一年(九月)訓令甲第八十號  
 郡區役所 戸長役場  
 本年(八月)訓令甲第七十四號ヲ以テ調製期限相示置候土地臺帳及ヒ名寄帳之儀ハ明治廿一年ノ確定地目反別地價地租等ヲ以テ調製シ廿二年ノ異動ヨリ同帳訂正ノ例ニ據テ加除訂正取計ツヘシ

●明治廿一年(十月)訓令甲第八十六號  
 郡區役所 戸長役場  
 土地臺帳名寄帳調製及ヒ訂正手續別冊之通相定ム  
 但既ニ調製済ノ分ハ此手續ニ依リ來ルル廿二年二月廿八日限リ其訂正ヲ了スヘシ

土地臺帳土地所有者名寄帳調製及ヒ訂正手續  
 第一條 土地臺帳及ヒ名寄帳ハ明治十八年本縣乙第十號全年乙第八十二號達ノ様式ニ據リ其用紙ハ全年乙第百八號達ニ據リ調製スルモノトス

第二條 土地臺帳及名寄帳ハ明治廿一年內訓令第五號ノ趣旨ニ基キ郡役所ニ於テ可成的其調製方ヲ負擔シ相當ノ者ヲ雇入様式ニ悖ルカ又ハ計算ニ誤謬等ノコトナカラシムルモノトス

第三條 郡役所ニ於テ依テ受ケタル町村ノ經費ハ各村ノ筆數ニ據リ細カニ其豫算ヲ相立尙其出納方法ヲ設ケ紛議ナカラシメンコトヲ要ス

第四條 土地臺帳及ヒ名寄帳ハ一町村限各別ニ調製スルモノトス

第五條 土地臺帳調製ニ用ユル所ノ基礎帳簿ハ左ノ區別ニ據ルモノトス

第一 戶長役場ニテ調製スル分ハ役場ニ備置ノ地價帳ヲ用ユヘシ

第二 郡役所ニ委託シタル分ハ係メ戶長ヲシテ郡役所ノ地券臺帳ト戶長役場ノ地價帳トノ内何レカ其一方ヲ用ユルコトニ定メシムヘシ

第六條 土地臺帳及名寄帳ハ廿一年八月訓令第八十號ニ據リ反別地價地租共廿一年ノ確定額ヲ基礎トスヘシ又其地主姓名ハ左ノ區別ニ據ルモノトス

第一 戶長役場ニ於テ調製スル分ハ調製着手ノ日ヲ以テ分界トシ其以前地券書換濟ノ分ニシテ訂正未済ニ係ルモノハ其基礎帳簿ニ掛紙ヲ以テ訂正スヘシ

第二 郡役所ニ於テ調製スル分ニシテ地券臺帳ヲ基礎帳簿ニ用ユル分ハ同所ニ於テ調製着手ノ日ヲ分界トシ其以後地券書換ニ係ル廉ハ追テ戶長役場ニ於テ該帳訂正式ニ依リテ之ヲ訂正スルモノトス

第三 郡役所ニ於テ調製スル分ニシテ地價帳ヲ基礎帳簿ニ用ユル分ハ先以地券臺帳ト照合シ若シ其照合以前ニ於テ地券書換濟訂正未済ニ係ルモノハ其基礎帳簿ニ掛紙ヲ以テ之ヲ訂正スルモノトス

第七條 土地臺帳調製スヘキ基礎帳簿(地價帳又ハ地券臺帳)ハ左ノ順序ニ據リ加除訂正スルモノトス

第一 土地臺帳ノ基礎ニ用ユヘキ帳簿ハ先ツ其反別地價地租ト總計シテ廿年ノ確定額(郡

役所備付ノ地租臺帳)ニ符合セシムヘキモノトス

第二 地押申告ノ地及ヒ廿一年期明ニ係ル荒地起返其他開墾地拂下地下渡地々目變換新規荒地成等ノ地ハ其處分濟原書ニ據リ基礎帳簿ヲ一筆限リ掛紙ヲ以テ訂正スルモノトス

第三 廿一年秋期檢査ニ於テ檢査スヘキ新規荒地々目變換官地拂下潰地除租等ノ如キハ全年十二月ニ至ラサレハ到底其終結ヲ見ル能ハサル管ニ付其己前ニ於テ調製着手スル分ハ追テ其異動ニ係ルケ所限リ用紙ヲ差換ヘ之ヲ精製スルモノトス

第四 基礎帳簿ニ地位等級ノ記載シアラサルモノハ誤謬ナキ帳簿又ハ地圖等ヨリ每一筆ノ等級ヲ記入シ原帳圖ト讀合ナシ誤謬ナカラシムルヲ要ス

第五 第二第三項ノ訂正ヲ了ヘタル片ハ基礎帳簿ト一筆限讀合ヲナシ明治十八年七月乙第八十二號達乙號様式ニ倣ヒ字限(番號ノ順序甲字ヨリ乙字ニ移リ又甲字ニ戻ル等)ニテ字限ニ小計ヲ附スル能ハサルモノハ五十番ツ、小計ヲ爲スモノトス(假小計ヲ作り更ニ同達丙號様式ニ倣ヒ地目限地位等級譯ノ假小計ヲ作り各其小計ヲ合テ假總計ヲ作ルモノトス)

第六 第一ニ於テ照合ヲ了シタル廿年度確定額ヲ基礎トシ第二第三ニ於テ訂正シタル各種類新舊ノ合計額ヲ加除シ第五ニ於テ作りタル假總計ニ照合シ雙方相符合セシムルモノトス

第八條 前條ノ手順ヲ了シタルトキハ左ノ各項ニ注意シ土地臺帳一筆限ノ謄寫ニ着手スルモノトス

- 第一 土地臺帳ハ其附村内ノ民有地ヲ明瞭ナラシムル基礎ニ供フル簿冊ナリト雖モ官有地ヲ記載スルモ亦兵長役場ノ便利ニ付可成其地番順ニ網羅記載スルヲ要ス
- 第二 荒地免租年期中低價年期中及開墾年期中ノモノハ原地ノ地目反別地價地租等ヲ表面ニ記入シ朱線ヲ以テ塗抹シ其沿革ヲ式ノ如ク裏面ヘ記入スルモノトス  
但開墾地ハ其目的地目ヲ事由欄内ヘ記載スヘシ
- 第三 改租已前ヨリノ荒地ニシテ免租年期中ノモノハ表面地目ノ下ニ「荒」ノ字ヲ記入シ反別ノ左側ニ(但何年ヨリ何年マテ)何ケ年期免租ト記入シ其繼年期中ハ低價年期中ノモノハ表面ヘ前項全標朱線塗抹シ裏面ヘ其沿革ヲ記入スルモノトス
- 第四 有租地ハ地租條例第三條ノ地目ヲ記載シ現地目ヲ(小地目ト云フ)地位等級ノ下ヘ朱記スルモノトス
- 免租地ハ地租條例第四條ノ地目ヲ記入シ墳墓地ハ尙其地番號ノ下ヘ墓地ト燒場トノ區別ヲ朱記スルモノトス
- 第五 開墾年期中無税ノモノハ反別ノ左側ニ(但何年ヨリ何年マテ)何ケ年期中下ト記入スルモノトス
- 第六 民有ノ揭示場ハ其地ノ素稱ヲ掲ケ地位等級ノ下ニ「揭示場」ト記入スルモノトス
- 第七 反別ノ左側ニ内外番スヘキ種類ハ其地收利ノ有無ニ拘ハラス改租ノ當時又ハ其以來地價査定ノ都度内外番ニ顯シタルモノニ限り記載スルモノトス
- 第八 一筆内ニ孕在スル墓地ハ本反別ノ左側ニ(外何歩墳墓地)ト記入スルモノトス

- 第九 所有者氏名ノ欄ニ記入スヘキ名稱ハ左ノ區別ニ依ルモノトス  
村持ノ地ハ(何村)ト記入スルモノトス  
一組又ハ一部落持ノ地所ハ(何組)又ハ(何部落)ト記入スルモノトス  
會社持ノ地所ハ(何々會社)ト記入スルモノトス  
數人共有ノ地ハ各姓名ヲ列記シ其列記スル能ハサルモノハ(何某外何人)ト記入シ別ニ字番號ヲ記シタル共有人名簿調製シ置クモノトス  
社寺ノ持地ハ(何々社)又ハ(何々寺)ト記入スルモノトス  
學校持ノ地所ハ(何々學校)ト記入スルモノトス  
絶家ニテ支配人名受ノ地ハ(何某絶家ニ付支配人何某)ト記入スルモノトス  
官有地ハ(官有地)ト記入スルモノトス
- 第十 公認事由ノ部ヘ記入スヘキ事項ハ概ネ左ノ如シ  
賣買 讓與 家督相續 遺産相續 破損 燒失 遺失 紛失 改姓名
- 第十一 沿革ノ部ヘ記載スヘキ事項ハ概ネ左ノ如シ  
裂筆 合筆 荒地成 全起返 全繼年期 再荒地成開墾反別入 全繼年期 全繼年期賦租 全廢止 低價期明 誤謬訂正 地目變換 抛下 下渡 畦畔除却 畦畔新設  
官有地成(何地成ハ官有地ノ地目ヲ記載スルモノトス)  
免租地成(何地成ハ免租地ノ地目ヲ記載スルモノトス)
- 第十二 地位ニ優劣アル分合筆ニシテ舊等級ヲ分テ能ハサルモノハ等級ノ欄内ニ圖印ヲ付



シ沿革事由欄内ニ年月日何番何等何番何等合併又ハ年月日分裂賣買ニ付替等ヲ保  
ス」ト記入スルモノトス

第九條 一筆限ノ謄寫ヲ了セシ片ハ基礎帳簿ト一筆限讀合ヲ爲シ土地臺帳ニ誤謬ナカラシム  
ルモノトス

第十條 前條ノ讀合ヲ爲シタルトキハ字限又ハ每五十番ノ小計(字限ト五十番限トハ第七條  
第五項ノ區別ニ依ルヘシ)及地目限地位等級譯ノ小計等ヲ更ニ新製ノ土地臺帳ニテ計算シ  
第七條第五ノ假小計ニ符合セシメ尙又其小計ヲ合計シテ假惣計ニ符合セシムルヲ要ス

第十一條 前條々ノ手續ヲ了シタル片ハ字限又ハ每五十番ノ小計及地目限地位等級譯ノ假小  
計町村假惣計ヲ淨算シ更ニ甲號様式ニ倣ヒ一反步當收穫地價表ヲ製シ土地臺帳ニ添付スル  
モノトス

但惣計調製ニ付テハ左ノ項々ニ依ルモノトス

第一 町村總計表式ノ末段へ更ニ「現在筆數ノ一欄ヲ設ケ字限又ハ每五十番ノ小計及町村  
總計トモ其現在筆數ヲ記入スルモノトス

第二 字限又ハ每五十番ノ小計ハ雛形中總計式町村總計ノケ所へ(字何々小計)又ハ(自何  
番至何番小計)ト記載スルモノトス

第三 字限又ハ每五十番ノ小計及ヒ町村計ノ内歩外歩ハ内外書ノ地目限リ區別シテ計反別  
ノ腹へ(何歩何々)ト列記スヘシ

第十二條 土地臺帳ハ卷首ニ一葉ヲ插シ明治二十一年度根基(既ニ調製濟ノ町村)ニシテ十九

年度又ハ廿年度ヲ根基トセシモノハ其年度ヲ記入ス」ト記入編冊スルモノトス

第十三條 土地臺帳ノ表紙及小口(簿冊ノ端ヲ截斷シタル所ヲ云フ)へ其帳所載ノ字名(每五  
十番ニ小計ヲ爲シ字ノ甲乙二帳ニ跨リタル者ハ「自何番至何番」ト記入スルモノトス)ヲ記  
入シ且冊數帳號ヲモ記入シ末へハ號ノ下ニ「止」ト記載シ其簿冊ノ全備ヲ明瞭ナラシムルモ  
ノトス

第十四條 土地臺帳ノ調製ヲ了リタル片ハ地價帳ノ紙尾ニ土地臺帳へ填記濟ト記入シ明治十  
八年乙第十號達旨ニ隨ヒ目錄ヲ作り保存シ其他第七條第二項第三項ニ用ヒタル書類及廿年  
以前年々ノ異動地一筆限帳等ハ各其類別ニ依テ目錄ヲ作り地價帳ノ補助簿トシテ長ク保存  
スルモノトス

第十五條 土地所有者名寄帳ハ土地臺帳確定ノ反別地價地租ヲ一筆限一人別ニ謄寫スルモノ  
トス

第十六條 土地所有者地元戸長役場所轄外ニ居住ノ者ハ取扱上便利ノ爲メ名寄帳地主姓名ノ  
左側ニ「納税代人何某」ト記載シ置クモノトス

第十七條 名寄帳ハ有租地ノミヲ以テ調製シ免租地ハ編入スルニ及ハサルモノトス

第十八條 第十五條ノ謄寫ヲ了シタル片ハ原帳ト讀合ヲ爲シ誤謬ナキヲ認メタル上地目限  
リ合計ヲ爲シ一人別ノ合計ヲ總計シ土地臺帳ノ總計ニ符合セシムルヲ要ス

第十九條 名寄帳下欄鐵泉地山林原野池沼等ノ計ニ於テ地目ヲ各別ニ掲載スルニ及ハスト様  
式欄外ニ記載シアルニ納税上ノ便ヲ計リ各別ニ掲載スルモ妨ケナキモノトス

第二十條 土地臺帳及土地所有者名寄帳調製上數字ヲ誤寫シタル片ハ一紙中二三字ニシテ見  
若シカラサル分ニ限リ朱字ヲ以テ更正スルハ妨ケナシ此場合ニ於テハ其ノ更正ノケ所ヘ主  
任必ス捺印スヘシ

第廿一條 土地臺帳及名寄帳ハ廿年已前ノ反別地價地租ヲ以テ調製濟ノ村落ハ左ノ各項ニヨ  
リ沿革ヲ明ニスルモノトス

第一 地押申告ノ地及ヒ廿一年以前ノ期明ニ係ル荒地起返開墾地及ヒ拂下地下渡地々目變  
換新規荒地成等ノ地ハ其處分濟原書ニ據リ一筆限リ沿革ヲ記載スルモノトス

第二 前項ノ訂正ヲ了シタル片ハ字限小計(五十番寄ニ調製シタル村落ハ其小計)及ヒ總計  
ヲモ式ノ如ク填記スルモノトス

第廿二條 沿革ヲ記載スルニ當リ其帳簿上前數條ニ抵觸ノ廉アル片ハ都テ之ヲ訂正スルモノ  
トス

第廿三條 第廿一條第二項ニ依リ廿一年分確定反別地價地租ノ總計ヲ得タル片ハ直チニ之ヲ  
郡役所ニ差出シ相違ナキノ証明ヲ受クルモノトス

●明治廿二年(一月)訓令甲第二號 郡役所(東浦原ヲ除ク)戸長役場

土地臺帳名寄帳調製方ノ義ニ就テハ進々内訓及訓令ヲ發シ調製手續ハ勿論其期限ヲモ相定メ  
置候義ノ處中ニハ各町村又ハ受負者等ニ放任候役場モ有之哉ニ相聞甚タ不都合ノ至リニ候右  
ハ戸長役場ニ於テ將來土地百般ノ徵証ニ供スル必要ノ帳簿ニシテ今此整理ヲ全フセサル片ハ  
他日收拾スヘカラサルノ錯雜ヲ生スヘキ憂モ不甚殊ニ此際速ニ調製ノ完備ヲ告ケサル片ハ調

廿二年八月縣  
令甲第百十二  
號ヲ以テ車休  
ノ下番號及  
ヒノ四字ヲ削  
除ス

製后ニ至リ加除スヘキケ所退々相嵩ミ爲メニ一層ノ繁雜ヲ生スヘク付郡衙ニ依テシタル分  
ヲ除ク外ハ戸長役場ニ於テ筆算者ヲ雇入調製スヘキ管ニ有之候條戸長之レカ指揮監督ヲナ  
シ以テ土地臺帳ハ二月中旬迄ニ整頓引續名寄帳ヲ調製シ豫定ノ日限以前ニハ兩帳用整理完結  
候様深ク注意スヘシ

但本文帳簿ハ主任官ヲシテ隨時監督セシメ不都合ノ廉ハ訂正ナサシムヘシ

○船 車 税ニ關セサルモノハ第五類船舶ノ部ニ掲載ス

●明治十六年(九月)乙第八十四號

自轉車之儀ハ人力車ノ部ニ組入國稅徵收候處今般廢止相成候條此旨相達候事

●明治廿一年(十二月)縣令甲第百八十一號

明治廿一年四月一日以降車休ニ番號及其用途(例ヘハ人力車一人乗若クハ二人乗耕作專用車  
非常專用車等ノ類)ヲ烙記スヘキニ付右所有者ハ其用途ヲ郡區役所ヘ申出烙記ヲ請フヘシ

●明治廿一年(十月)縣令甲第百號

諸營業者(國稅地方稅共)廢業又ハ免許鑑札ノ賣買讓與船車ノ破解及其賣買讓與等ノ節ハ自今  
該願届書管屬(縣廳郡區衙)ヘ到達ノ日ヲ以テ廢業又ハ營業權及物件移轉ノ境界ト相定メ候條  
若シ其願届書納期月一日迄ニ到達セスシテ二日以後ニ沙ルトハ該期ノ税金ハ(賣買讓與ハ賣  
讓主ヨリ)之ヲ徵收ス

但商船航海中災害ニ罹リ破解等ノ節里程遠隔ニシテ其届書延着シタル場合ハ此ノ限リコア

明治十二年六月本縣甲第百十五號布達諸營業廢業届出ノ義及廿一年四月縣令甲第五十四號  
船車賣買破解届出ノ義ハ廢止ス

●明治廿一年(七月)訓令乙第六十九號

水車ヲ浮フルカ爲メ河川ノ一所ニ繫留シ物貨ノ運搬ニ供用セサル船ハ自今課税ノ範圍外ト心得ヘシ

郡區長

○酒類醫類

●明治十二年(三月)甲第十八號

從來酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ハ賣藥免許鑑札下付致來候向モ有之候處有者醫藥ニ供スル別紙記載ノ品類ヲ除クノ外酒類ヲ和シ飲料ニ供スルモノハ假令藥品ヲ配伍スルト雖モ總テ酒類稅則ニ據リ課税可致旨其筋ヨリ違シ有之就テハ是迄下附致置候鑑札ハ返納致シ更ニ銘酒釀造及母賣其營業免許鑑札可願受此旨布達候事

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 酒 | 精 | 再 | 酒 | 精 | ホ | 氏 | 鎮 | 痛 | 液 |
| 甘 | 鹽 | 甘 | 硝 | 石 | 礳 | 砂 | 精 |   |   |
| 礳 | 砂 | 複 | 方 | 白 | 芷 | 精 | ア | チ | ー |
| 芳 | 香 | 精 | 芳 | 香 | 礳 | 砂 | 精 | 複 | 芳 |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | ア |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | ル |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | モ |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | ラ |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | シ |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | ア |
|   |   |   |   |   |   |   |   |   | 精 |

ガ	ヤ	フ	ー	テ	精	龍	腦	精	コ	ロ	フ	オ	ル	ム	精
桂	皮	精				枸	櫛	皮	精	山	菴	菜	精		
蟻	精					杜	松	子	精	複	方	杜	松	子	精
ラ	ー	ヘ	ン	デ	ル	複	方	ラ	ー	ヘ	ン	デ	ル	精	
複	方	マ	ス	ツ	ヤ	英	國	縮	葉	薄	荷	精			
薄	荷	精				ミ	ー	ル	ン	ヤ	精				
迷	迭	香	精			石	鹼	精		椒	性	薄	荷	精	
芥	子	精				雙	鷲	菊	精	肉	豆	寇	精		
失	鳩	答	精			實	麥	答	利	精	葛	若	精		
蒿	苴	精				華	木	藍	精	非	沃	斯	精		
コ	ロ	ン	ム	精		橙	皮	精		ア	ル	ニ	カ	花	精
幾	丁	幾				複	方	亞	爾	蘇	丁	幾			
亞	爾	蘇	丁	幾		藍	苴	丁	幾	芳	香	酸	丁	幾	
雙	鷲	菊	丁	幾		ポ	ー	ノ	氏	苦	味	丁	幾		
苦	味	丁	幾			阿	魏	丁	幾	複	方	亞	爾	蘇	丁
芳	香	丁	幾			新	鮮	橙	皮	丁	幾				
橙	皮	丁	幾			安	息	香	丁	幾					
葛	若	丁	幾												

ビュッコ丁幾	泥膏丁幾	コロンボ丁幾
複方龍腦丁幾	亞的兒製龍腦丁幾	芫菁丁幾
亞的兒製元膏丁幾	番椒丁幾	益智丁幾
複方益智丁幾	カスカリルチ丁幾	亞的兒制カストール丁幾
カナダ産カストール丁幾	シベリア産カストール丁幾	阿仙藥丁幾
褐色機那丁幾	赤色機那丁幾	複方機那丁幾
キノイシ丁幾	キラタ丁幾	複方コロロホルム丁幾
黄色機那丁幾	桂皮丁幾	コーシネール丁幾
コルシウム丁幾	コロシント丁幾	失鳩答丁幾
サフラン丁幾	畢澄加丁幾(キヌヘバ丁幾)	温棒丁幾
石鹼丁幾	複方アルモラシヤ丁幾	シキタリス丁幾
亞的兒製シキタリス丁幾	續隨子丁幾	醋酸鉄丁幾
鹽化鉄丁幾	亞的兒製鹽化鉄丁幾	林檎酸鉄丁幾
沒食子丁幾	ケンチアナナ丁幾	複方ケンチアナナ丁幾
癩瘡木丁幾	揮發性瘧瘡木丁幾	(鹼砂加瘧瘡木丁幾)
綠黎蘆丁幾	ヘレノー丁幾	忽布丁幾
ヒオス丁幾	ヨシウム丁幾	複方ヨシウム丁幾
脱色ヨシウム丁幾	吐根丁幾	ヤーラツバ丁幾

複方ヤーラツバ丁幾	キノノ丁幾	ラクニア丁幾
ラリシス丁幾	複方ラーヘンデル丁幾	(ラーヘンデル丁幾)
檸檬丁幾	ロベリア丁幾	亞的兒製ロベリア丁幾
リユブリア丁幾	肉豆蔻丁幾	亞的兒製肉豆蔻丁幾
麝香丁幾	沒藥丁幾	揮發鹽化鉄丁幾
(ベスチニヘフ氏神經丁幾)	番木鱉丁幾	阿片丁幾
安息香阿片丁幾	合電華漢氏阿片丁幾	單阿片丁幾
脫臭阿片丁幾	鹼砂精加阿片丁幾	地榆丁幾
複方松茸丁幾	ビレトリユム丁幾	括失亞丁幾
規尼涅丁幾	鹼砂精加規尼涅丁幾	ヤーラツバ脂丁幾
大黃丁幾	水製大黃丁幾	酒製大黃丁幾
大黃加旂那丁幾	カビナ丁幾	麒麟血丁幾
海葱丁幾	加里加海葱丁幾	麥奴丁幾
遠志丁幾	旂那丁幾	セルベンタリア丁幾
複方スピランチス丁幾	蔓陀羅華丁幾	亞的兒製馬錢子丁幾
琥珀丁幾	シユンブル丁幾	ナニヤ丁幾
トリユタナ丁幾	トキシコデンドリ丁幾	細草丁幾
亞的兒製細草丁幾	鹼砂精加細草丁幾	ブアノルラ丁幾

生姜 丁幾  
 亞的兒製失鳩答丁幾  
 白黎蘆丁幾

強生 姜丁幾  
 亞的兒製非沃斯丁幾

亞的兒製莫若丁幾  
 亞的兒製龍腦丁幾

酒 劑

蘆 葎 酒	苦 味 酒	芳 香 酒
橙 皮 酒	龍 腦 酒	機 那 酒
コ ロ シ ャ ム 酒	コ ロ シ ャ ム 根 酒	コ ロ シ ャ ム 實 酒
麥 奴 酒	鈇 酒	拘 櫟 酸 鈣 酒 (拘 櫟 酸 ア ン モ ニ ャ 鈣 酒)
吐 根 酒	ペ ア ン チ 酒	大 黃 酒
海 葱 酒	ア ン ナ モ ニ ー 酒	煙 草 酒
酒 石 酸 加 里 鏡 酒		

●明治十三年(九月)乙第五十七號  
 濁酒釀造人コシテ釀造ノ濁酒檢査ノ後搾リ器械ヲ用ヒ清酒ニ紛ラハンキ販賣スル儀ハ素ヨリ  
 不相成管候條心得違ノ儀無之樣該營業ノモノヘ無洩可相違此旨相違候事  
 ●明治十三年(十二月)乙第九十五號  
 釐餉營業稅則取扱心得書  
 大藏省乙第四十號達十一月廿四日  
 本年九月第四十一號ヲ以テ釐餉營業稅則御布告相成候ニ付右取扱心得書別紙之通相定儀條此

旨相違候事

釐餉營業稅則取扱心得書

第一款 營業免許

- 第一項 免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ租稅局ヘ申出之ヲ受取置クヘシ
- 第二項 免許鑑札雅形及ヒ其記載方ハ第一號圖式ノ如シ
- 第三項 製造場ハ倉庫ノ棟數ニ拘ラス都テ其ノ一區域ヲ以テ一箇所トシ免許鑑札ヲ授與スヘシ
- 第四項 免許鑑札ハ其年一期有効ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フ者アルトキハ最初授與シタル鑑札差出サセ其鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許証印(第五項雅形ノ如シ)ヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ
- 但鑑札裏面餘白盡キタルトキハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ
- 第五項 免許証印ハ左ノ雅形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調製スヘシ  
 但其証印方郡區長ヘ委任ノ向ト雖モ各府縣廳ニ於テ之ヲ調製シ相渡スヘシ
- 明治何年一期  
 細輪郭 角切 字体楷書  
 印肉朱 寸法壓巾曲尺一寸四分  
 釐餉營業免許之証 横巾曲尺四分
- 第六項 稅則第六條免許鑑札買賣讓與ノ節其書換方若シ甲乙兩管廳ニ交渉スルトキハ雙方逃署ノ書面ニ免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳(賣渡讓渡人所在ノ管廳)ニ出願セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳(買受讓受人所在ノ管廳)ヘ添翰(該期免許稅納済且免許鑑札ハ取置キタル旨明記ス

（シ）ヲ作り之ヲ下渡シ乙管廳ニ於テハ甲管廳ノ添翰ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ  
但製造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管ニ交渉スルモノモ本項ノ手續ニ據ルヘシ

第七項 廢業ノ者ハ其届出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

第八項 廢業並書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取經メ十年當省乙第七號達ニ據リ不取締  
無之様消却スヘシ

第九項 稅則第八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製セシムヘシ

寸法 堅巾曲尺三尺 横巾曲尺八寸

免許鑑札ノ番號

第何號

荷越賣捌所

何府國郡區  
何縣國町村  
何

某

第十項 稅則第五條賣上帳簿差出シタルトキハ其記載ノ石數及ヒ購求者居所姓名等精駁ニ檢

查ヲ遂ケ檢印ノ上下渡スヘシ而シテ該帳簿ハ營業中之ヲ保存セシムヘシ

第十一項 營業取締ノ爲メ便宜ニ主任官出張シ之ヲ點檢スヘシ

第二款 申牒期限

第十二項 稅則第四條販賣見込ノ石數ハ每一期分第二號雛形ニ倣ヒ石數表ヲ調製シ其期十一  
月十五日限り差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

但本文届出ノ後其増減ハ三箇月毎ニ取經メ製表ノ上翌月十五日限り差立テ租稅局ヘ送付  
スヘシ

第十三項 新規營業人員ハ三箇月毎ニ取經メ第三號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ翌月十五日限  
リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第十四項 免許鑑札受拂ハ每一期分第四號雛形ニ倣ヒ計算表ヲ調製シ翌期十月十五日限り差  
立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第十五項 返納鑑札消却ノ分ハ第五號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ翌期十月十五日限り差立テ  
租稅局ヘ送付スヘシ

第十六項 營業稅ハ每一期分第六號雛形ニ倣ヒ稅表ヲ調製シ翌期十月三十日限り差立テ租稅  
局ヘ送付スヘシ

第十七項 販賣シタル石數ハ每一期分第七號雛形ニ倣ヒ石數表ヲ調製シ翌期十一月十五日限  
リ差立租稅局ヘ送付スヘシ

第一號雛形

地方管廳ノ押切印

製造場  
國郡區町村番地

第何號  
釀造製造營業免許鑑札

租稅局長ノ印割

何府國郡區  
何縣國町村  
番地  
之  
誰

年月日

免許ノ年月日

四五〇

第二號雛形

何府	明治何年一期	釀造販賣見込	石數表			
何縣						
郡區	製造見込	全上増	全上減	差引	石高	製造場數
別						人員

第八類 酒類釀造

四五二

合計		町 郡 區		姓 名
		地 區		
右、明治何年一期醬麴製造營業新規免許人名書面之通候也		何 府(縣)		府(縣)長官姓名印
年 月 日		大 藏 卿 宛		
第三號雜形		大 藏 卿 宛		府(縣)長官姓名印
明治何年度		大 藏 卿 宛		
醬麴新規營業人名表		大 藏 卿 宛		府(縣)長官姓名印
明治何年度		大 藏 卿 宛		
合計		町 郡 區		姓 名
		地 區		
右、明治何年一期醬麴製造營業新規免許人名書面之通候也		何 府(縣)		府(縣)長官姓名印
年 月 日		大 藏 卿 宛		

四五二

第四號雜形		町 郡 區		姓 名
		地 區		
何 府(縣)		何 府(縣)		府(縣)長官姓名印
明治何年一期醬麴製造免許鑑札受拂計算表		大 藏 卿 宛		
件 名		大 藏 卿 宛		府(縣)長官姓名印
鑑 札 枚 數		大 藏 卿 宛		
越 高		大 藏 卿 宛		府(縣)長官姓名印
受、受取高		大 藏 卿 宛		
計		大 藏 卿 宛		府(縣)長官姓名印
新規渡		大 藏 卿 宛		
再 渡		大 藏 卿 宛		府(縣)長官姓名印
替換渡		大 藏 卿 宛		
計		大 藏 卿 宛		府(縣)長官姓名印
差 引 殘		大 藏 卿 宛		
廢業返納		大 藏 卿 宛		府(縣)長官姓名印
替換返納		大 藏 卿 宛		
外		大 藏 卿 宛		府(縣)長官姓名印
		大 藏 卿 宛		

四五三

第八類 酒類醬麴



右、明治何年一期醬麴製造免許鑑札受拂書面之通候也  
年月日

大藏卿宛

府(縣)長官姓名印

第五號雛形

明治何年度

醬麴返納鑑札消却人名表

何府(縣)

凡例

事故欄内へ、廢業賣渡讓與改名代替轉居等ノ別ヲ記入スヘシ

事故 鑑札番號

國 郡 町 村 番 地 區

姓名

合計

右、明治何年一期醬麴營業者廢業並ニ書換返納鑑札人名書面之通候也  
年月日

大藏卿宛

府(縣)長官姓名印

第六號雛形

何府 明治何年一期醬麴營業稅表

郡區 種別

營業稅 製造場數 人

員

合計

右、明治何年一期醬麴營業稅書面之通候也

年月日

大藏卿宛

府(縣)長官姓名印

第七號雛形

何府 明治何年一期醬麴販賣石數表

郡區 種別

販賣石高 製造場數 人

員

合計

第八類 酒類醬麴

右ハ明治何年一期醬麴販賣石數書面之通候也

年月日

大 藏 卿 宛

府(縣)長官姓名印

郡 區 役 所

●明治十四年(二月)丙第十五號

醬麴營業取締ノ爲メ酒造検査員ヲシテ臨時點檢爲致候條該營業人へ無洩可相達此旨相達候事

●明治十六年十一月十二日番外

酒造稅則第四條第二項ニ依リ酒類製造免許ヲ受ケタル後非常ノ災害ニ罹リ酒類醸造元米諸器  
械等ヲ滅損スルノ類ニシテ實際止テ得サルノ事故アルモノヲ除クノ外徒ラニ種々ノ口實ヲ設  
ケ制限石高ヨリ減却セシモノハ翌期營業ノ免許ヲ與ヘサル儀モ可有之候條心得違無之様可致  
此旨諭達候事

●明治十七年(一月)乙第二號

郡區役所 戶長役場

自家用料酒類製造ノ義ニ付テハ明治十五年十二月第六十一號布告ノ旨モ有之無鑑札製造ノモ  
ノ無之筈ノ處問々犯則ニ陥リ候モノモ有之甚ク不相濟事ニ候條心得違ノモノ無之様厚ク申諭  
スヘシ此旨相達候事

●明治十九年(九月)縣令甲第六號

勅令第六十號ヲ以テ酒造稅則附則改定相成及大藏省令第二十七號ヲ以テ自家用料酒類製造者  
心得定メラレ候ニ付テハ更ニ左之通相定ム

但明治十七年十月本廳甲第百十七號布達中第二章自家用料酒之部第五十二項ヨリ第五十五

項及ヒ明治十八年十一月本廳甲第二百一號布達ハ廢止ス

第一條 自家用料ノ酒類、飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スル者(製造免許ヲ請  
フ者ハ第一號雛形ニ倣ヒ第一期造込ノ種目石數ヲ詳記シ其年九月三十日限り所轄郡區役所  
へ届出ヘシ)

但十月後新ニ免許ヲ受クルモノハ其時々届出ヘシ

第二條 前條届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々所轄租稅検査員派  
出所及郡區役所へ届出ヘシ

第三條 免許鑑札ヲ受ケタルモノハ自家用料酒製造ノ標札ヲ第二號雛形ニ倣ヒ戶外ニ掲出ス  
ヘシ

第四條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨所轄郡區役所へ届出再  
渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第五條 造酒ノ石數ハ製成シタル(濁酒白酒ハ造込ノ儘)石數ヲ以テ計算スルモノトス

第六條 造酒石數ハ隨時検査セシムヘシ

第七條 造酒水火靈災並腐敗等ニ係リ人爲ヲ以テ防禦スヘカシサル者ニ限り所轄租稅検査員  
派出所及郡區役所へ届出租稅検査員ノ検査ヲ受ケ代造スルヲ得

第一號雛形 (廿年九月縣令甲第百二十號ヲ以テ改正)

明治何年度自家用料酒類製造石高届  
自分共儀明治何年度自家用料酒類左ノ通製造仕候尤モ臨時増減及ヒ日限伸縮候節ハ其時々御



●明治廿年(二月)訓令甲第四十二號  
 自家用料酒製造免許鑑札受拂計算表本年度(明治十九年四月ヨリ全廿年三月マテ)以降翌年度四月五日限リ別紙雛形ノ通り調製シ本廳へ差出ヘシ  
 用紙美濃紙

郡區役所

何郡區明治何年度自家用料酒製造免許鑑札受拂計算表

差引殘高	拂			受取高	作越高	名鑑札枚數	人員
	計	再規渡	書換渡				

外書換返納計	廢業返納

右之通候也  
 年月日 收稅長宛 何(郡區)長 姓 名印

●明治廿一年(十二月)訓令甲第百號

郡區役所 戶長役場

自家用料酒釀造之義ニ付テハ説諭方法ル十七年九月廿二日戶長役場へ達置候次第モ有之候處  
 尙近來往々無鑑札釀造若クハ清酒造リ等ノ違犯ヲ爲シ懲罰ヲ受クルモノ有之右ハ畢竟本人ノ  
 不注意ニ出候義ニ付此際猶部内人民へ心得違無之様懇到諭示スヘシ

●明治廿一年(二月)訓令乙第六號

郡區役所

酒造醬油製造營業鑑札而之地番號ニ誤謬ヲ發見シ訂正ヲ要スルモノハ租稅檢査員ヲシテ訂正  
 セシムヘク候條自今右訂正出願者有之節ハ其願書ヲ所管租稅檢査員派出所へ回送スヘシ

●明治廿二年(二月)縣令甲第十一號

酒造及ヒ醬油製造營業人免許鑑札下附出願スルトキハ自今鑑札下附スルニ止メ指令相廢止  
 候條此旨心得ヘシ

○醬油

●明治廿年(七月)縣令甲第百九號  
 酒醬油煙草賣藥菓子營業人ニ於テ檢査ヲ受クヘキ帳簿ハ總テ檢査ヲ受クル後三ヶ年間保存シ  
 置キ檢査ノ都度參照ニ供スヘシ

●明治廿一年(一月)訓令乙第百六號  
 酒造醬油製造營業鑑札面ノ地番號ニ誤謬ヲ發見シ訂正ヲ要スルモノハ租稅檢査員ヲシテ訂正  
 セシムヘク候條自今訂正出願者有之節ハ其願書ヲ所管租稅檢査員派出所ヘ回送スヘシ

●明治廿一年(八月)縣令甲第百八十九號  
 醬油製造營業人心得別冊之通改定シ來ル九月一日ヨリ施行ス

醬油製造營業心得

第一項 醬油稅則第一條ノ免許鑑札ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ニ據ルヘシ

第二項 醬油製造人後見人ヲ立テタルトキ又ハ後見人ヲ變換シタルトキハ第二號書式ニ據リ  
 届出ツヘシ

第三項 醬油製造營業ノ免許ヲ受ケタルトキハ製造場一ヶ所毎ニ左ノ雛形ニ據リ標札ヲ調製  
 シ其年査定ヲ受クヘキ見込石數ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ但見込石數ヲ増減シタルトキハ  
 其時々之ヲ更正スヘシ

第八類 醬油

廿三年一月縣  
 令甲第百九號  
 以テ第四項中  
 第四號ノ下第  
 廿號ノ四字ヲ  
 追加ス

三 尺

免許鑑札番號 製 造 場

新潟縣何國郡區町村番地

一 醬 油 何 石

一 溜 何 石

新潟縣何國郡區町村番地(寄留)

製 造 人 何 某

寸 八 横

第四項 醬油稅則施行細則第三條第五條ノ届出ハ第三號第四號書式ニ據リ毎年一月十日限リ  
 租稅檢査員派出所ニ届出ツヘシ

但新タニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ本項ニ據リ免許後十日以内ニ届出ツヘシ

第五項 前項届出ノ後増減又ハ變換アルトキハ其時々届出ツヘシ尤モ査定ヲ受ケヘキ見込石  
 數ノ増減ハ第五號書式ニ據リ租稅檢査員派出所ニ届出ツヘシ

第六項 其年査定ヲ受クヘキ醬油ハ其容器ノ側面ヘ左ノ如ク記載シタル木札ヲ掲ケ置クヘシ

横 二 寸 五 分

本年度査定ヲ受クヘキ石數ノ内

第七項 醬油稅則施行細則第六條ノ代理人ヲ置クトキハ製造ニ關スル一切ノ事ヲ熟知シタル者ヲ撰定シ委任狀ヲ付與シ雙方運署ノ書面ヲ作り委任狀寫ヲ添ヘ租稅檢査員派出所ニ届出ツヘン但後見人ニ事故アリ代理人ヲ置クトキモ亦本項ニ據ルヘン

第八項 醬油稅則施行細則第十一條ニ依リ鑑札再渡又ハ書換ヲ請フ時ハ第六號書式ニ據ルヘン

第九項 醬油製造人廢業セシトキハ第七號書式ニ據ルヘン

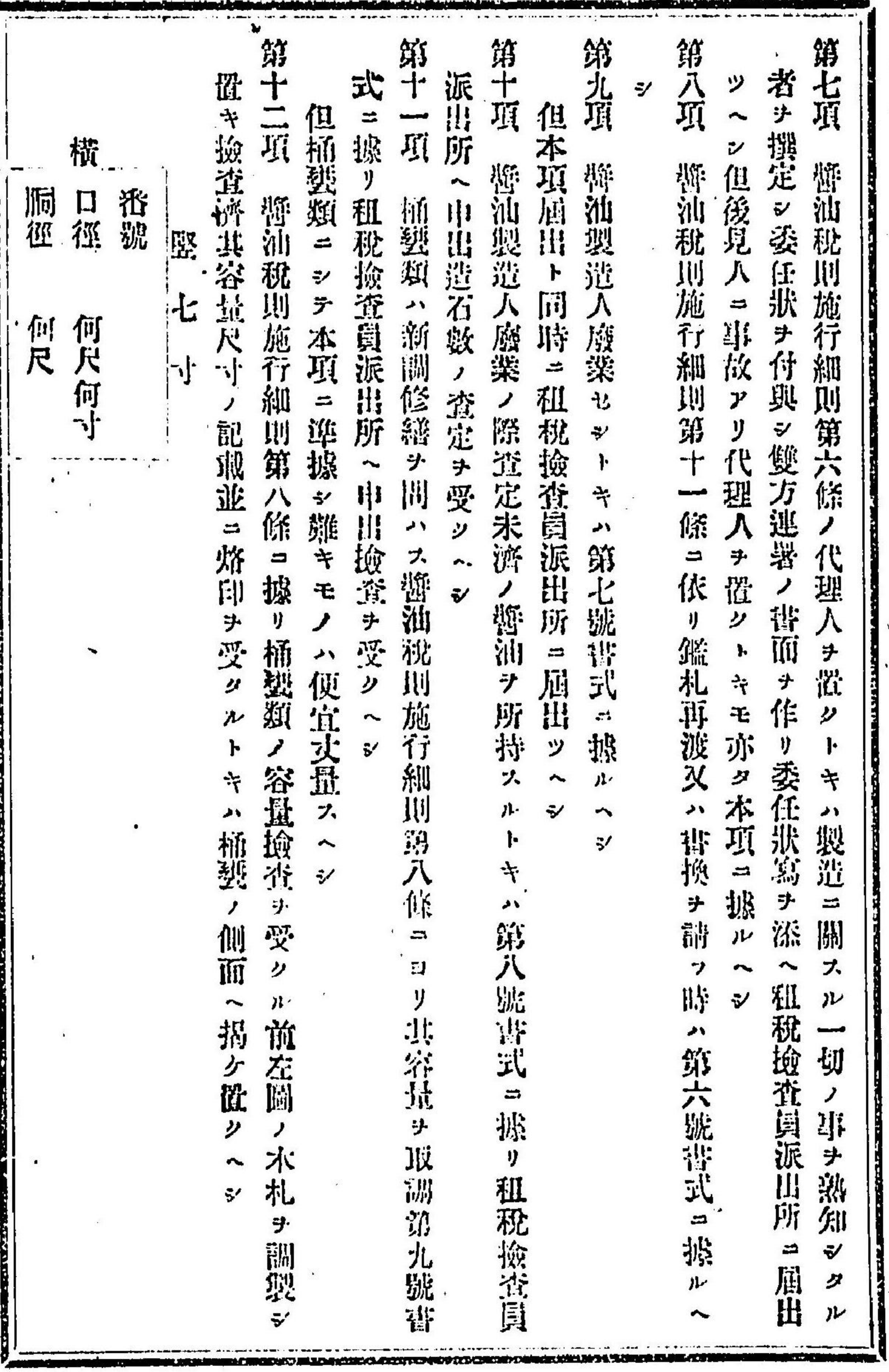
但本項届出ト同時ニ租稅檢査員派出所ニ届出ツヘン

第十項 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ第八號書式ニ據リ租稅檢査員派出所ヘ申出遺石數ノ査定ヲ受クヘン

第十一項 桶製類ハ新調修繕ヲ開ハス醬油稅則施行細則第八條ニヨリ其容量ヲ取調第九號書式ニ據リ租稅檢査員派出所ヘ申出檢査ヲ受クヘン

但桶製類ニシテ本項ニ準據シ難キモノハ便宜丈量スヘシ

第十二項 醬油稅則施行細則第八條ニ據リ桶製類ノ容量檢査ヲ受クル前左圖ノ木札ヲ調製シ置キ檢査濟其容量尺寸ノ記載並ニ烙印ヲ受クルトキハ桶製ノ側面ヘ掲ケ置クヘシ



廿二年七月縣令甲第八十九號ヲ以テ第十九項ヲ改正ニ付直ニ訂正記載ス

八	底徑 何尺	桶製ノ大小ニ依リ寸方ヲ伸縮スルモ妨ケナシ
寸	深 何尺	
	石數何石	
	年月日	
	調査セシ官氏名	

第十三項 桶製類ハ製造場一ヶ所毎ニ逐次番號ヲ付シ其他ノ諸器械ハ番號ヲ付スルニ及ハスト雖トモ鐵器陶器等ノ類ヲ除クノ外ハ渾テ管應ノ烙印ヲ受クヘシ

第十四項 桶製類容量調査簿ハ増減ノ都度檢査員ニ於テ之ヲ扣除スルヲ以テ營業人ハ之ニ調印スヘシ

第十五項 調査濟ノ桶製類及諸器械ヲ賣買讓與貸借又ハ返却スルトキハ其番號及品目員數等ヲ記載シ雙方運署ノ書面ヲ以テ其旨租稅檢査員派出所ヘ届出ツヘシ

但本人所持ノ儘醬油製造場不用ニ屬シタルトキハ其時々届出ツヘシ

第十六項 醬油稅則第五條ノ遺石査定ヲ受ケントスルトキハ第十號書式ニ據リ租稅檢査員派出所ニ申出査定ヲ受クヘシ

第十七項 醬油ハ一ト仕舞毎ニ分界ヲ爲シ査定ヲ受クヘシ若シ數仕舞ヲ合シ査定ヲ受ケントスルトキハ豫メ其旨申出檢査員ノ指示ヲ受クヘシ

第十八項 檢査員ニ於テ遺石査定ヲ爲シ醬油檢査簿ニ其石數ヲ記入シタルトキハ營業人ハ之レニ調印スヘシ

第八類 醬油

廿三年一月縣令甲第四號ヲ以テ第十九項中査定未濟醬油ノ下ニ査定濟醬油并製成ヲ追加ス

第十九項 査定未濟醬油ヲ買入レタルトキハ第十一號第十二號第十三號書式ニ據リ其都度租稅檢査員派出所へ申出檢査ヲ受クヘシ

但本項買入ノ際仕切書又ハ送狀等取置キ檢査ノ節参照ニ供スヘシ

第二十項 前項査定未濟ノ醬油ハ其原品並一ト仕舞ノ仕込方法第十七號書式ニ據リ順號ヲ透ヒ仕込帳ニ記載スヘシ

第二十一項 醬油仕込ヲ爲ストキハ其都度第十四號書式ニ據リ若手前租稅檢査員派出所ニ届出ツヘシ

但仕込濟ノ上ハ其旨届出ツヘシ

第二十二項 醬油仕込申ノモノハ甲號ノ通仕込濟ノモノハ乙號ノ如ク本札ヲ調製釘付シ置クヘシ

第何號仕込  
甲 何年何月何日始メ

第何號仕込  
乙 何年何月何日始メ

號	號
大豆	何石
麥	何石
水	何石

第二十三項 査定未濟醬油ヲ二仕舞以上合併セントスルトキハ檢査員ノ承認ヲ得第何號仕込ニ

廿二年縣令甲第四十五號ヲ以テ本行中第十八號ノ下ヘ第十八號ノ四ノ字ヲ追加

合併セシ旨ヲ仕込帳ニ記載シ置クヘシ

第二十四項 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製シ第十五號第十六號第十七號第十八號書式ニ據ル

- 第一 醬油製造原品買入帳
- 第二 醬油麴製造帳
- 第三 醬油仕込帳
- 第四 醬油賣上帳
- 第五 醬油製成帳(廿二年縣令甲四十五號ヲ以テ追加)

第一號 醬油製造營業免許願

新潟縣何國郡區町村番地

製 場

右製造場ニ於テ醬油製造營業仕度候間免許鑑札御下渡被下度此段相願候也

新潟縣何國郡區町村番地(寄留)

(原籍府縣何國郡區町村番地)

右後見人 何 某

新潟縣何國郡區町村番地(寄留)

第八類 醬油

四六七

四六六

(原籍府縣何國郡區町村番地)

何 某

縣知事宛

區戸長ノ與書ヲ要ス以下之レニ準ス但住所ト製造場ヲ異ニスルモノハ製造場處在地區戸長ノ與書ヲ要ス

第二號

御 届

私儀(醬油營業御許可相成居候處何々ノ事故ニ依リ何ノ誰ヲ以テ後見人トシ)(何ノ誰ヲ以テ後見人トシ)醬油營業御許可相成候ニ付テハ右後見人ヲ以テ(兼テ何ノ誰ヲ以テ後見致サセ居候處何々ノ事故ニ依リ自後更ニ何ノ誰ヲ以テ後見人トシ)營業萬般ノ義負擔致サセ候間此段御届仕候也

年月日

新潟縣何國郡區町村番地(寄留)

營業人 何 某

新潟縣何國郡區町村番地(寄留)

右後見人 何 某

各通

縣知事(新潟縣租稅檢査何派出所)宛  
第一號書式ニ據リ後見人ヲ立テ免許ヲ受ケタルモノハ其際ニ限リ縣廳ヘノ届出ヲ要セス親族二名以上ノ連署ヲ要ス

廿三年一月縣令  
甲第四號ヲ以テ第三號  
書ニ自今市町村長ノ與書ヲ要セストス

第三號

何年度査定受ヘキ醬油見込石數御届

新潟縣何國郡區町村番地

製 造 場

免許鑑札番號

一醬油 何石

大豆 何石 但幾仕舞

麥 何石

白米 何石

鹽 何石

水 何石

何々 何石

右ハ明治何年度査定ヲ受クヘキ醬油見込石數前書之通ニ有之候尤モ以後増減有之節ハ其時々御届仕候也

(以下第一號書式ニ倣フヘシ)

何年度査定受ヘキ醬油釀造方法書

新潟縣何國郡區町村番地

製 造 場

免許鑑札番號

醬油一ト仕舞釀造法

仕込番號

第八類 醬油



仕込年月日

一大 豆 何石

一麥 何石

一米 何石

一鹽 何石

一何々 何石

右壹度仕込ノ分

但幾度仕込ヲ以テ一仕舞トス

此見込醬油 何石

右ハ明治何年度査定ヲ受クヘキ醬油釀造方法前書之通ニ有之候尤ク以後變更候節ハ其時々御届可仕候也

(以下第一號書式ニ倣フヘシ)

第四號

製造場建物並諸器械調書

免許鑑札番號

一醬油製造場建物

内

新潟縣何國郡區町村番地

製 造

場

廿三年一月縣令甲第四號ヲ以テ第三號届書ニ自今市町村長ノ與書ヲ要セストス

醬油製造ニ屬スル分

一倉 庫 (何間何間) 何坪

但二階 (何間何間) 何坪

一全 (何間何間) 何坪

但掛出 (何間何間) 何坪

一穀 藏 (何間何間) 何坪

一納 屋 (何間何間) 何坪

一何々 (何間何間) 何坪

醬油製造ニ屬シサル分

一居 宅 (何間何間) 何坪

一倉 庫 (何間何間) 何坪

一納 屋 (何間何間) 何坪

一桶糞並水桶大豆浸桶粕桶(第何號ヨリ第何號マテ)

内欠號 何 個

第何號 第何號

一槽 (第何號ヨリ第何號マテ) 何 個

内借入 (第何號ヨリ第何號マテ) 何 個

一男社 (第何號ヨリ第何號マテ) 何 本

穴藏 (何間何間) 何坪

麴室 (何間何間) 何坪

何 個



前記之通相違無之候也

(以下第一號書式ニ倣フヘシ)

一製造場ニ屬セサル分ハ朱線ヲ以テ書シ屬不屬ノ區別ヲ明瞭ナラシムヘシ

第五號

何年度査定ヲ受クヘキ醬油製造見込石數増減御届

新潟縣何國郡區町村番地

製

造

場

何年何月何日御届高

廿三年一月縣  
令甲第四號ヲ  
以テ第五號届  
書ニハ自今市  
町村長ノ與書  
\*要セストス

免許鑑札番號

一醬油

大豆

麥

米

鹽

水

何々

一醬油

大豆

麥

米

何々

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

何石

今度(増減)石高

鹽 何石  
水 何石  
何々 何石

合計(差引)

醬油

大豆

麥

米

鹽

水

何々

更訂高

何石

何石

何石

何石

何石

何石

右ハ明治何年度査定ヲ受クヘキ醬油製造見込石數前記ノ通増減石仕候此段御届仕候也

(以下第一號書式ニ倣フヘシ)

第六號

醬油製造營業免許鑑札(書換再渡)願

新潟縣何國郡區町村番地

製

造

場

免許鑑札番號

一醬油製造營業免許鑑札

第八類 醬油

右ハ何年何月何日(遺失毀損又ハ代替轉居改氏名製造場移轉其他事故)ニ付(書換再渡)被下  
度此段相願候也

(以下第一號書式ニ做フヘシ)

第七號

醬油製造廢業御届

新潟縣何國郡區町村番地

製 造 場

一 免許鑑札番號  
右製造場ニ於テ醬油製造營業能任候處今般廢業仕度候間免許鑑札相添此段御届仕候也

(以下第一號書式ニ做フヘシ)

第八號

查定未濟醬油御検査願

一 查定未濟醬油何石

但何年何月何日第何號仕込(右ハ第何號仕込ノ内)

右ハ今般醬油製造廢業仕候處前記之醬油所持仕居候間御検査被下度此段相願候也

新潟縣何國郡區町村番地(寄留)

醬油製造營業人

何 某

(後見人アルトハ第一號書式ニ做フヘシ)

年 月 日

新潟縣租稅検査員何派出所  
御 中

第九號

醬油桶(甕)容量御検査願

新潟縣何國郡區町村番地

製 造 場

免許鑑札番號

第何號

一桶(甕)

但新調(買入)(譲受)(修繕)

口 徑 何尺何寸何分

胴 徑 何尺何寸何分

底 徑 何尺何寸何分

深 何尺何寸何分

此石數何石何斗

右容量御検査被下度相願候也

(以下第八號書式ニ做フヘシ)

一新調買入等ノ番號ハ在來桶甕ノ順號ヲ逐ヒ起號スヘシ若シ順號中欠號アルハ其欠號ヲ填  
補スヘシ

第八類 醬油

第十號

醬油御検査願

新潟縣何國郡區町村番地

製 造

場

免許鑑札番號

但第何號補入

一醬油(溜)何石

但何年何月造第何號仕込(又ハ第何號仕込ノ内)

右來ル何日頃御検査被下度相願候也

(以下第八號書式ニ倣フヘシ)

第十一號

査定未濟醬油買入御届

新潟縣何國郡區町村番地

製 造

場

免許鑑札番號

一査定未濟醬油(溜)何石

但何年何月何日ヨリ何年何月何日迄仕込ノ分

此原品

大豆

大 豆

麥

米

何 石

何 石

水 何 石  
 何 々 何 石  
 右ハ何國郡區町村番地(寄留)何某儀何年何月何日醬油製造廢業候ニ付前記ノ石數賣買仕候  
 間雙方連署ヲ以テ此段御届仕候也

新潟縣何國郡區町村番地(寄留)

賣渡人 何 某

新潟縣何國郡區町村番地(寄留)

醬油製造營業人

買受人 何 某

(後見人アルハ第一號書式ニ倣フヘシ)

年 月 日

新潟縣租稅検査員何派出所御中

第十二號

査定濟醬油買入御届

新潟縣何國郡區町村番地

製 造

場

免許鑑札番號

何年何月仕込ノ分

仕込 第何號

一査定濟醬油何石

第八類 醬油

但何年何月何日新潟縣何國郡區町村番地製造場ニ於テ査定濟ノ分  
右ハ何縣國郡區町村番地(寄留)醬油製造營業人何某ヨリ前記ノ醬油賣買仕候間雙方連署ヲ  
以テ此段御届仕候也

第十三號

(以下第十一號書式ニ倣フヘシ)

製成醬油買入御届

新潟縣何國郡區町村番地

製 造 場

免許鑑札番號

一製成醬油 何石

右ハ何縣國郡區町村番地(寄留)醬油製造營業人何某ヨリ前記ノ石數賣買仕候間此段御届仕  
候也

(以下第八號書式ニ倣フヘシ)

第十四號

醬油醸造者手御届

新潟縣何國郡區町村番地

製 造 場

免許鑑札番號

一仕込第何號ヨリ第何號マテ

此一仕舞ノ方法

幾 仕 舞

大豆 何石  
麥 何石  
米 何石  
鹽 何石  
水 何石  
何々 何石  
右一度仕込ノ分  
但幾度仕込ヲ以テ一仕舞トス  
右ハ明治何年何月何日頃ヨリ前記ノ醸造方法ヲ以テ仕込着手仕候尤モ以テ後變更候節ハ其時  
々御届可仕候也

(以下第八號書式ニ倣フヘシ)

一醸造法ノ異ナルモノハ各別ニ記載スヘシ  
第十五號

明治何年度  
醬油製造原品買入帳

横帳ニ調製スヘシ  
(以下各帳之レニ倣フヘシ)

第十六號

表		裏	
國郡區町村番地	何	製造場ノ番地ヲ記スヘシ	
免許鑑札番號			

凡例

一此帳簿ニハ各租類ニ口別ヲナシ記載シ月末ニ至テ小計通計ヲ付記スヘシ

月 日

一大豆 何 石

此代價何圓何拾錢

月 日

一大豆 何 石

此代價何圓何拾何錢

月 日

(以下之レニ做フヘシ)

何國郡區町村

何某ヨリ買入

右全人ヨリ買入

第十七號

表		裏	
國郡區町村番地	何	製造場ノ番地ヲ記スヘシ	
免許鑑札番號			

凡例

一此帳簿ニハ麴室ニ入レタル大豆麥等ノ石數及年月日ヲ其時々詳記シ月末ニ至テ小計通計ヲ付記スヘシ

月 日

一大豆 何 石

月 日

一大麥 何 石

月 日

一大豆 何 石

月 日

一大麥 何 石

(以下之ニ做フ)

表

醬油仕込帳

裏

凡例

一此帳簿ニハ醬油仕込釀造法同一ナルモノハ一々大豆麥米鹽水等記載ニ及ハスト雖セ順號月日ハ勿論一ト仕舞ノ計ニハ必ス石數ヲ記載スヘシ

第一號 仕込之部

三度仕込	月	二度仕込	月	一度仕込	月	第一號
汲食米麥大	日	汲食米麥大	日	汲食米麥大	日	仕込之部
水鹽 豆		水鹽 豆		水鹽 豆		
何何何何何		何何何何何		何何何何何		
石石石石石		石石石石石		石石石石石		

第八類 醬油

三度仕込	月	二度仕込	月	一度仕込	月	計
汲食米麥大	日	汲食米麥大	日	汲食米麥大	日	汲食米麥大
水鹽 豆		水鹽 豆		水鹽 豆		水鹽 豆
何何何何何		何何何何何		何何何何何		何何何何何
石石石石石		石石石石石		石石石石石		石石石石石

第二號 何縣國郡區町村番地(寄留)何某ヨリ何年何月何日買入ノ分



廿二年四月十五日  
 令甲以第四十五  
 號ヲ以テ第十  
 九號式ヲ追加  
 帳簿式ヲ追加  
 三十一丁ニ掲  
 載スル第一月  
 廿三年一月縣  
 令甲第四號ヲ  
 以テ追加ス  
 油仕込見込石  
 高届サ追加ス  
 第三編二百三  
 十三丁ニ記載

第十八號

(以下之レニ倣フ)

計	大豆	何石
	麥	何石
	米	何石
	食鹽	何石
	汲水	何石
	表	
	蠶油賣上帳	
	裏	
	蠶	

凡例  
 一此帳簿ハ御賣ハ其石數代價及年月日買入人住所氏名現金賣ハ其石數代金ヲ日計ノ記入  
 スルモノトス尤モ其貨價ニ係ルモノハ口分ケ又ハ別帳ニ製シ之レニ倣ヒ記入スヘシ  
 ●明治廿二年(二月)縣令甲第十一號  
 酒造及ヒ醬油製造營業人免許鑑札下付出願スル片ハ自今鑑札下付スルニ止メ指令相廢止候  
 條此旨心得ヘシ

○煙草

●明治十六年七月六日番外  
 煙草稅則本月一日ヨリ實施ノ儀ハ發令後已ニ數月ヲ經過シ一般熟知ノ筈ニ候得共萬一等閑ニ  
 心得居自然犯則ノ者有之候テハ不都合ニ付心得違無之様注意可致此旨相達候事

●明治十六年(八月)甲第百號  
 賣藥及煙草營業者他府縣下ニ行商中該府縣ニ於テ印紙貼用方檢査有之節ハ其檢査ヲ可相受此  
 旨布達候事

●明治十七年(五月)乙第六十四號  
 賣藥煙草營業人ノ内檢査官臨場ノ節本人不在ニテ鑑札始メ營業ニ關スル諸帳簿書類物品器械  
 等ノ所在不分明ナル越申立ルモノアリ甚タ以テ不都合ノ事ニ候餘自今本人不在ノ節ハ其家族  
 又ハ雇人等ニ於テ無差支檢閱ニ供シ候様該營業人ニ相達ヘシ此旨諭達候事

●明治十八年(十二月)甲第百廿七號  
 煙草賣藥菓子營業人ハ別紙甲號式ノ檢査簿ヲ頒布スヘキニ付主任官臨檢ニ際シ其記入ヲ受ク  
 煙草賣切人ハ別紙乙號帳簿ヲ調製スヘシ  
 右布達候事

(別紙) 甲號



清印スヘシ

一請買者行商者及自用者ニシテ同上ナルトキハ元ト賣渡シタル營業者ニ印紙貼用若クハ清印  
セシムルカ又ハ返却スヘシ若シ賣渡人所在地不明ナルトキハ直ニ毀却スヘシ

●明治廿年(七月)縣令甲第九號

酒醬油煙草賣藥菓子營業人ニ於テ檢査ヲ受クヘキ帳簿ハ總テ檢査ヲ受クルノ後三ヶ年間保存  
シ置キ檢査ノ都度參照ニ供スヘシ

●明治廿年(十二月)訓令甲第六十四號

戸長 役場

煙草營業人家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サシメントスルトキハ其雇人ハ雇主ノ家ニ寢食  
スル者ニ限リ鑑札下附スヘキ等ニ付自今願書差出候際雇主ノ家ニ寢食スル者タルコトヲ戸長  
ニ於テ篤ト取札シ相違ナキ旨與書証明スヘシ

●明治廿年(十二月)縣令甲第七十六號

煙草菓子營業人仕入出賣ノ各鑑札及煙草賣藥營業者印紙買入鑑札賣藥行商鑑札ニハ自今携帶  
人年齡ヲ記入下附スヘキニ付右鑑札下附方出願スルトキハ該願書ニ携帶人氏名ノ左側ニ其年  
齡ヲ記シ出願スヘシ

但從前所持ノ鑑札ハ此際年齡取調所轄郡區役所ニ差出シ記入ヲ請フ可シ

●明治廿一年(六月)縣令甲第六十九號

煙草營業者心得書別冊之通制定來ル七月一日ヨリ施行ス

煙草營業者心得

- 第一條 煙草營業ヲ爲サントスルモノハ第一號第二號書式ニ從ヒ建物圖面及坪數營業ニ從事  
スル雇人弟子ノ員數器械ノ種類個數等ノ調書並廿一年四月大藏省告示第五十八號ニ據リ証  
約狀(掲記ノ金額ハ郡區長ノ指示ニ從フヘシ)ヲ調製シ郡區役所ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ  
但雇人器械ノ員數建物ノ坪數等ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々願出ヘシ
- 第二條 二人以上資力ヲ合セ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員連名ヲ以テ第一條ニ據  
リ願出免許鑑札ノ下附ヲ請フヘシ
- 第三條 煙草製造人免許ヲ受ケタル後代替轉居改氏名營業場ノ移轉等アルトキハ証約狀ヲ書  
換フヘシ
- 第四條 煙草營業者ハ稅則第二條但書ノ場合ニ於テ後見人ヲ立ツルトキハ第二號書式ニ從ヒ  
郡區役所及租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ
- 第五條 營業場ヲ他管下又ハ他郡區ニ移轉セントスルモノハ願書ニ免許鑑札ヲ添ヘ前管廳ニ  
願出添翰ノ下附ヲ請フヘシ
- 第六條 煙草營業者不在又ハ事故アルトキハ其家族又ハ雇人中ニ於テ代理人ヲ定メ置キ煙草  
稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辦セシメ其氏名ハ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ
- 第七條 營業者死亡シ其相續人未定ナルトキハ管財人ヲ定メ五日以内ニ郡區役所並ニ租稅檢  
査員派出所ニ届出ツヘシ
- 第八條 煙草營業者ハ第四號雛形ノ標札ヲ戶外ニ掲クヘシ
- 第九條 煙草製造及仲買ノ營業免許ヲ受ケタルトキハ第五號第六號書式ニ據リ租稅檢査員派

一請賣者行商者及自用者ニシテ同上ナルトキハ元ト賣渡シタル營業者ニ印紙貼用若シハ清印  
セシムルカ又ハ返却スヘシ若シ賣渡人所在地不明ナルトキハ直ニ毀却スヘシ

●明治廿年(七月)縣令甲第百九號

酒醬油煙草賣藥菓子營業人ニ於テ檢査ヲ受クヘキ帳簿ハ總テ檢査ヲ受クルノ後三ヶ年間保存  
シ置キ檢査ノ都度參照ニ供スヘシ

●明治廿年(十二月)訓令甲第六十四號

戸長役場

煙草營業人家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サシメントスルトキハ其雇人ハ雇主ノ家ニ寢食  
スル者ニ限リ鑑札下附スヘキ等ニ付自今願書差出候際雇主ノ家ニ寢食スル者タルコトヲ戸長  
ニ於テ篤ト取札シ相違ナキ旨與書証明スヘシ

●明治廿年(十二月)縣令甲第百七十六號

煙草菓子營業人仕入出賣ノ各鑑札及煙草賣藥營業者印紙買入鑑札賣藥行商鑑札ニハ自今携帶  
八年齡ヲ記入下附スヘキニ付右鑑札下附方出願スルトキハ該願書ニ携帶人氏名ノ左側ニ其年  
齡ヲ記シ出願スヘシ

但從前所持ノ鑑札ハ此際年齡取調所轄郡區役所ニ差出シ記入ヲ請フ可シ

●明治廿一年(六月)縣令甲第六十九號

煙草營業者心得書別冊之通制定來ル七月一日ヨリ施行ス

煙草營業者心得

第一條 煙草營業ヲ爲サントスルモノハ第一號第二號書式ニ從ヒ建物圖面及坪數營業ニ從事  
スル雇人弟子ノ員數器械ノ種類個數等ノ調書並廿一年四月大藏省告示第五十八號ニ據リ証  
約狀(掲記ノ金額ハ郡區長ノ指示ニ從フヘシ)ヲ調製シ郡區役所ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但雇人器械ノ員數建物ノ坪數等ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々願出ヘシ  
第二條 二人以上資力ヲ合セ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員連名ヲ以テ第一條ニ據  
リ願出免許鑑札ノ下附ヲ請フヘシ

第三條 煙草製造人免許ヲ受ケタル後代替轉居改氏名營業場ノ移轉等アルトキハ証約狀ヲ書  
換フヘシ  
第四條 煙草營業者ハ稅則第二條但書ノ場合ニ於テ後見人ヲ立ツルトキハ第三號書式ニ從ヒ  
郡區役所及租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第五條 營業場ヲ他管下又ハ他郡區ニ移轉セントスルモノハ願書ニ免許鑑札ヲ添ヘ前管廳ニ  
願出添翰ノ下附ヲ請フヘシ  
第六條 煙草營業者不在又ハ事故アルトキハ其家族又ハ雇人中ニ於テ代理人ヲ定メ置キ煙草  
稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシメ其氏名ハ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第七條 營業者死亡シ其相續人未定ナルトキハ管財人ヲ定メ五日以内ニ郡區役所並ニ租稅檢  
査員派出所ニ届出ツヘシ  
第八條 煙草營業者ハ第四號離形ノ標札ヲ戶外ニ掲クヘシ  
第九條 煙草製造及仲買ノ營業免許ヲ受ケタルトキハ第五號第六號書式ニ據リ租稅檢査員派

出所へ届出へシ

- 但届出ノ後異動ヲ生シタルトキハ其時々届出ツヘシ
- 第十條 烟草製造人ノ製造器械ハ租税検査員ノ検査ヲ受ケ番號ノ記入及管轄ノ烙印ヲ請フヘシ
- 第十一條 烟草營業者又ハ其家族雇人ニシテ仕入出賣ヲ爲シタルトキハ第七號書式ニ據リ郡區役所ニ願出鑑札ヲ受ケ必ス之ヲ携帶スヘシ
- 但廢業スルハ鑑札ヲ返納スヘシ
- 第十二條 烟草稅則施行細則第廿六條鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フハ第八號書式ニ據リ郡區役所ニ願出ツヘシ
- 第十三條 烟草營業ニ關スル諸帳簿ハ第九號書式ニ倣ヒ調製シ其都度詳記スヘシ
- 第十四條 烟草ノ仕入出賣ヲ爲スルハ適宜帳簿ヲ調製シ之ヲ携帶シテ其授受ノ種類量目個數ヲ記載シ置クヘシ
- 第十五條 烟草營業者ニシテ賣買未定ノ烟草ノ入荷又ハ人ノ依頼ニ依リ荷預リヲ爲スルハ帳簿ヲ調製シテ其預リタル事由並ニ種類量目年月日(預ケ主賣主)業名氏名等ヲ記載シ置クヘシ
- 第十六條 製造烟草ハ烟草稅則施行細則第十條ニ據リ各自適宜裝置スヘシト雖モ紙ハ硬質ノ料紙ト至強ノ封糊トヲ用ヒ鞏固ニスヘシ
- 第十七條 製造烟草ノ定價ハ需用者ニ賣渡スヘキ小賣代價ヲ付記スヘシ

廿二年十二月廿六日  
縣令甲第百六十三號ヲ以テ  
第十三條以下順次  
除シテ  
繰上リ

但印紙稅額厘位ニ滿タサル定價ハ附記スルヲ得ス(廿一年縣令甲七十五號ヲ以テ追加)

第十八條 製造烟草ハ包裏ノ表面ニ左ノ雛形ノ如ク彫刻シタル印章ヲ黒肉ヲ以テ押捺スヘシ  
但小包ノ烟草ニシテ印章ヲ押捺シ難キモノハ筆記スルモ妨ナシ

新	何國何郡區何町村香地	製造人	何之誰
製造	年月日	字	休
定	量	(本)	價
定	金	錢	厘
寸	縣	瀧	新

第十九條 製造烟草ノ包裏ニ各種ノ商標彩紋裝飾ヲ加フルハ製造人ノ便宜ニ任スト雖モ其見

本ヲ豫メ租税検査員派出所へ届出ヘシ

第二十條 封緘ノ要部ニ貼付スヘキ烟草印紙ヲ連貼スルハ二枚ニ限ルモノトシ三枚以上ハ貼スヘシ

第二十一條 烟草印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ニシテ自己ノ氏名ヲ彫刻シタル印章黒肉ヲ以テ押捺スヘシ

第二十二條 烟草營業者所持ノ烟草ニシテ天災其他抗拒スヘカシタル事故ニ罹リ其包裏及貼用印紙ノ毀損又ハ汚染セル場合ニ於テ印紙ノ交換ヲ請ハントスルモノハ其事實ヲ詳記シ直チ

第八類 烟草

廿三年十二月  
縣令甲第九十  
四號ヲ以テ第  
廿七條(第廿  
八條ニ當ル)  
ヲ削除シ以下  
順次繰上シ

ニ租稅檢査員派出所へ届出テ檢査員ノ證明ヲ受ケヘシ  
但仕入出賣及運送ノ途次ニ於テ本文ノ災害ニ罹リタルハ最寄租稅檢査員派出所へ届出  
證明ヲ請フヲ得

第廿三條 烟草仲買人小買人ニ於テ製造烟草ノ包裹又ハ貼用印紙ヲ毀損汚染シタルハ原製  
造人又ハ最寄製造人ニ委託シテ更ニ改貼スヘシ

第廿四條 製造烟草ノ改裝ヲ爲スモノハ都テ烟草稅則施行細則第十條ニ準シ裝置シ其年月日  
改裝ト附記スヘシ

第廿五條 外國製ノ刻煙草ヲ崩賣ト爲シ或ハ包裹ヲ改メ又ハ卷煙草ニ改裝スルハ烟草稅則  
施行細則第十條ノ手續ヲ爲スヘシ

第廿六條 烟草營業者廢業スルハ營業ニ關スル鑑札ヲ郡區役所へ還納シ製造人ハ同時ニ第  
十號書式ニ據リ租稅檢査員派出所へ届出製造器械ノ封緘ヲ受ケヘシ

第廿七條 烟草製造場外ニ於テ葉取葉捲又ハ質卷ヲ爲サシムルモノハ製造人ヨリ其場所及住  
所氏名年齢ヲ租稅檢査員派出所へ届出ヘシ

第廿八條 煙草製造人ハ毎年一(七)月五日限リ前半年分ノ煙草買入高製造高賣捌高及印紙貼  
用高ヲ取調租稅檢査員派出所へ届出ツヘシ

第廿九條 煙草荷物ヲ運送スルニ方リ荷主其荷物ニ付添フトキハ送狀ヲ添付スルニ及ハス又  
荷主付添ハサルモ同時ニ數個ヲ運送スルトキハ各個ニ送狀ヲ添付セサルモ妨ナシ  
但營業ニ關スル送狀仕切書ハ總テ取經メ置キ租稅檢査員ノ檢閱ニ供スヘシ

第三十條 烟草營業人營業上ニ用ユル印影荷印屋號等第十一號雜形ニ倣ヒ取調租稅檢査員派  
出所へ届出ヘシ  
但變更アルトキハ其時々届出ヘシ

(明治廿一年七月縣令甲七十五號ヲ以テ以下四條ヲ追加ス)

第三十一條 烟草施行細則第十五條ノ商品見本ハ毎種一場ニ陳列シ其包裹ノ表面へ(見本何  
年何月何日切披)ト明記シ置クヘシ

第三十二條 烟草營業者内外國産製ノ烟草ヲ賣買スルモノハ外國産製ノ烟草ト混同セラル様  
其置場所ヲ區別スヘシ

第三十三條 烟草製造營業者數ヶ所ニ製造營業免許ヲ受クルトキハ一ヶ所毎ニ証約狀ヲ差出  
スヘシ

第三十四條 烟草營業人出賣仕入ヲ爲ストキハ其携帶ノ容器(箱、風呂敷、ツツ、コリ等ノ類  
ヲ云)ニ本人ノ營業資格住所氏名又ハ携帶セシムルトキハ其ノ携帶人住所氏名ト明記シ置  
クヘシ

附 則 (廿一年縣令甲八十一號ヲ以テ附則ヲ追加)

第三十五條 烟草營業者所持ノ印紙買入鑑札ハ此際郡區役所へ還納スヘシ

第三十六條 大藏省第五十八號告示証約狀調製手續第三項最寄郡區内トアリ若シ最寄郡區内  
ニ於テ保証人ヲ得ラレサル場合ハ全管内ニ通スルモ妨ケナシ

第三十七條 烟草營業者稅則第三十八條第三十九條第二項ノ場合ニ於テ刻烟草卷烟草ヲ改裝

スル片ハ第九號雜形刻煙草製造裝置ノ部仲買人小賣人ニ於テハ刻煙草買入ノ部へ各朱字書  
 テ以テ其量目、價數、定價、ヲ記入スヘシ  
 第三十八條 前條ノ場合ニ於テ煙草仲買人小賣人印紙買入ヲ爲ス片ハ第九號雜形印紙買入帳  
 簿ニ倣ヒ帳簿ヲ調製シ印紙買入ノ都度之ヲ携帶スヘシ  
 第三十九條 煙草稅則施行以前ノ製造ニ係ル紙卷煙草、葉卷煙草ニシテ紙包又ハ箱入ノ儘密  
 封シアルモノハ其儘定價ヲ附記シ相當印紙ヲ貼用シ九月卅日限リ販賣スルヲ得  
 第四十條 煙草營業者本年七月一日以降ニ持越シタル刻煙草ハ營業者心得書第九號雜形ニヨ  
 リ各帳簿へ記入スルトキハ每壹個定價ノ欄へ何錢以上又ハ何錢未滿ト明記シ新舊ノ區別ヲ  
 爲スヘシ

第一號

煙草(製造)仲買營業免許願

何國郡(町村)番地

營業場

右營業場ニ於テ煙草(製造)仲買營業仕度候間免許鑑札御下渡被下度候別紙、証約狀並ニ建  
 物圖面相添此段相願候也

何國郡(町村)番地(寄留)

原籍何國郡(町村)番地

願人 何

某

年月日

生年月

何國郡(町村)番地

原籍何國郡(町村)番地寄留

願人何某後見人

何

某

郡區長宛

戸長ノ與書ヲ要ス以下之レニ準ス但シ住所ト營業場ヲ異ニスルモノハ營業場處在地戸長ノ  
 與書ヲ要ス

第一號附錄

煙草(製造)仲買營業場建物器械雇人調書

一家屋 (何棟何坪)

一倉庫 (何棟何坪)

一納屋 (何棟何坪)

一製造器械 (何臺)

一雇人 (何人)

内刻職工何人  
前書之通相違無之候也

年月日

郡區長宛

何國郡(町村)番地

何

某

凡例

製造器械ハ本人又ハ雇人ノ所持タルヲ問ハス總テ煙草製造ニ使用スルモノヲ云フ  
煙草刻ニ職工ハ營業主ノ外ハ家族子弟ト雖モ刻ニ方ニ從事スル者ヲ加フヘシ  
建物圖面



前記之通相違無之候也

年月日

凡例

一製造及ヒ仲買營業チ一人ニシテ全一ノ場所ニ於テ爲スモノハ製造及仲買營業ノ場所ヲ區別シ各願書ニ添付スヘシト雖モ區別スルヲ能ハサルモノハ製造營業願書ヘノニ添付シ仲買營業願書ノ分ヘハ其旨付箋ニ置クヘシ

第二號

煙草小賣營業免許願

何國郡(町村)番地

營

業場

右營業場ニ於テ煙草小賣營業仕度候間免許鑑札御下渡被下度此段相願候也

何國郡(町村)番地(寄留)

原籍何國郡(町村)番地

願人 何

某

生年月

凡例 郡區長宛



後見人ヲ立ルルハ第三號書式ヲ除クノ外總テ後見人ノ氏名ヲ以テスヘシ以下書式之ニ倣フ

第三號

煙草(製造仲買小賣)營業後見人届

何國郡(町村)番地

煙草(製造仲買小賣)營業

何 某

年 齡

私儀何々ノ事由ニ據リ(事由ヲ明記スヘシ)營業上措辦致シ難クニ付何ノ誰ヲ以テ見後トシ營業上一切ノ義担当爲致候間親族連署ノ上此段御届仕候也

右

年月日

右後見人

何 某

親族

何 某

何 某

郡區長宛

租稅検査員地名派出所宛

備考 親族二名以上ノ連署ヲ要ス

第四號

鑑札番號

木札寸法

豎二尺九

寸巾八寸

煙草(製造仲買)營業

何縣何郡區(町村)番地

氏名

第五號

煙草(製造仲買)營業免許御届

何國郡(町村)番地

氏名

生年月

私儀本月何日煙草(製造仲買)營業免許相成候ニ付別紙(從事者及)建物圖面(並ニ諸器機調書)相添此段御届申上候也

右煙草(製造仲買)營業人

何 某

租稅検査員地名派出所宛

第八類 煙草

第六號

煙草(製造仲買)營業場建物(諸器械雇人員數)調査  
鑑札番號

一 煙草營業場

郡區(町村)番地

一家 屋

(何棟何坪)

煙草(製造販賣)場

一 倉 庫

(何棟何坪)

煙草藏置場

一 納 屋

(何棟何坪)

煙草藏置場

一 製造器械之部(仲買人ハ之レヲ除ク)

何

壺

一 姫川原器械

何

壺

一 麻布器械

何

壺

(但雇人何某所持ノ分)

營業ニ屬スル家族及雇人之部(仲買人ハ之レヲ除ク)

妻

長男

何

た

何

れ

某

五〇一

郡區(町村)番地

雇人

何

某

生年月

全

全

全

上

生年月

前書之通相違無之以後異動有之候節ハ其時々御届可致建物圖面相添此段御届仕候也

何國郡(町村)番地

煙草(製造仲買)營業

何

某

年 月 日

租稅檢査員地名派出所宛

(備考) 建物圖面ハ第一號附錄離形ニ據リ調製スヘシ

第七號

煙草(製造仲買小賣)(仕入出賣)鑑札願

何國郡(町村)番地

屬 籍

何

某

生年月

第八類 煙草

五〇三

全

(家族雇人) 何

某

生年月

自分儀(家族雇人何某)(仕入出賣)致(爲致)度候間鑑札御下付被下度此段相願候也

右煙草製造仲買小賣(營業人)

何 某

年月日 郡區長宛

第八號

煙草(製造仲買小賣)鑑札(書換再渡)願

何國郡(町村)番地

鑑札番號

何 某

一煙草何々鑑札

右ハ何年月日何々(遺失毀損又ハ代替轉居改氏名營業場移轉其他事故)候ニ付(書換)再渡被

下度此段相願候也

年月日 郡區長宛

右 何 某

第九號

年 號

煙草製造帳

何國何郡區(町村)番地

煙草製造人

何 某

凡例

一各帳簿ハ都テ其年七月ヨリ翌年六月迄ノ分ヲ登記スルモノトナ故ニ七月一日ニ至テハ新規

帳簿ヲ調製シ六月三十日ノ殘高ヲ新帳簿ノ初項ヘ越高トシ詳細記載スヘシ

一各種兼業スルモノハ各別ニ製調スヘシ

一各帳簿ハ都テ毎月末ニ至リ計ヲ付スヘシ

一用紙ハ美濃、内山等ヲ用ユヘシ

葉煙草買入之部

買入月日 買入順號種類 量目 代價 封印ヲ受 買入先住所 業名 氏名

七月一日 高越第九號大鹿七貫目七五拾六錢 五月四日

第八類 煙草

五〇五

全	越第大號關原	五百貫目	九拾四錢	六月二日	
全	越第百號大鹿	九貫目	七拾貳錢	六月廿五日	
全	七月一日第一號米澤	五百貫目	七拾三錢	七月二日	山形縣田川郡 仲買人 何之 誰
全	第二號大鹿	拾二貫目	九拾貳錢	○	新潟縣中頸城郡 仲買人 何之 誰
全	七月二日第三號赤塚	六貫目	三拾三錢	○	新潟縣西蒲原郡 村 耕作人 何之 誰
全	七月四日第四號關原	五貫目	拾四錢	七月七日	新潟縣三島郡 村 耕作人 何之 誰
計五拾八貫目 金拾五圓六錢九厘					
内					
大鹿貳拾八貫目		金拾壹圓壹錢六厘			
關原拾五貫五百目		金三圓八錢			
米澤八貫五百目		金六拾三錢七厘			
赤塚六貫目		金三拾三錢六厘			

五〇六

凡例

一番號ハ買入ノ都度區別ヲ立テ番號ヲ付スヘシ例ヘハ明治二十一年一月一日始メテ一貫目ノ葉煙草ヲ買入ル、トキハ一號トシ一月二日ニ二貫目ヲ買入レタルトキハ二號トス若シ一日中數度ノ買入ヲナストキハ買入ノ口毎ニ順次番號ヲ付スヘシ又同時ニ數種類ノ買入ヲナス時ハ一個毎ニ番號ヲ付シ判明ナラシムルヲ要ス

一封印ヲ受シ月日ノ欄ニハ買入タル葉煙草ニ封印ヲ受ケシ月日ヲ記載シ租稅檢査員ノ認印ヲ受ケ置クヘシ

一買入順號中越第何號トアルハ前帳簿記載ノ番號ヲ移記スヘシ

歲第	出番	出號	右	揚
七	一	一	七月七日	七月十日
元業	○	元業	壹貫八百目	壹貫
拾貫目	○	七貫目	二貫五百目	貳貫
營業人實印		葉菜	壹貫二百目	
此	大鹿	赤塚		
葉	七貫目	三貫目		
葉	越第九號	第三號ノ内		
號	番	入	計	六貫五百目

第八類 煙草

五〇七



第 號	內ノ號一第		內	
	壹貫目		七月十日	
賣渡 日區 月日	刻烟草賣渡之部	計	六貫五百目	
			裝置 百目	三拾四個
七月七日	百目	貳拾五錢	及個數	八十目
			拾	貳拾貳個
賣渡 日區 月日	刻烟草賣渡之部	計	貼用	印紙
			貳拾五錢	貳百四拾個
賣渡 日區 月日	刻烟草賣渡之部	計	高	三圓六拾七錢六厘
			貳拾五錢	貳百四拾個
賣渡 日區 月日	刻烟草賣渡之部	業名	氏	何
賣渡 日區 月日	刻烟草賣渡之部	業名	氏	何
賣渡 日區 月日	刻烟草賣渡之部	業名	氏	何

五二〇

七月八日	全	百目	全	十個	全	右	同	人
全	全	五十目	拾四錢	拾五個	全	何	之	誰
全	全	五十目	貳錢	二十五個	全	右	同	人
全	全	八十目	貳拾錢	五個	全	右	同	人
七月九日	全	八十目	貳拾錢	三個	全	何	之	誰
七月十日	全	五十目	拾四錢	二個	全	何	之	誰
計		六拾三個						
內譯		五十目	十七個					
		百目	拾三個					
		八十目	八個					
		五十目	二十五個					
卷烟草製造裝置之部								

第八類 烟草

五二一



十七日	二百本入	貳拾五錢	三個	同縣中浦原郡	仲買人	何	之	誰
全	六本入	壹錢	六百個	全	右	同	人	
十七日	十本入	貳錢	四十九個	同縣北浦原郡	小賣人	何	之	誰
十七日	百本入	拾貳錢	九個	同縣西浦原郡	全	何	之	誰
二十日	計	六百八十三個		內譯				
	百本入	拾貳個						
	二百本入	三	個					
	五十本入	十九	個					
	十本入	四十九	個					
	六本入	六百	個					

五一四

年號	烟草印紙買入帳	何國何郡區町村落 地 烟草製造人 何 某			
凡例	一本帳ハ烟草稅則施行細則第二十二條ニ據リ買入ノ年月日印紙ノ種類枚數及代價等印紙賣捌 人ヲシテ記載セシメ其名下ニ押印セシムヘシ				
烟草印紙買入帳					
買入年月日	印紙種類	枚數	代價	印紙賣捌人住所	印紙賣捌人氏名
背月二日越高	壹錢	百枚	壹圓		
全	貳錢	五十枚	壹圓		
全	貳厘	二百枚	四拾錢		

第八類 烟草

五一五



年號	計	臨時藏出帳	何國何郡區町村番地 煙草製造人 何
全	三	錢十五枚 四拾五錢	
全	四	錢四十枚 壹圓六拾錢	
七月三日	八	厘八枚 六錢四厘	新潟區古町通一 番町一番地
七月七日	四	厘十五枚 六錢	同 五番町 十番地
全	六	厘二十枚 貳錢	
全	壹	錢貳厘 五十枚 六拾錢	
全	六	錢五十枚 三圓	
七月二十日	八	錢二十五枚 貳圓	
計	五百七十三枚	拾圓貳拾九錢四厘	
年號			右同 人○

五一六

臨時藏出及藏戻ノ部			
買入月日	買入順號	種類	元葉量目
七月一日	越第百一號	大鹿	九貫目
七月四日	第四號	關原	五貫目
七月一日	第一號	米澤	五貫五百目
七月一日	越第百八號	關原	九貫五百目
開封日	開封事由	仕揚量目	檢査受封印 藏戻年月日
七月二日	裝葉ノ爲	八貫五百五十目	廿一年 七月六日
七月七日	卷葉ノ爲	二貫四百目	同 年 七月十二日
七月十三日	砂掃ノ爲	五貫貳百目	同 年 七月十五日
七月十五日	裝葉ノ爲	九貫目	同 年 七月廿日

凡例  
一本帳ハ月計ヲ付スルニ及ハズ  
一檢査受封印藏戻年月日ノ欄ヘハ租稅檢査員ノ認印ヲ受ケ置クヘシ

年號

刻煙草受託改裝帳

何國何郡區町村番地  
煙草製造人  
何

某

第八類 煙草

五一七



葉煙草買入ノ部		買入月日	買入順號	種類	量	目代價	買入先住所	業名	氏名
七月一日	越第百號	越第百號	大鹿	八貫目	六拾八錢				
全	越第百號	越第百號	大鹿	八貫目	六拾八錢				
全	越第百號	越第百號	大鹿	八貫目	六拾八錢				
七月一日	越第九十號	越第九十號	米澤	五貫五百目	四拾壹錢				
七月一日	第一號	第一號	米澤	三貫目	貳拾貳錢				
七月二日	第二號	第二號	三春	十二貫目	六圓三錢				
七月四日	第三號	第三號	大鹿	八貫五百目	六拾八錢				
全	第四號	第四號	大鹿	九貫目	八拾壹錢				
計五十一貫目					金九圓四拾三錢貳厘				
内譯									
大鹿	廿五貫五百目				金貳圓拾五錢五厘				
赤塚	五貫目				金貳拾八錢				

葉煙草買入ノ部		買入月日	買入順號	種類	量	目代價	買入先住所	業名	氏名
七月一日	越第八十一號	越第八十一號	赤塚	五貫目	三拾三錢六厘				
七月四日	越第九十號	越第九十號	米澤	五貫五百目	四拾九錢四厘				
七月五日	第二號	第二號	三春	十二貫目	七圓六拾三錢				
七月七日	越第百號	越第百號	內大鹿	五貫目	四拾八錢六厘				
七月十日	第四號	第四號	內大鹿	八貫目	七拾七錢七厘				
計三十五貫五百目					金九圓七拾貳錢五厘				
内譯									
赤塚	五貫目				金三十三錢六厘				
米澤	五貫五百目				金四拾九錢四厘				

三春 十二貫目 金七圓六拾三錢貳厘  
大鹿 十三貫目 金壹圓貳拾六錢三厘

刻烟草買入ノ部

買入月日	包裏區分	每一個定價	買入個數	買入先住所	業名	氏名
七月一日	百目	貳拾五錢	百個			
全	五十目	拾四錢	五拾五個			
七月二日	五目	貳錢	二十個	新潟縣新潟區古町 通一番町	製造人	何之誰
全	五十目	拾五錢	八個	同縣中浦原郡 泉町	仲買人	何之誰
七月五日	百目	廿四錢	十個	全		右同人
計百九十三個						
內譯						
百目 百十個						
五十目 六十三個						

五目 二十個

刻烟草賣渡之部

賣渡月日	包裏區分	每壹個定價	賣渡個數	賣渡先住所	業名	氏名
七月一日	百目	貳拾五錢	五十個	新潟縣西浦原郡 內野村	仲買人	何之誰
七月二日	五十目	拾四錢	三十個	同縣同郡 尾村	小賣人	何之誰
七月三日	五十目	拾五錢	五個	同縣中浦原郡 垂町	全	何之誰
七月四日	五目	貳錢	拾五個	同縣古志郡 岡町	仲買人	何之誰
七月七日	百目	貳拾四錢	五個	同縣新潟區 本町通三番町	小賣人	何之誰
計百五個						
內譯						
百目 五十五個						
五十目 三十五個						
五目 拾五個						

卷烟草買入部

買入月日	包裏區分	定每	價一個	買入個數	買入先住所	業名	氏	名
七月一日	百本入	拾四錢	四十個					
全	五十本入	七錢	十九個					
七月一日	百本入	拾貳錢	十個		新潟縣新潟區本町	製造人	何	之
全	六十本入	壹錢	五百個		新潟縣新潟區本町	仲買人	何	之
七月三日	十本入	貳錢	三十個		同縣中浦原郡	町	全	右
計五百九十九個								
內譯								
	百本入			五十個				
	五十本入			十九個				
	六十本入			五百個				
	十本入			三十個				

卷烟草賣渡部

賣渡月日	包裏區分	定每	價一個	賣渡個數	賣渡先住所	業名	氏	名
七月一日	百本入	十四錢	十五個		新潟縣新潟區	大川前通六番町	小賣人	何
七月三日	五十本入	七錢	五個		同縣西浦原郡	村	全	何
七月四日	六十本入	壹錢	百個		同縣中浦原郡	酒屋村	仲買人	何
全	五十本入	七錢	七個				全	右
全	百本入	拾四錢	十個				全	右
七月六日	百本入	拾貳錢	五個		同縣新潟區	古町通三番町	小賣人	何
計百四十二個								
內譯								
	百本入			三十個				
	五十本入			十二個				
	六十本入			百個				

舶來製造烟草買入之部			
買入月日	種	個數	買入先住所業名氏
七月一日	ゴロゲン	十五箇	
七月二日	リツナモンド	二十箇	
七月一日	全	五十箇	東京府京橋區尾張町
七月二日	ゴルデン	七十箇	新潟縣新潟區古町通
計百五十五箇			
内譯			
ゴルデン		八十五個	
リツナモンド		七十個	
舶來製造烟草賣渡之部			
賣渡月日	種	個數	賣渡先住所業名氏
七月一日	ゴルデン	十箇	新潟縣新潟區古町通
計一箇			
内譯			
ゴルデン		十箇	
リツナモンド		十箇	

第八類 烟草			
年號	烟草買入帳	何國郡區町村番地	烟草小賣人
七月三日	リツナモンド	五箇	全
七月八日	ゴルデン	四十二箇	同縣南浦原郡
計八十七箇			
内譯			
ゴルデン		五十二個	
リツナモンド		三十五個	
何			
之			
誰			



製造烟草現在之部		刻 烟 草 卷 烟 草	
現在調月日	包裹區分個數	現在調月日	包裹區分個數
七月卅一日	五 匁 廿 八 個	七月卅一日	六 本 入 六 十 二 箇
全	五 十 匁 卅 二 個 全	全	五 十 本 入 卅 一 箇
全	百 匁 十 八 個	全	
計	七 十 八 個	計	八 十 三 箇
舶來製造烟草買入帳			
買入日	種 類	個 數	代 價
七月一日	ゴ ル デ ン	五 個	五 拾 五 錢
越 高	リ ッ ナ モ ン ド	八 個	貳 圓
全			
住 入 所	先 業 名 氏 名		
新潟區本町通九番町	仲買人 何 之 誰		
新潟區古町通七番町	仲買人 何 之 誰		
古志郡長岡表五ノ町	仲買人 何 之 誰		

製造烟草現在之部		刻 烟 草 卷 烟 草	
現在調月日	包裹區分個數	現在調月日	包裹區分個數
七月三日	ゴ ル デ ン 十 個	七月三日	壹 圓 拾 錢
計	二 拾 三 個	計	二 拾 三 個
内 譯			
ゴ ル デ ン	十 五 個	壹 圓 六 拾 五 錢	
リ ッ ナ モ ン ド	八 個	貳 圓	
第十號 烟草製造器械封緘願			
器械番號 一 烟草製造器械 何 個			
私儀今度烟草營業廢業致候間前記ノ器械御封緘被下度此段相願候也			
何國郡(町村)番地 何 某			
年月日			



租稅檢査員地名派出所宛

第十一號

御 届

- 一 實 印 ○
- 一 認 印 ○
- 一 仕 切 印 ○
- 一 荷 印 ○
- 一 屋 號 何々屋 (又倉等ノ類)

右之通相違無之爾後變更候節ハ其時々御届可仕候也

何國郡(町村)番地

烟草(製造仲買小賣)營業人

何 某

年 月 日

租稅檢査員地名派出所宛

●明治廿一年(六月)縣令甲第七十號

客年九月縣令甲第百二十二號烟草取締規則別冊之通改定來ル七月一日ヨリ施行ス

烟草取締規則

第一條 問屋及委託ヲ受ケ物品ノ販賣ヲ業トスルモノ烟草賣買ノ仲間ニ立テ雙方ノ紹介ヲ爲シ口錢手數料ヲ取ルモノハ烟草稅則ニ據リ烟草仲買營業免許鑑札ヲ受ケヘシ

第二條 外國産製ノ烟草ヲ販賣スルモノハ烟草稅則ニ據リ仲買又ハ小賣營業免許鑑札ヲ受ケヘシ但刻烟草ノ包裝ヲ改メ或ハ崩賣ヲナシ又ハ卷烟草ニ改装スルモノハ烟草製造營業免許鑑札ヲ受ケ成規ノ裝置ヲ爲シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三條 草木ノ葉ニ烟草ヲ混和シ又ハ烟草ノ煎汁等ヲ加ヘ製造スルモノハ風味名稱ノ如何ニ拘ハラス總テ烟草稅則ニ據ルヘシ

第四條 内國産製ニアラサル烟草ヲ買入レタルモノハ其種類數量並ニ賣渡シタル仲買人ノ賣仕切書ヲ添ヘ租稅檢査員派出所ヘ届出檢査ヲ受ケヘシ

第五條 烟草製造人及製造兼仲買營業ヲ爲スモノ未製造烟草ヲ買入レタルモノハ其種類數量ヲ租稅檢査員派出所ニ届出封緘ヲ受置キ使用ヲ要スルモノ毎ニ届出開封ヲ請フヘシ

第六條 官沒ニ係リ公賣スル葉烟草ハ製造人仲買人ノ外買受クルヲ得ス製造烟草ニシテ無印紙不足印紙及ヒ包裝ノ解綻毀損シタルモノハ製造人ニ限り之ヲ買受ケ成規ノ裝置ヲ爲スヘシ

第七條 烟草稅則第十三條第十四條中ノ賣渡抵當流レトナリタル烟草ヲ烟草製造人又ハ烟草仲買人ニ於テ買受ケタルトキハ其種類數量及賣渡人ノ住所氏名共租稅檢査員派出所ヘ届出

第八條 烟草營業人廢業スル片ハ所持ノ烟草ヲ取調ヘ租稅檢査員派出所ヘ届出六十日以内ニ

左ノ區分ニ從ヒ之ヲ賣渡スヘシ  
一 廢業ノ製造人其所持ニ係ル未製造烟草ハ仲買人ニ賣渡シ製造烟草ハ仲買人又ハ小賣人

廿三年二月縣令甲第十五號ヲ以テ第十一條ヲ刪除シ以下順次繰上リテ令甲第五十八號ヲ以テ第十八條ヲ改正ス

ニ賣渡スヘシ

一 廢業ノ仲買人其所持ニ係ル未製造烟草ハ製造人又ハ仲買人ニ賣渡シ製造烟草ハ製造人賣戻シ又ハ仲買人小賣人ニ賣渡スヘシ

三 廢業ノ小賣人其所持ニ係ル製造烟草ハ製造人仲買人ニ賣戻シ又ハ仲買人ニ賣渡スヘシ

第九條 第八條ノ烟草ヲ賣渡シタルトキハ買受人連署租稅檢査員派出所へ届出ツヘシ(廿一年縣令甲七十四號ヲ以テ追加)

第十條 烟草耕作人ハ明治廿年十二月縣令甲第七十八號ニ依リ帳簿ヲ調製シ其都度記入スヘシ

第十一條 烟草耕作人ノ帳簿ハ毎年三月中戶長役場ニ差出シ租稅檢査員ノ檢閲ヲ受クヘシ但時宜ニヨリ必要ト視認ムル時ハ本人ニ就キ隨時檢閲スルコトアルヘシ

第十二條 烟草耕作人ノ耕作地反別及株數ハ毎年收穫前ニ於テ租稅檢査員實地調査スルコトアルヘシ

第十三條 烟草製造營業者法律規則ニ違背シ管轄ヨリ証約金徵收ヲ命スルニ方リ期限ヲ經過スルカ又ハ証約金額ヲ更定セシメ若クハ之ヲ徵收シテ更ニ其証約狀ヲ改徵スルノ際其期限ヲ過キテ証約狀ヲ差出サ、ルトキハ免許鑑札ヲ取上ケ營業ヲ停止スヘシ

第十四條 烟草仲買人小賣人ハ自作ノ業烟草ヲ製造人仲買人ニ賣渡スコトヲ得ルト雖モ自用ノ爲メ製造スルコトヲ得ス

○印紙

●明治十二年(十月)甲第九十八號  
本年第三十九號布告印稅見本之儀ハ各郡區役所へ相渡置候條此旨布達候事

●明治十四年(五月)乙第三十三號  
郡區役所 戶長役場  
是迄証券印紙貼用ノ諸帳簿調査ノ際ハ該帳簿及(賣買)仕切書等不差出モノモ有之哉ニ相聞不都合ノ事ニ候自今調査受ヘキ諸帳簿及諸品賣買仕切書等無謂調査受サルモノハ掛リ官員臨時調査スル儀モ有之候條心得違之者無之様可致此旨相違候事

●明治十七年(五月)甲第五十六號  
本年五月第拾壹號布告証券印稅規則改正相成候ニ付証書帳簿へ印紙貼用ノ様式在ノ通被定候條此旨布達候事

金高記載ノ証書印紙貼用様式

証書差出人ノ印

証

印紙 印紙

一金何百何拾圓

右者、

年月日 何ノ誰殿

---

全 上

証書差出人ノ印

証

印紙 印紙

一金何圓何拾錢  
一金何拾圓

合金何拾圓何拾錢

右者、

年月日 何ノ誰殿

金高記載ナキ証書印紙貼用様式

証書差出人ノ印

何証文ノ事

印紙

今般何々

年月日 何ノ誰印

---

第一類帳簿印紙貼用様式

帳簿主ノ印

印紙 印紙

此帳簿附込期限 何年何月何日  
何年何月何日  
何年紙數何百何十何葉

年月日 何ノ誰印

第二類帳簿印紙貼用様式

第一類第二類帳簿附込印紙貼用様式

帳簿主ノ印

帳簿主ノ印

印紙 印紙

印紙 印紙

此帳簿附込見積金何千圓

此帳簿附込期限本年限

附込期限 何年何月ヨリ 何年紙數  
何百何十何葉

此帳簿附込見積金何千圓

年月日 何ノ誰印

附込期限 何年何月ヨリ 何年紙數  
何百何十何葉

年月日 何ノ誰印

●明治十七年(六月)甲第七十號

當座預金引出小切手押印出願及納稅手續左之通被定候條此旨布達候事  
一 當座預金引出小切手ニ稅印捺捺ヲ請フトキハ其枚數ヲ詳記セル書面へ小切手ヲ添へ直ニ主稅局へ差出スヘシ

一 主稅局ニ於テハ押印濟ノ上其枚數ヲ願人へ相達シ願人ハ此枚數ニ對スル稅金ニ左ノ雛形ノ通ナル預ケ証書ヲ添へ東京國庫金取扱所ニ差出該証書ニ稅金預リ濟証印ヲ受ケ小切手引換ニ同局へ上納スヘシ

小切手押印稅

一金 何 程

右現金何月何日東京國庫金取扱所へ相預ケ上納候也

年月日

何 何 銀行 又 何ノ誰

●明治十九年(六月)甲第三百三十三號

印紙類賣捌人心得左之通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス  
右布達候事

印紙類賣捌人心得書

第一項 規則第十四條ノ印紙受拂ハ第一號雛形ニ據リ帳簿ヲ調製シ租稅檢査員ノ檢査ヲ受クヘシ

第二項 但煙草及賣藥印紙ノ拂ハ第二項ニ據ルヘシ

第三項 煙草及ヒ賣藥印紙賣捌帳ハ第二號雛形ニ據リ調製無漏記載スヘシ

第四項 煙草印紙ハ印紙買入帳賣藥印紙ハ印紙買入鑑札所持セサルモノニハ賣渡ス可カラス  
規則第十三條ノ定價トハ印紙面ニ刷記ノ金額トス即チ壹錢印紙ハ壹錢ヲ以テ賣捌クヘシ

第八類 印紙

第五項 印紙ノ拂下ノ受ケタル者ハ自己ノ所有物ニ付其保管ト損害ノ責ハ一ニ所有者ノ負擔  
 タルヲ以テ規則第十五條ノ如ク亡失スルモ印紙代金ノ返付ヲ請求スルヲ得サル義ニ付豫テ  
 注意取扱フヘシ

第六項 規則第十六條ニ據リ損傷汚染セル印紙交換ヲ出願スルモノハ割引ノ計算ニ依リ端數  
 相生シ相當印紙下付シ得サルモノハ其交換ヲ許可セサルモノトス又交換下付スル印紙ノ種  
 類ハ假令ハ証券壹錢印紙拾枚ナルトキハ同印紙八枚ヲ下付スルモノニシテ他ノ種類ト交換  
 ナササハルヘシ

第七項 賣捌人一時旅行又ハ不在ノ節ハ家族或ハ代理人ヲ置キ賣捌ヲ爲シメ需用者ノ差支  
 ナキ様注意スヘシ

第八項 帳簿ハ賣捌免許中保存シ置クヘシ

第九項 煙草其他ノ印紙用紙トモ第一號雛形ノ前月ヨリ越高及ヒ拂受高賣捌高殘高等第三號  
 四號五號六號雛形ニ倣ヒ取調(一月四月七月十月)五日限リ所轄郡區役所へ差出スヘシ

廿三年一月縣  
 令甲第二號ヲ  
 以テ第十項ヲ  
 追加ス第二編  
 二百三十九丁  
 ニ記載ス

(第一號雛形)  
 明治何年從何月  
 明治何年至何月

何 印 紙 類 受 拂 計 算 簿

何(郡區)何(町村)何番地

印紙類賣捌人

某

元 受 ノ 部

月日	區別	種目	五厘	壹錢	貳錢	五錢	拾錢	廿五錢	五拾錢	壹圓
月日	越	高	何枚	何枚	何枚	何枚	何枚	何枚	〇	〇
月日	拂受	高	〇	何枚					何枚	何枚
月日	交換	受高		何枚						
計										
通計										

(備考)

- 一 月日ノ欄内ニハ拂受又ハ交換受ノ月日ヲ記載スヘシ
- 一 受ノ欄内ニハ越高及ヒ拂受交換受高等其都度記載スヘシ
- 一 月末ニハ小計ヲ朱記シ二ヶ月以上通計ヲ掲クヘシ
- 一 煙草賣藥其他ノ印紙用紙トモ皆此例ニ據ルヘシ
- 一 煙草賣藥ハ角印紙ト(長帶)印紙ト各別ニ記載スヘシ

拂 之 部

第八類 印紙





一 賣業印紙賣捌帳モ之レニ準據スヘシ  
第三号雜形

明治何年 自何月一日 至何月( )日 煙草印紙賣捌高表

種目	越	高	受取高	計	賣捌高	殘高
五匁	何拾何圓何拾何錢	〇	〇	〇	〇	〇
用	何拾何圓何拾何錢	〇	〇	〇	〇	〇
全何厘	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十匁何厘	〇	〇	〇	〇	〇	〇
用十匁何錢	〇	〇	〇	〇	〇	〇
何十匁何錢	〇	〇	〇	〇	〇	〇
何十匁何錢	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	何拾何圓何拾何錢	〇	〇	〇	〇	〇
角何厘	〇	〇	〇	〇	〇	〇
全何錢	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	〇	〇	〇	〇	〇	〇

右之通相違無之候也

年月日

(郡區)長名宛

何(郡區)何(町村) 印紙賣捌人

某印

(備考)

- 一 種目ノ欄内ニハ前々ノ賣捌殘ヲ所持スル種類及更ニ拂受ケタル種類ヲ記載スヘシ
- 一 越高ノ欄内ニハ每期書上ノ賣捌殘數ノ金圓ヲ記載スヘシ
- 一 受取ノ欄内ニハ每期三ヶ月間(郡區)役所ヨリ拂受ケタル數ノ金員ヲ記載スヘシ
- 一 賣捌ノ欄内ニハ前同斷ノ内需用人ニ賣捌キタル數ノ金員ヲ記載スヘシ
- 一 殘高ノ欄内ニハ越高受取高ノ内需用人ニ賣捌キタル分ヲ引去タル數ノ金員ヲ記載スヘシ

第四號雜形

明治何年 自何月一日 至何月( )日 證券印紙賣捌高表

種目	越	高	受取高	計	賣捌高	殘高
五厘	何拾何圓何拾何錢	〇	〇	〇	〇	〇
壹錢	〇	〇	〇	〇	〇	〇

第八類 印紙

五四七



(備考)  
一 都ヲ煙草印紙ノ部ニ全シ

(郡區)長名宛

何(郡區)何(町村)  
印紙賣捌人  
何 / 某印

年 月 日

右之通相違無之候也

計	何			五			貳		
	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
計	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

明治何年 自何月一 口手形用紙賣捌高表  
至何月(廿四)

(備考)  
一 都ヲ煙草印紙ノ部ニ全シ

(郡區)長名宛

何(郡區)何(町村)  
印紙賣捌人  
何 / 某印

年 月 日

右之通相違無之候也

種	約束 爲替	壹		貳		四		全		全		全		全	
		錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
種	約束	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
目	越	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
高	受	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
取	高	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
賣	捌	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
高	殘	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
高		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

第八類 印紙

五四九

明治何年自何月一日至何月(日)賣藥印紙賣捌高表

種目	越		高		受		取		高		計	賣	捌	高	殘	高
	角	長	角	長	角	長	角	長	角	長						
一厘																
二厘																
何厘																
何錢																
計																

右之通相違無之候也

何(郡區)何(町村)

印紙賣捌人

年月日

(郡區)長名宛

何

ノ

某印

(備考) 一 都テ烟草印紙ノ部ニ全シ

●明治十九年(七月)訓第十四號

從來金高記載ナキ諸物品(預り借用)証文ト雖正其利子ヲ付スヘキ契約(例ハ米壹石ヲ借リ  
 壹石壹斗ヲ返済スヘキ契約スルノ類)アルモノハ該物品ノ價額ヲ記載セシメ証券印稅規則  
 第二條第二類第三項若クハ第四項ニ準シ印紙貼用セシムヘキ旨及指令置候向モ有之候處右ハ  
 自今同則第一類第十項若クハ第十一項ニ準シ印紙貼用セシムヘシ  
 右相違候事

郡區 長

●明治二十年(十二月)縣令甲第百六十八號

印紙ヲ所持スルモノ左ノ場合ニ於テハ其同郡區内ニ在ル印紙賣捌人ヘ之ヲ賣渡スコトヲ得但  
 印紙類賣捌人ハ其買取リタル事由及賣渡人ノ住所氏名ヲ帳簿ニ詳記シ置クヘシ  
 一 印紙類賣捌人ニシテ明治十九年大藏省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則第十七條ノ項目ニ  
 該當スルトキ

一 印紙所持スルモノニシテ明治十七年(十一月)本廳甲第百五十號布達(民事訴訟身代限又ハ  
 税金不納公費ニ處スル等ノ件)ノ場合ニ該當スルトキ

一 遺失印紙ヲ拾得タルモノニシテ成規ニ據リ當該官署ヨリ其拾得印紙ヲ給付セラレタルトキ

●鑛山借區稅

●明治十一年(十一月)第百廿一號  
 鑛山借區稅之儀ハ坑業明細表ニ照シ一ヶ年分四割ニ計算取納致シ來候處來ル明治十二年一月

第八類 鑛山借區稅

ヨリ一ケ年分取細明細表合計ノ内ニ記入右表トモ翌年一月十日限リ相納候様可致此旨該營業人へ可相達候事

●明治十五年(九月)乙第八十二号

借區廢業者納税ノ儀從前本人出願ノ月迄徵收致來候處先般借區稅前納相成リ候ニ付テハ以來徵收期限前ニ於テ廢業出願ノ分ハ收税ニ不及旨其筋ヨリ達相成候ニ付此旨相達候事

●明治十六年(十一月)丙第六十四号

明治十四年九月第四十九號公布ヲ以テ日本抗法第八章第三十一款改正増補相成候ニ付テハ以來來意納スルモノアルハ二月一日ヲ以テ斷然証券取揚ケ營業禁止可致此旨相達候事

但本文ノ場合ニ於テハ税金徵收ニ不及候事

●明治十七年(二月)丙第十號

鐵山稅上納明細簿書式豫テ達置候處今般別紙ノ通り更正十六年度以降右ニ照準調製可致此旨相達候事

○前年ヨリ稼續キノ者十七年一ケ年分並一月ヨリ六月迄新規借區ノ分

○明細簿書式

明治十六年度鐵山稅上納明細簿

一金 若干

内 金 若干

税金五百坪ニ付一圓ノモノハ有鐵五拾錢ノモノハ無鐵質ノ部ニ組入ノ事

有 鐵 質  
無 鐵 質

郡 區 役 所

此 譯

借區許可年月 借區券号	國郡村字	鐵名	坪數	税金	明治十七年 一ケ年分	借區人名
					二月ヨリ十一月分 十二月迄	
					六月ヨリ七月分 十二月迄	

右之通有之候也

年 月 日

何 郡 區 役 所 印

○十七年七月ヨリ十二月迄新規借區ノ分 ○明細簿書式

明治十七年度鐵山稅上納明細簿

一金 若干

内 金 若干 ○前朱書ニ全

有 鐵 質

無 鐵 質

此 譯

前	全	全	全	全	全	明治十七年	借	區	人名
						七月ヨリ			
						十二月迄			
						以下	做	之	

右之通有之候也  
年月日

何郡區役所印

○銃獵稅

●明治十六年(一月)丙第五號  
 容歲大藏省第五十一號ヲ以銃獵稅則及ヒ第五十二號ヲ以テ酒造稅則心得書ノ內更正削除相成  
 候コ付右達ニ照準シテ可差出此旨相達候事

○所得稅

●明治二十年(五月)縣令甲第八十七號  
 所得稅調查委員會及調查委員選舉規則左之通相定ム  
 所得稅調查委員會規則  
 第一條 調查委員會ハ每年六月之ヲ開シ其開閉ハ郡區長之ヲ命シ會期ハ三十日以内トス(廿  
 一年縣令甲十四號ヲ以テ五月ヲ六月ト改ム)

但三十日以内ニ於テ調査ヲ了セサル事故アルハ郡區長ヨリ知事ニ具申シ其指揮ヲ得テ  
 延期スルコトヲ得

第二條 調查委員ハ會場ニ於テ充分意見ヲ陳述スルヲ得ルト雖モ人身上ニ就キ褒貶毀譽ニ沙  
 ルコトヲ得ス

第三條 會議ハ午前第九時ニ始マリ午後第四時ニ終ル時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルハ會長ノ指揮  
 ニ依ル

第四條 會員ノ席次ハ每會抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 會長ハ開會ノ當日下調査ヲ各會員ニ頒ツヘシ

第六條 發言セントスルハ會員ハ番號ヲ呼フヘシ

第七條 同時ニ二人以上發言センコトヲ求ムルハ會長ハ其ノ一人ヲシテ發言セシム調査上ノ  
 問答ト雖モ會長ニ向テ之ヲ爲ス可シ

第八條 一事件未ク終ラサルニ他ノ事件ヲ發言スヘカラス

第九條 會長ニ於テ調査既ニ盡キタリト認メ採決セントスルトキハ會員ノ發言ヲ許サス

第十條 可否ノ數ヲ算スルハ會員ヲ起立若シハ發聲ヲ以テ表セシムル等會長ノ便宜ニ任ス

第十一條 會員ノ意見數岐ニ亘リ其全意者出席會員ノ半數ヨリ多ラサルハ都テ一旦消滅ニ  
 歸シ更ニ意見ヲ起サシム

第十二條 再應意見ヲ起シテ尙過半數ヲ得サルノ場合ニ於テハ更ニ調査按ニ就キ可否ヲ決セ  
 シムヘシ

第八類 銃獵稅 所得稅

第十三條 會長ノ意見若クハ會員ノ請求ニ依リ種類ヲ分合シ又ハ調書ノ順序ニ拘ハラズマテ調査セントスルモハ會長之ヲ決ス

第十四條 出席會員ハ可否ノ數ニ入ラサルヲ得ス

第十五條 調査上必要ト認ムル場合アルモハ會長ハ其委員ヲ指名シテ派出セシムルヲ得

第十六條 開會中ハ會員漫ニ會場ヲ退クヲ得ス

第十七條 遲參ノ會員ハ會長ノ許ヲ得テ議席ニ着クヘシ

第十八條 會長ハ調査中會員ヲ制シ紀律ヲ守ラシメ又時宜ニ依リ會員ノ發言ヲ止ムルヲ得

第十九條 會員中疾病事故アリテ不參欠席若クハ歸省セサルヲ得サルモノハ其事由ヲ會長ニ届出ツヘシ

附則

會則第一條ノ開會ハ本年ニ限リ十月トス

所得稅調査委員撰舉規則

撰舉人撰舉

第一條 各町村若クハ數町部ヲ合シタル區域内ノ町村撰舉人ヲ撰舉セントスルモハ郡區長少クモ五日以前ニ人員及ヒ撰舉會ヲ開クヘキ時日ヲ定メ戶長ヲシテ其町村内ニ公告セシム

廿年縣令甲百四十八號ヲ以テ十日ヲ五日ト改ム

第二條 撰舉ノ投票ハ豫定ノ日戶長役場又ハ便宜ノ地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三條 撰舉人ハ戶長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被撰人ノ住所姓名年齢ヲ記シ豫定

ノ日之ヲ戶長ニ差出スヘシ戶長ハ其投票多數ヲ得タルモノヲ以テ當撰人トシ同數ナレハ年長ヲ取り同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 投票終ルノ後戶長ハ郡區長ノ公告シタル納稅人名簿ニ就キ資格ノ當否ヲ査定ス若シ法ニ於テ不適當ナルモノアルカ或ハ當撰人正當ノ理由アリテ辭スルモハ順次投票ノ多數ヲ得タルモノヲ取ル

第五條 (廿一年縣令甲三十七號ヲ以テ削除ス)

第六條 撰舉人ニ撰ハレタルモノハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第七條 戶長ハ當撰人ノ當否ヲ査定シタル後其當撰人タルコトヲ本人ニ通告シ承諾書ヲ徴シ郡長ニ届出ツヘシ

但當撰人ノ姓名ハ其町村内ニ公告スヘシ

調査委員撰舉

第八條 調査委員ヲ撰舉セントスルモハ郡區長ニ於テ豫メ撰舉會ヲ開クヘキ時日ヲ定メ少クシテ七日以前ニ之ヲ所轄内ニ公告スヘシ(廿年縣令甲百四十八號ヲ以テ十五日ヲ七日ト改ム)

第九條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日郡區役所又ハ便宜ノ地ニ於テ之ヲナスヘシ

第十條 町村撰舉人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及被撰人ノ住所姓名年齢ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多數ヲ得タルモノヲ以テ當撰人トシ同數ナレハ年長ヲ取り同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 投票終ルノ後郡區長ハ町村選舉人名簿及ヒ納税人名簿ニ就キ投票ノ當否ヲ査定ス  
 若シ法ニ於テ不適當ナルモノアルカ或ハ當選人正當ノ理由アリテ辭スルハ順次投票ノ多  
 數ヲ得ルモノヲ取ル(廿一年縣令甲十號ヲ以テ但書ヲ削除)  
 第十二條 郡區長ハ當選人ノ當否ヲ査定シタル後其當選タル者本人ニ通告シ承諾書ヲ徴ス  
 可シ

但シ當選人ノ姓名ハ所轄内ニ公告スヘシ

第十三條 調査委員中税法第九條但書ノ場合ニ遭遇スルカ又ハ其郡區ノ所轄外ニ轉任スルカ  
 其他總テ欠員アルハ補欠員ヲ以テ之ヲ代ラシム

第十四條 税法第十一條ノ場合ニ於テハ前任者ヲ再選スルコトヲ得

第十五條 補欠員ノ選舉ハ總テ調査委員選舉ノ手續ニ據ルヘシ

附則

會期第一條ノ開會ハ本年ニ限リ十一月中トス

明治廿年(六月)訓令甲第十二號

郡區役所 戶長役場

所得稅納人心算方備考別冊記付條條所轄人民ニ於テ心得違無之檢訓示スヘシ

所得稅納人必得方備考

一 所得稅法第一條ニ一箇年トアルハ年ノ一月ヨリ十二月マテ云フ凡此一箇年ノ間ニ於テ  
 金三百圓以上ノ所得アル人民ハ勿論米穀其他ノ品物ニテモ其價三百圓以上ニ當ル所得アル  
 モノハ此税法ニ據テ所得稅ヲ納ムヘキモノナリ其但書ニ戶主トアルハ戶籍法ニ於テ戶主隱

居ナト云フ戶主ニ非ス一ト住居ノ家ノ長ト云フ義ニシテ隱居ニテモ都廳住ニテモ一ト住居  
 ノ家ノ長ナルトキハ即戶主ナリ此戶主ト同居セル家族コシテ所得アルモノハ別々ハ之ヲ計  
 算セシ戶主ノ所得ト一同ニ合算シテ稅金ヲ取立ル住居ナリ故ニ戶主ニ三百圓以上ノ所得ナ  
 キモ同居セル家族ノ所得ヲ合算シテ三百圓ニ上ルモノハ所得稅ヲ納ムヘキモノナリ若シ或  
 ハ甲地ニ居住スルモノニシテ其父母兄弟ハ乙地ニ居住シテ各別ノ生計ヲ立テ各別ニ所得ア  
 ルモノハ自分ハ自分ノ所得ト同居セル家族ノ所得ト合算シ父母兄弟ハ父母兄弟各自ノ所  
 得ヲ合算スルモノト知ルヘシ(所得稅法第一條及ヒ所得稅法施行細則第一條第三條ヲ見合  
 スヘシ)

二 前ニモ陳ル如ク米穀其他ノ品物ニテモ其價三百圓以上ニ當ル所得アルモノハ所得稅ヲ納

ムヘキモノナルカ故ニ品物ニテ收入シ其儲貯藏スルカ又ハ其他ノ爲メ賣上代金ナキモノハ

相當ノ價格ヲ以テ其代金ヲ算出スルコト勿論ナリ(税法第二條細則第三條ヲ見合スヘシ)

三 税法ハ銀行會社共立ノ學校病院及ヒ組合營業等各人ノ集合体ニ收入シタル所得ニ課稅セ

ル其所得ノ分配ヲ受クル各人ニ向テ課稅スルモノナリ故ニ此分配ヲ受クルモノハ其受ケテ

ル所得ト他ノ自身ノ所得ト合算スヘキコト亦勿論ナリ

四 税法第二條ノ第一項ニ營業ニ非ル貸金、預ケ金、質屋、荷爲換業、荷受問屋及ヒ金貸業

業ニ非ナル者ノ貸付金又ハ預ケ金ヲ云フ又官私ヨリ受ケ休給、手當金、年金、恩給金、罰賦

賞與金トハ官廳、學校、銀行、會社、商店、工場其他各人ヨリ受ケル所ノモノ即休給、給金、貸

銀、月手當、豫定ノ規則又ハ約束ニ依テ受ル交際費、賞勵其他ノ年金、各種(第三條第一項ノ

外)ノ恩給金、社寺ノ割賦金。銀行、會社其他商店、工場等ノ賞與金其他是等ノモノト性質ヲ同フナル(名稱ノ如何ニ拘ラス)所得ヲ指スモノナリ凡第一項ノ所得ハ假令何等ノ元手、雜用ヲ費シテ之ヲ得ルモ直ニ其収入スル金高ヲ以テ所得ト爲スナリ(稅法第二條第一項ヲ見合スヘシ)

五 稅法第二條ノ第二項ニ資産ヨリ生スルモノトハ土地、家屋、船舶、馬車其他ノ動産、不動産ヲ入ニ貸付ケテ收入スルモノ、類ヲ云ヒ營業其他ヨリ生スルモノトハ農業、工業、商業及ヒ醫療、代官其他學術、技藝又ハ勞働ヲ以テ收入スル所ノ者ヲ云フ(所有ノ田地ヲ自分ニ耕作シ又ハ所有ノ船舶ヲ自分ニ使用シテ收入スルモノハ農業又ハ商業ヨリ生スル所得ニシテ資産ヨリ生スル所得ニ非ス他ハ皆之ニ倣ヒ區別ヲ爲スヘシ)都テ第二項ニ屬スル所得ハ其所得ヲ生スル資産又ハ業務ニ對シ賦課セラル、租稅其他ノ諸掛リ物ヲ始メ其所得ヲ收ムルニ必需ノ費用ヲ引去リ殘リタル金高ヲ以テ所得ト爲スナリ(稅法第二條第二項ヲ見合スヘシ)

六 左ニ各種ノ事業ニ就キ租稅其他ノ諸掛リ物ヲ始メ費用ヲ引去ル例ヲ示ス  
一 所有山林ノ材木ヲ販賣スル如キモノハ材木ノ代價中ヨリ其山林ニ係ル地租其他ノ諸掛リ物並ニ手入伐出シ等各種ノ費用ヲ引去ル然レトモ材木ノ儘ニテ販賣セス其材木ヲ器具ニ製造シテ販賣スル如キモノハ全年收入スル器具ノ代價中ヨリ前記ノ地租其他ノ費用ト器具製造ニ係ル費用トヲ併セテ引去ルナリ

一 所有ノ田畑ヲ耕ス如キモノハ其收穫物ノ代價中ヨリ其田畑ニ係ル地租其他ノ諸掛リ物、種代、肥代、耕作ニ使用スル牛馬ノ飼料、鋤鉤ノ修繕費、雇人アレハ其給料、食料等各種

ノ費用ヲ引去ルナリ

一 材木及ヒ金物等ヲ買入レ車ヲ製造シテ之ヲ賣ル如キモノハ車ノ代價中ヨリ營業稅及ヒ買入レタル材木、金物等ノ代價。製造場及ヒ製造用器械ノ修繕費。職工雇人アレハ其給料、食料、弟子アレハ其食料、仕着セ料等各種ノ費用ヲ引去ルナリ

一 米ヲ買入レ酒類ヲ製造シテ販賣スル如キモノモ亦前例ニ倣ヒ酒類ノ代價中ヨリ免許稅、造石稅及ヒ買入レタル米ノ代價。酒造場ノ造器械等ノ修繕費。杜氏、雇人アレハ其給料、食料等各種ノ費用ヲ引去ルナリ

一 商業者ノ如キハ品物賣上代ノ内ヨリ營業稅、品物仕入代、運賃、口錢、店舖及ヒ其商業上必要ナル器具ノ修繕費。雇人アレハ其給料、食料等各種ノ費用ヲ引去ルナリ

一 旅籠屋ノ如キハ賄料、茶代及ヒ酒肴料等營業上收入スル所ノ金員ヲ合計シ其高ノ内ヨリ其營業稅、旅客ニ供シタル米、魚類、菜蔬、味噌、醬油、酒肴、油、蠟燭、薪炭等ノ代價。客室及ヒ必要器具ノ修繕料其他旅客ノ待遇ニ係ル各種ノ費用。雇人アレハ其給料、食料等ヲ引去ルナリ

一 醫師ノ如キハ診察料、藥價、禮金、謝金其他營業ニ依テ收入スル所ノモノヲ合計シ其金高中ヨリ藥種、藥瓶等ノ代價。診察所、藥局及ヒ施療器械ノ修繕費。醫生、藥局生等アレハ其給料、食料其他業務上必需ノ費用ヲ引去ルナリ

一 所有地ニ桑ヲ植ヘ其葉ヲ以テ蠶ヲ養ヒ其繭ヲ賣ル如キモノハ其地ニ係ル地租其他ノ諸掛リ物、桑ノ肥代、手入費及ヒ種紙代、葉摘賃、養蠶場、養蠶用器具ノ修繕費等ヨリ繭ヲ

賣ルマテノ間ニ於ケル各種必需ノ費用ヲ引去ル然レトモ爾コテ之ヲ賣ラズ或ハ系ヲ製シテ之ヲ賣リ或ハ更ニ加工シ即緝ヲ織テ之ヲ賣ルモノ、如キハ前記費用ノ外製糸用器具ノ修繕費其他糸ヲ製シ之ヲ賣ルマテノ間ニ於ケル各種必需ノ費用又ハ機械遺具ノ修繕費等緝ヲ織テ之ヲ賣ルマテノ間ニ於ケル各種必需ノ費用ヲ引去ルコト勿論ナリ尤茲ニ製糸、機械トモ同一ノ場所ニ於テ之ヲ爲ルニ別々ニ其場所ヲ設ケ之ヲナストキハ次ノ例ニ從フヘシ

一 一人ニシテ甲乙丙三ヶ所ニ工業場ヲ設ケ甲場ニ於テハ船舶ヲ製造シ乙場ニ於テハ馬車ヲ製造シ丙場ニ於テハ紡績業ヲ爲スカ如シ又或ハ甲店ニ於テハ金貸業ヲ爲シ乙店ニ於テハ織物ヲ販賣シ丙店ニ於テハ家具ヲ販賣スルカ如ク各場別個ノ營業ヲ爲シ且損益計算ヲモ別々ニ立ルモノハ其個所毎ニ収入ノ金高中ヨリ營業稅其他ノ費用ヲ引去ルヘシ然レトモ若シ一人ニシテ探礦所、製鐵所各地ニ設ケ探礦所ニ於テハ鑛鐵ヲ採取シ鐵材ヲ造リテ之ヲ製鐵所ニ送り製鐵所ニ於テハ其鐵材ヲ以テ器械ヲ製造シテ之ヲ販賣スル等其事業相ヒ連申シ各所別個ニ計算ヲ立テ難キモノハ其總体ノ収入金高ヨリ各所ノ事業ニ係ル税金其他ノ費用ヲ引去ルナリ

七 都テ所得ヲ收入スルノ資料タル土地、建物、器械、雜具等ノ修繕費借料等ハ引去ルコトヲ得ルト雖モ之ヲ買入レ之ヲ建築スル等ノ費用ハ引去ルヘカラス又土地及ヒ農業(自己ノ所有地コトテ農業スルモノ)ノ所得ニ於テハ其地ニ係ル地租其他ノ諸掛リ物、貸屋ノ所得ニ於テハ家屋稅、船車ノ所得ニ於テハ船稅、車稅、酒稅ノ所得ニ於テハ免許稅、造石稅、商工業

ノ所得ニ於テハ營業稅等其所得ノ種類ニ依リ直接ニ賦課セラル所ノ國稅、地方稅、區町村費等ハ引去ルコトヲ得ルト雖モ其所得ニ直接賦課セラレサルモノハ引去ルヘカラス其他ハ皆之ニ倣ヒ事業外ニ屬スル負債ノ利子、雇人ノ給料、食料、仕着セ料ノ類、一家ノ生活ニ關スル費用、負債ノ償還ニ充テ元金。又ハ事業ヲ擴張シ若クハ之ヲ改良スル爲メ使用スル金圓等モ都テ引去ルヘキモノニ非ス

八 稅法第二條ノ第三項ニ前三年所得平均高ヲ以テ算出スルトハ譬ハ明治二十年ノ所得ハ明治十七十八十九ノ三箇年ニ於テ收入シタル所得高ヲ平均シテ計算ヲ立ル如キヲ云フ然レモ其但書ニアル如ク所得收入以來即創業又ハ轉業後三箇年ニ滿タサルモノハ始テ收入アリシ月ヨリ毎月ノ所得ヲ平均シテ之ヲ算出シ毎月ノ平均ヲ得難キモノハ他ノ同業若クハ類似業ノ利益ノ割合又ハ自己若クハ世間一般同一資本ヨリ取得スル利益ノ割合又ハ開業以來ノ景況ニ依リ將來ヲ推算スル等相當ノ入額ヲ算出スヘキ者ナリ左ニ一ニ例ヲ示ス(稅法第二條第三項細則第二條ヲ見合スヘシ)

一 資本金三萬圓ニテ營業シ明治十七年ニハ七分、十八年ニハ八分、十九年ニハ七分五厘ノ所得ヲ收入シタリ此所得ヲ平均スルトキハ一箇年七分五厘ト爲ル因テ二十年ハ三萬圓ニ七分五厘ヲ乘シ貳千貳百五拾圓ノ所得アルモノト算出スルナリ  
 一 前年五月壹萬三千圓ノ資本ニテ營業ヲ創メ爾來毎月ノ所得平均壹分即百三拾圓ツ、ヲ收入シタルトキハ本年モ同上ノ割合ニテ收入アルモノト爲シ其十二月分即千五百六拾圓ヲ以テ所得ト爲スナリ



一 資本金六萬圓ニテ營業スルモノ前三年間毎年資金ニ多少ノ増減アリテ明治十七年ニハ五萬三千圓ヲ以テ營業ヲ爲シ四十三百圓ノ所得ヲ收入シ十八年ニハ四萬八千貳百圓ニテ三千八百六拾圓ノ所得アリ十九年ニハ五萬貳千六百圓ニテ四千貳百三拾圓ノ所得アリシ如ク資金高一七セサルモノハ三ヶ年ノ資金合計高即拾五萬三千八百圓ヲ以テ所得金合計高壹萬貳千三百九拾圓ヲ割リ、得タル所ノ歩合即八分ヲ目安トシ之ヲ本年ノ資金高六萬圓ニ乘シテ算出シタル金高四千八百圓ヲ以テ本年ノ所得ト爲スナリ

一 前三箇年間ニ於テハ田地十五町歩ヲ有シ年々小作米百二十石ツ、ノ收入アリタルモノ本年ニ至リ五町歩ヲ減シタルトキハ残り十町歩ニ對スル前三箇年間所得ノ平均高即八十石ヲ其年ノ所得ト見積ルナリ

一 前三箇年ハ資本金拾萬圓ヲ以テ營業ヲ爲シ毎年ノ所得五分アリタルモノ本年資本金貳萬圓ヲ增加スルトキハ合計拾貳萬圓ノ資本ト爲シ之ニ五分ヲ乘シテ算出スヘシ

一 廻酒業ヲ爲スモノ本年船舶ヲ増加シタル如キハ前三箇年又ハ數箇月ニ於テ使用シタル船舶ノ積噸數又ハ積石數ニ對スル收入金ノ割合ニ基キ本年使用スル所ノ新舊總噸數又ハ石數ニ乘シテ算出スヘシ

一 車馬等ヲ以テ運送業ヲ爲スモノ本年車馬ヲ増加スルカ如キモ亦前項回漕業ノ例ニ準スヘシ

一 旅館等ニシテ客間ノ建増ヲ爲シタル如キハ從前ノ客間ノ坪數ヲ以テ前三箇年又ハ數箇月間ニ於ケル收入平均金高ヲ割リ其歩合ヲ得テ新舊客間ノ總坪數ニ乘シテ算出スル

ナリ

一 新クニ製造業ヲ創ムル如キモノハ製造場ノ構造及ヒ器械職工ノ員數等ニ對シ其年製造シ得ル物件ノ見込ヲ立テ他ノ振合等ニ依リ其代價ヲ算出スルナリ

一 新クニ農業ヲ創ムル如キハ隣地又ハ他ノ同等ノ土地ヨリ生スル收穫ヲ目安トシ自家ノ收穫物代價ヲ算出スルナリ

九 税法第三條ニアル一時ノ所得トハ豫メ心當テニシタルヲ無クシテ偶然ニ得ル所ノモノ即チ死者遺留ノ金銀物品又ハ他人ヨリ贈遺セラレ、所ノ金銀物品其他特ニ一時ノ功勞ニ對スル賞金、謝金ノ類ヲ指スヲ以テ診察料、藥價、代官料、著作料、翻譯料、染筆料其他學術、技藝ニ關スル諸般ノ報酬ニ屬スルモノハ假令謝金、禮金等ノ名義ヲ以テスルモ第二條第二項ニ屬スル所得ニシテ一時ノ所得トハ云フヘカラサルモノト知ルヘシ(税法第二條第三條ヲ見合スヘシ)

十 所得稅ハ毎年九月ト翌年三月トノ二度ニ納ムルモノナリ譬ハ本年ノ所得金高壹萬五千圓ナレハ税金三百圓ニシテ此三百圓ヲ前後半年ノ二ツニ割レハ百五拾圓ツ、ト爲ル即前半年分ノ百五拾圓ハ本年九月一日ヨリ同三十日マテニ之ヲ納メ後半分ノ百五拾圓ハ明年三月一日ヨリ同三十一日マテニ納ムルノ定メナリ(税法第五條ヲ見合スヘシ)

十一 三百圓以上ノ所得アルモノハ前ニ示セル振合ニ依リ其年ニ於テ所得スヘキ金高ヲ換算シ其種類別ケテ爲シ届書ヲ調製シテ毎年四月三十日(明治二十年ハ七月三十一日)マテニ本籍寄留ノ別ヲ問ハス現ニ其身ノ居住(以下居住ト云フモノ皆同シ)スル町村ノ戶長ヲ經テ其

郡區長ニ差出スヘキモノナリ之ヲ所得金高届ト云フ(税法第六條並ニ附則及ヒ細則第四條見合スヘシ)

十二 前ニ陳ヘタル如ク戸主ハ同居ノ家族ニ屬スル所得ヲ合算シテ税金ヲ納ムルノ義務アルモノナルカ故ニ所得金高届書ニモ彼此ノ所得ヲ合算シテ記載スルハ勿論他町村他郡區他府縣ニ於テ收入スル所得ヲモ合算シテ記載スヘキモノト知ルヘシ

十三 北海道沖繩縣等ノ如キ税法施行地外ニ居住シ施行地内ニ於テ收入スル所得アルモノハ所得アル地ニ納税管理人ヲ置キ管理人ヨリ其所得金高ヲ届出テシムヘシ又施行地内ニ住居シ施行地外ヨリ收入スル所得アルモノハ其所得ヲモ合算シ届出ルコト通常ノ手續ト同機ナリ(税法第二十九條但書細則第五條ヲ見合スヘシ)

十四 所得金高届書ニ金高及ヒ其種類ヲ記載スルハ左ノ例ニ從ヒ順次ニ合記シ或ハ分配スルモノナリ(細則第四條ヲ見合スヘシ)

一 税法第二條ノ第一項ニ屬スル所得ハ收入スル場所何レノ地ニ在ルカ問ハズ種類ノ同シキモノハ集計シテ一筆ニ記載(合記)シ種類ノ異ナルモノハ一種毎ニ記載(分配)スルモノナリ

譬ハ金祿公債證書ノ利子、海軍公債證書ノ利子、整理公債證書ノ利子ノ如キハ所得ノ種類同キカ故別々ニ記載セス集計シテ單ニ公債證書ノ利子ト合記シ同居ノ家族ニ屬スル公債證書ノ利子ヲ合算スル場合ニ於テモ自身ノ分ト家族ノ分トヲ合記スルナリ然レトモ公債證書ノ利子ト株式ノ利益配當金ト又ハ俸給年金ノ如キモノトハ種類全

ク異ナルカ故ニ順次別々ニ記載セサルヘカラス第一公債證書ノ利子第二株式ノ利益配當金第三俸給第四年金ト分配スルノ類ナリ

一 税法第二條第二項ノ資産ヨリ生スル所得ハ其種類及ヒ之ヲ生スル所ノ郡區トモ同シキモノニ限リ之ヲ合記シ種類又ハ郡區ノ異ナルモノハ之ヲ分配スヘシ

譬ヘハ同郡内ニ於テ甲村ニ小作人ニ貸付タル田地アリ乙村ニモ同上ノ田地及ヒ畑地アリ又同居ノ家族モ乙丙丁ノ各町ニ同上ノ畑地ヲ有シ各自貸地料ノ收入アルカ如キハ單ニ畑地貸付ノ所得ト合記シ此外甲村ニ貸家ノ所得アリ又或ハ乙郡ニモ丙郡ニモ小作人ニ貸付タル畑地ノ所得アル場合ニ於テハ第一甲郡畑地貸付ノ所得第二甲郡貸家ノ所得第三乙郡畑地貸付ノ所得第四丙郡畑地貸付ノ所得ト別々ニ記載スルノ類

一 税法第二條第二項ノ營業其他ヨリ生スル所得ハ其郡區種類ノ異同ヲ問ハズ都テ之ヲ分配ス

譬ハ同郡區内同種類ト雖モ甲町ニ洋服裁縫店アリ乙町ニ其支店アリ又丙町ニ書籍店丁町ニ筆墨店アルカ如キハ第一甲町洋服裁縫店ノ所得第二乙町同上支店ノ所得第三丙町書籍店ノ所得第四丁町筆墨店ノ所得ト各別ニ掲記スルノ類ニシテ其同町同村内ニ於ケルモ其場所ノ異ナルモノハ勿論同一ノ場所内ト雖モ所得ノ種類分別セルモノハ都テ分配スルモノナリ

以上ノ例ニ依リ更ニ彼此交渉スルモノヲ左ニ示ス  
警官ニシテ俸給ヲ受ケ公債證書ノ利子、株式ノ利益配當金(以上税法第二條第一項)

及ヒ貸家賃ヲ收入シ(第二項資産)傍々常人ノ病ヲ療シテ診察料及ヒ藥價ヲ受ケ又著  
譯ヲ爲シテ其ノ利益ヲ收入スル(以上第二項營業其他)カ如キハ第一公債証書ノ利子  
第二株式ノ利益配當金第三俸給第四貸家ノ所得第五診察料及藥價第六著譯ノ所得ト  
記載ス

株式ノ利益配當金ヲ受ケル(第一項)モノニシテ甲村ヨ自ラ耕ヘス田地甲乙丙三箇所  
(第二項營業其他)ト貸家甲乙二箇所トナ有シ又乙村ヨ貸家一箇所ト小作人ニ貸付ク  
ル田地甲乙二箇所(以上第二項資産)トナ有スルカ如キハ第一株式ノ利益配當金第二  
田地貸付ノ所得(甲乙二箇所集計)第三貸家ノ所得(甲村ノ甲乙二箇所ト乙村ノ一箇  
所ト集計)第四農業ノ所得(自耕田地甲乙丙三箇所集計)ト記載ス

甲府下甲區ニ居住シ公債証書ノ利子、株式ノ利益配當金ヲ受ケ(以上第一項)金貸營  
業ヲ爲シ(第二項營業其他)貸家二箇所ヲ有シ(第二項資産)乙區ニ於テ西洋小間物ノ  
卸賣ヲ爲シ(第二項營業其他)乙郡ニ田地アリ之ヲ小作セシメ丙郡ノ家屋ト船舶トナ  
人ニ貸與シ(以上第二項資産)更ニ乙縣某郡ニ鐵工場ヲ設ケ丙縣某郡ニ於テ鑛業ヲ營ミ  
(以上第二項營業其他)又同居ノ長男ハ別ニ公債証書ノ利子及株式ノ利益配當金ヲ收  
入シ社會ヨリハ俸給及賞與金ヲ受ケ餘金ヲ貯蓄銀行ニ預テ其利子ヲ收入シ(以上第  
一項)次男ハ商業學校ノ教員ニ俸給ヲ受ケ且公債証書ノ利子ト父ニ預タル金ノ利  
子トヲ收入スル(全上)カ如キハ第一公債証書ノ利子(父長男集計)第二預金ノ利  
子(長男次男集計)第三株式ノ利益配當金(父長男集計)第四俸給(長男次男集計)第五

賞與金(長男ノ分)第六甲區貸家ノ所得(二箇所集計)第七甲區金貸業ノ所得第八乙區  
西洋小間物卸賣ノ所得第九乙郡田地貸付ノ所得第十丙郡貸家ノ所得第十一丙郡船舶  
貸付ノ所得第十二乙縣某郡鐵工場ノ所得第十三丙縣某郡鑛業ノ所得ト記載スルナリ  
以上陳ヘタル如ク所得ノ種類ニ依リテハ之ヲ分記スヘシト雖モ數箇ノ工場商店ヲ置キ  
一所ニ於テ經濟及ヒ損益ノ計算ヲ爲シ又ハ一店ニシテ數種ノ營利事業ヲ爲スガ如キモ  
ノニシテ各種混同シテ分記シ難キ場合ニ於テハ混同ノ儘ヲ記載スヘシ其一例ヲ示ス  
左ノ如ク

甲乙丙三箇所ノ工場ヲ設ケ甲場ニ於テハ製造ニ供スル材料ヲ買入レ之ヲ乙場ニ送致  
シ乙場ニ於テハ其材料ヲ以テ器械ヲ製造シ丙場ニ於テハ之ヲ販賣シ其賣上代金ハ甲  
場ニ於テ之ヲ勘定シ各場ノ費用モ都テ甲場ヨリ支辨スル如キモノハ某何地工場外分  
場何箇所何工業ノ所得ト合記スヘシ

十五 前ノ如ク所得金高ハ順次ニ記載シ稅法第二條ノ第二項ニ屬スルモノハ其種類毎ニ引去  
リタル費用金高及ヒ其名稱ヲ外書ト爲スコト勿論ナリ(細則第四條ヲ見合スヘシ)

十六 居住地外ノ郡區又ハ他府縣ニ於テ收入スル所得アルモノハ其金高及ヒ種類ヲ記載シテ  
所得アル地ヲ管轄セル郡區長ニ届出ルモノナリ此屆ハ其郡區内ニ於テ生スル所得金高ト之  
ニ係ル所得税金ノ納メ場所トナ郡區長ニ報告スル爲メ差出スモノニシテ之ヲ稱シテ所得稅  
納入地届ト云フ此届書ニハ各其郡區内ニ於テ所得スルモノ、ミナ記載スヘキモノナリ(居  
住地ノ郡區長ニ差出ス所得金高屆ハ之ニ反シ前ニ陳ヘタル如ク各地ノ所得ヲ悉ク列記スル

ナリ但細則第六條ヲ見合スヘシ

十七 所得稅納入地届ニ所得ノ金高及ヒ其種類ヲ記載スル方法ハ所得金高届ト異ナルコトナシ(全上)

十八 稅法施行地外ニ居住シテ施行地内ニ所得アルモノ又ハ施行地内ニ居住スル納稅者ニシテ内國又ハ外國ニ旅行セントスルカ若クハ外國又ハ施行地外ニ寄留セントスルトキハ施行地内ノ所得アル郡區ニ於テ納稅管理人ナルモノヲ置キ自己ノ所得稅ニ關スル諸般ノ代理ヲ爲サシムヘキモノナリ其氏名住所ハ豫メ其町村ノ戸長ヲ經テ郡區長ニ届出置クコト勿論ナリトス尤數郡區數府縣ニ亘リテ所得アルモ管理人ハ其郡區其府縣毎ニ置クニ及ハス便宜ノ地一箇所ニ置テ差支ナシ(管理人ヲ置カサル郡區内ノ所得ニ係ル納入地届ハ此管理人ヨリ差出スモ亦便宜其地方ノ住人ニ委託シテ之ヲ爲サシムルモ可ナリ)他郡區他府縣ノ所得ハ一箇所ニ集算シテ所得金高届ヲ爲サシメ稅金ヲモ納メシムルナリ左ニ管理人ヲ置クノ例ヲ示ス(細則第五條ヲ見合スヘシ)

- 一 北海道ニ居住シ東京ニ於テ收入スル所得アルモノハ東京ニ管理人ヲ置キ。沖繩縣ニ居住シ大坂ニ於テ收入スル所得アルモノハ大坂ニ管理人ヲ置クノ類
- 一 東京ニ居住シ東京ニ於テ收入スル所得アルモノニシテ長崎又ハ朝鮮ニ旅行セントスルトキハ東京ニ管理人ヲ置キ。大坂ニ居住シ大坂又ハ神戸ニ於テ收入スル所得アルモノニシテ東京又ハ米國ニ旅行セントスルトキハ大坂ニ管理人ヲ置クノ類
- 一 神戸大坂東京又ハ函館ノ數箇所ニ於テ所得アルモノニシテ英國又ハ前館ニ寄留セント

スルトキハ神戸大坂東京ノ内便宜ノ地ニ管理人ヲ置キ。又ハ長崎、下ノ關若クハ沖繩縣ニ於テ收入スル所得アルモノニシテ支那又ハ沖繩縣ニ旅行セントスルトキハ長崎下ノ關ノ内便宜ノ地ニ管理人ヲ置クノ類

十九 所得稅納期前他ノ郡區役所轄地内ニ轉住スルトキハ先ツ轉住スヘキ場所ヲ記載シ現居住町村ノ戸長ヲ經テ其郡區長ニ届出テ又其轉住先ノ郡區長ニモ其場所ヲ記載シ轉住町村ノ戸長ヲ經テ届出ルモノナリ但此届書ニハ雙方トモ通常ノ轉住届ト見分ケ易カラシメンカ爲メ所得稅納入タルヲ簡明ニ標記シ置クヘシ(細則第八條ヲ見合スヘシ)

二十 稅法及細則中、郡區役所、郡區長トアルモノハ島廳、島司ニ之ヲ適用スルコト勿論ニシテ此備考中ニ於テ郡區役所、郡區長ト云フモ亦同様ナリ

二十一 納稅者郡區長ヨリ等級及ヒ稅金額ヲ達セラレタルトキ若シ其等級等ノ定メ方ヲ不當ナリト思ヒ府縣知事ニ其事ヲ申出スルモハ其達ヲ受取タル日ヨリ起算シ二十日以内ニ府縣廳ニ書面ノ到達スヘキ日取テ以テ差出スヘシ若シ此日限ヲ過キテ申出ルトキハ受理セラレサルヘシ又行ノ申出ニ依リ一旦府縣知事ノ處分ヲ受ケタルモノハ假令不服ナルモ再ヒ申出ルコトヲ得サルカ故ニ成ルヘシ速ニ充分ナル理由ヲ調製シ金高明細書及ヒ事實ノ證據ト爲ルヘキモノヲ添付シテ申出ルコト肝要ナリ(稅法第十九條ヲ見合スヘシ)

二十二 調査委員會又ハ常置委員會ヨリ呼出サレ又ハ自己ノ家宅等ニ就テ所得ニ關スル事柄ヲ尋問セラルトキハ充分ニ答辨ヲ爲シ且證據トナルヘキモノハ其閱覽ニ供スルコト勿論ナリ尤呼出サルハトモ往返滯留ノ費用ハ自辨ノ事ト知ルヘシ(稅法第二十一條ヲ見合スヘシ)